



女子
日本
地理
参考
書
全

小林
杖吉
著

大阪

田中
宗崇
堂
發行

253
15
560

特
7

022981-000-7

特61-782

日本地理参考書(女子)

小林 杖吉/編

M40

ADB-0924



特61
782

小林杖吉著作

子女
日本地理参考書

大阪

田中榮堂發行

40 9 14

内交

女子日本地理参考書

目次

總説	一	埼玉縣	二
帝國の位置及び境域	一	千葉縣	一六
帝國の廣表及び面積	二	茨城縣	一八
帝國の地勢及び海岸	三	栃木縣	二一
帝國の氣候及び天産物	四	群馬縣	二三
帝國の區劃	四	奥羽地方	二五
特説	五	福島縣	二八
關東地方	五	宮城縣	三一
東京府	八	岩手縣	三三
神奈川縣	一一	青森縣	三五
		秋田縣	三七
		山形縣	三九

例言

この書は、高等女學校及びこれと同程度の公私立女學校に於ける、生徒の参考書たらしめんがために、編纂したものである。從來、この種の書冊は、世に乏しくないけれども、或は高尙に失し、或は實地に遠ざかり、いづれも教科書との連絡を缺いてゐるやうだ。これは全く中學校と高等女學校との共通参考書たらしめんとしたる結果に外ならぬをば、いふまでもない。

この書は、如上の缺點なからしめんを期して、主として高等女學校教授要目に準據し、なほ、現行の教科書をも參酌して、編纂したものである。

この書、もとより、吾人の理想の一部分を發表したまでであるから、未だ完全無缺とは、自らもいひ得ぬ。但し不備の點と印刷上の誤謬とは、従つて發見せば、従つて訂正する決心である。

明治四十年夏

編者 識す

本州中部地方……………四〇

長野縣……………四五

新潟縣……………四八

山梨縣……………五〇

静岡縣……………五二

愛知縣……………五六

岐阜縣……………五八

富山縣……………六一

石川縣……………六三

福井縣……………六五

近畿地方……………六七

滋賀縣……………七〇

京都府……………七三

大阪府……………七六

奈良縣……………七八

三重縣……………八〇

和歌山縣……………八二

兵庫縣……………八四

中國地方……………八八

鳥取縣……………九二

島根縣……………九四

岡山縣……………九六

廣島縣……………九九

山口縣……………一〇一

四國地方……………一〇三

德島縣……………一〇六

香川縣……………一〇八

愛媛縣……………一〇九

九州地方……………一一三

福岡縣……………一一六

佐賀縣……………一二八

長崎縣……………一二〇

熊本縣……………一二二

大分縣……………一二四

宮崎縣……………一二五

鹿兒島縣……………一二六

沖繩縣……………一二九

臺灣總督府……………一三一

北海道廳……………一三四

樺太廳……………一四〇

韓……………一四四

遼東半島租借地……………一四八

附 錄

政治機關……………一五〇

條約國名……………一五〇

開港場……………一五一

海軍管區……………一五一

軍艦名……………一五二

陸軍配備表……………一五四

目 次 を ば り

女子
日本地理参考書

總說

帝國の位置及び境域

わが帝國は、アシア大陸の極東部に位し、北東から斜に長く南西に連り、丁度、大陸の外廓状をなせる一鏈の群島から成つてゐる。

北及び西

北及び西は、北極海、日本海、東支那海を隔て、露領シベリア、韓皮

東及び南

東及び南は、太平洋に臨み、遙に南北アメリカ及び南洋諸島に對し、特に一衣帯水のバシ(巴比)海峡によつて、北米合衆國領のフィリピン群島に向ひ、呼ばば將に應へんとする。



小林 杖吉 編

四端

北、アライト島北端、北緯五〇度五六分	東、 ^{シムシユ} 占守島東端、東經一五六度三二分
南、臺灣南岬南端、北緯二一度四八分	西、澎湖島花嶼西端、東經一一九度二〇分

帝國の廣袤及び面積

わが國は、五大島、南樺太及び五百有餘の群島から成り、地形狹長であつて、その幅の廣いところでも、僅に六〇里に過ぎないが、長さは、ざつと、一、二〇〇餘里に亘り、全面積二八、九〇二方里である。詳説すれば、

- 本州 豆南諸島、佐渡及び隠岐を除く) 一四、四九二方里
- 四國 淡路島を除く) 一、一五一方里
- 九州(豊岐、對馬及び琉球諸島を除く) 二、三一二方里
- 北州 千島群島を除く) 五、〇五七方里
- 臺灣 澎湖群島を除く) 二、二五三方里
- 樺太(南部) 一、八四〇方里
- 附屬諸島 一、七九七方里

【備考】 保護領地なる韓國の面積は約一三、〇四〇方里。もし、これをも通算するときは、我が國の總面積は四一、九四二方里となる。この他清國遼東半島の南端には、わが租借地がある。その北界は、西岸のアダムス灣から、東岸貔子窩の北に至る一線である。

帝國の地勢及び海岸

わが國の地勢は、次の二大山系と大火山脈とから成り、河流は概ね短く、且、流勢急である。又海岸線の長いとは、國土の面積に比して、世界無比と稱せられ、延長約七、六〇〇里。

二大山系

- 樺太山系
 - 天鹽山脈、日高山脈、北上山脈、阿武隈山脈
 - 奥羽山脈、越後山脈、關東山脈
- 崑崙山系
 - 九州南部山脈、九州北部山脈、四國山脈
 - 紀伊山脈、赤石山脈、飛驒山脈

大火山脈

- 富士火山脈、那須火山脈、千島火山脈
- 阿蘇火山脈、霧島火山脈

わが國の水系は、五個の斜面區域に大別するこゝが出来来る。

- (一)オホーツク海斜面……………常呂川、ホロナイ川
- (二)日本海斜面……………石狩川、信濃川

- (三) 東支那海斜面……………筑後川
- (四) 瀬戸内海斜面……………淀川
- (五) 太平洋斜面……………利根川

帝國の氣候及び天産物

我が國の大部は、溫帯に位してゐるので、氣候は、概して溫和であるけれども、南北兩地を比較したならば、甚だしい差違がある。又、夏は、南東風多くして、太平洋岸は、雨量が多いけれども、冬は、北西風多くして、日本海岸は、降雪の量が多い。かくの如くに、氣候風土が一様でないために、動植物も、自然異ならざるを得ない。要するに、概して、穀物、よく生育し、百果豐熟する。又、山岳の多いために、種々、貴重なる礦物が埋れてゐて、殆ど無盡藏である。

帝國の區劃

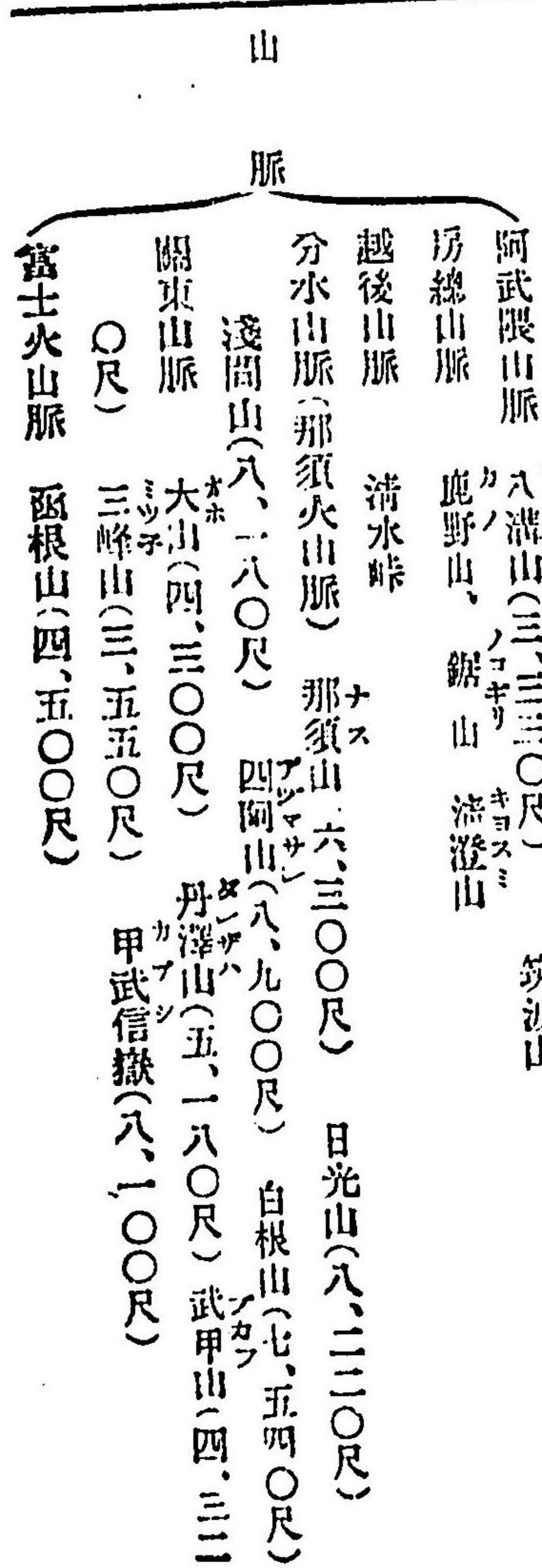
日本帝國は、臺灣及び樺太を除き、全國を一道、三府、四十三縣に分け、その下に、郡、市、區、町、村がある。又、城内を八十五國に分け、更に、これを畿内八道とす。但し、臺灣には道の稱なく、目下二十廳を置き、樺太には民政署を設け三支廳を置く。

特 說

關東地方

本州の南東部を占めてゐる平原地方。形狀、略、四角形をなし、西北は山脈を負ひ、東南は太平洋に面してゐる。

房總半島、三浦半島南方に突出し、東京灣、相模灘を抱いて、東方には、犬吠岬突出して、北方を鹿島灘、南方を九十九里瀆とする。半島部以外は、大抵、砂濱であつて、且、低平である。



概括

河 平 氣 交

湖 野 通

利根川 (七十二里) 太平洋に注ぐ。
 荒川 (四三里) 東京灣に注ぐ。
 多摩川 (三八里) 東京灣に注ぐ。
 馬入川 相模灣に注ぐ。
 霞ヶ浦 (周囲 三六里)、北浦 (一五里) 常陸
 牛久沼 (六里) 常陸
 印旛沼 (一二里)……下總 蘆ノ湖 (四里三二丁) 相模

利根川以下の流域四〇餘里の大平野は、地味肥沃、耕種に適してゐる。いはゆる關東平野であつて、實に本邦第一の大平野。
 候：概して溫和である。

東海道、
 中山道、
 甲州街道、
 奥州街道、
 濱街道、
 東海道線 南西に走る。
 中央東線 甲武鐵道線 西に走って中央東線と連絡する。
 高崎線 北東走って信越線と連絡する。
 東北線 北東地方に通じてゐる。
 海岸線 東武鐵道線等

區

劃

東京府 (武藏の一部、伊豆諸島、小笠原諸島)
 神奈川縣 (武藏の一部、相模)
 埼玉縣 (武藏の一部)
 千葉縣 (安房、上總、下總の大部)
 茨城縣 (常陸、下總の一部)
 栃木縣 (下野)
 群馬縣 (上野)

航

路

神戸小樽東廻線
 横濱四日市線
 小笠原島線
 その他近海地方との航路多し。

東京府 面積一三八方里 人口一、五〇六、二五五

菅	武藏の内	東京都	三原山	忍風池	靖國神社	大島、新島	米	絹織物
轄	八郡	八王子	江月川	屏風池	上野公園	神津島、御倉	麥	洋紙
都會	伊豆大島	大森	隅田川	不動池	芝公園	宅島、利島	野菜	絹織物
山川	外六島	青梅	多摩川	小河内温泉	日比谷公園	島、利島	茶	洋紙
湖、澤、温泉	小笠原島	品川	飛鳥山	日向島	飛鳥山	東京灣	梨	洋紙
社、寺、名所	(在地)	千代田	多摩川	飛鳥山	飛鳥山	東京灣	芭蕉	洋紙
海岸		佳川	多摩川	飛鳥山	飛鳥山	東京灣	鳳梨	洋紙
産物			多摩川	飛鳥山	飛鳥山	東京灣	鳳梨	洋紙
製作物			多摩川	飛鳥山	飛鳥山	東京灣	鳳梨	洋紙

(武藏の八郡) 荏原、豊多摩、北豊島、南足立、南葛飾四多摩、南多摩、北多摩。

(伊豆の七島) 大島(島廳所在地)、利島、新島、神津島、三宅島、御倉島、八丈島(島廳所在地)

東京市の十五區 麹町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤阪、四谷、牛込、小石川

本郷、下谷、浅草、本所、深川。

東京市の沿革 今から三百年前は、武蔵野と稱する荒原であつて、太田道灌の城いた

小さい一つの城があるのみであつたが、徳川家康が江戸城を築き、三百諸侯の邸宅を置かせてから日々に繁榮にもむき、維新のはじめ帝都を遷されたからは、政治、學問、經濟、交通の一大中心となつた。

靖國神社 東京市麴町區富士見町にある別格官幣社。維新前後、王事に勤めた殉難者お

よび陸海軍の戦死者が祀つてある。東山招魂社ともいふ。

泉岳寺 東京市芝區高輪町にある。曹洞宗萬松山と號し、門庵和尚の開いた寺。境内に

は赤穂城主 浅野長矩と、その臣、大石良雄以下四十六人の墓がある。

上野公園 東京市下谷區忍ヶ岡にある。東叡山寛永寺のある所。實に、十六万九千餘

坪。徳川吉宗將軍等の殯廟、東照宮、動物園、博物館、圖書館等がある。この地は、明治六年三

月開いて公園となしたもので、維新の際、彰義隊の據つた所である。

國のため民のためとてひとり身を

しのぶが岡にすみぞめの袖

芝公園 東京市芝區の中部に位する一丘陵の上にある有名なる公園。面積十四万六千餘

坪。境内には、増上寺(徳川秀忠の殯廟)、紅葉館、東京府勸工場、彌生館等がある。明治六年六

月の開設。

草淺公園 東京市浅草區にあるもの。面積九万六千餘坪。大さ、上野、芝に次ぐ。明治

六年の開設。境内には有名なる淺草寺センサウジがあつて、その背後には、水族館、花屋敷、淺草園、バナ
ラマ館等をはじめ、いろいろの興行物があつて、常に雑沓を極めてゐる。

日比谷公園 東京市麴町區にある公園。もと、日比谷練兵場を改築したもので、實に、
明治三十六年六月の開設に係る。面積五万千餘坪、この公園は、西洋各國の風を参照して、つく
つたもので、最も、理想的にこしらへたものであること。

向島、飛鳥山アスカヤマ 向島は、又、墨堤ともいふ。隅田川の東岸であつて堤上數里の間、櫻
の樹が連り、花時の風景は何ともたごへがたがない。兩岸に待乳山、淺草寺、梅若、白髭等の名
勝がある。飛鳥山は、北豊島郡王子村にある名所。丘上には、櫻樹甚だ多く、花候には遊客雜沓
す。

上野の花に日ぐらしや明日は淺草飛鳥山アスカヤマ 内 遠
心々にむかふしまはるの遊ぞのどかなる
花の雲鏡は上野の淺草か 芭 蕉

神奈川縣

面積一五〇方里
人口一、〇四二、二五〇

管轄	武藏の内 二市三郡	横濱市 横須賀市 小田原 豊島 浦賀 藤澤 三國府 相模 八郡	都會	山 川	湖 澤、温 泉	社、寺、名 所	海 岸	天 産 物	製 造 物	
		丹澤山 大井山 函根山 馬入川 多摩川 酒白川		蘆湖 比叡湖 調水 河内 神西 下ノ山 兩根湯		兩降神社 鶴岡八幡宮 鎌倉長壽寺 建長寺 遊長寺 鎌倉江ノ寺 鎌倉金澤八景		眞音崎 觀音島 江ノ島 城ノ島 三浦半島 相模灣 東京灣	麥 米 粟 櫻 材 魚 木 草	陶器 漆器 漆器 挽物細工

津久井、愛甲。
(武藏の三郡)久良岐、橘樹、都筑、(相模の八郡)三浦、鎌倉、高座、中、足柄上、足柄下

横濱市の沿革 今から、およそ、五十餘年前までは、金川字横濱といつて、葦の葉が
風に 戦く漁村であつたけれども、安政六年開港以來、丘陵を削り、海を埋め、新道を開き、鐵
道を布き、市區を修理し、幾多の改築工事を施したので、町並正しく、今日の盛況を見るに至つ
た。殊に、近年港底を浚へた爲、一層の良港となり、二万噸以上の大船も、入港し得るやうにな
つた。

函根山

相模國足柄下郡の西南に位する山。その脈延きて伊豆に跨り、分れて數峯なる。東海道第一の難所と稱せられ、昇降八里。山上に蘆の湖、山下に温泉がある。いはゆる函根七湯である。むかし、この山に關門が設けてあったから、關東、關西の稱が起った。東海道鐵道も、この難所を避けて、北方の峽間、御殿場を迂迴してゐる。古來天險の地と稱し、英雄爭權の根據地であつたが、今は、都人士の入浴避暑地と變つた。

函根七湯

湯本、塔の澤、宮の下、堂ヶ島、底倉、木賀、蘆の湯。

蘆の湖

函根山頂の舊噴火口である。周囲四里三十町、山紫水明で避暑地としては、この上もない。湖の畔に離宮の設がある。

たまくしげ函根の山の峯ふかく

慶融

みつうみはれてすめる月かけ

鎌倉

相模國鎌倉郡にある舊地。地勢狹隘であるけれども、戰國時代には、頗る要害の地であつたやうだ。源頼朝が幕府をこの地に開き、天下兵馬の權を集めてから、北條氏の執政これに代り、又、足利氏の關東管領これに次いだので、承らく政治の中心地となり、一時繁盛を極めた。今、頼朝屋敷跡、北條屋敷跡、源頼朝、大江廣元の墓など、遺跡が多くある。

鎌倉大佛

建長四年の鑄造。高さ三丈五尺、蓮座の周圍三丈五尺、本堂は海嘯のために洗ひ去られ、今は、風雨のさらすにまかせてある。

長谷觀音

丈二丈六尺の十一面觀音。大和の長谷と信濃の長谷とを加へて、日本の三長谷の名がある。

鎌倉五山

建長寺、圓覺寺、壽福寺、淨智寺、淨妙寺。

鎌倉宮

明治二年の創設。官幣神社、護良親王を祀る。社殿の背後には、足利直義が、親

王を幽閉し奉つた、土牢がある。土牢の深さ一丈五尺、底に入壘を敷くことが出来る。建久二年遊臣洲邊義博、直義の命を受けて、親王をこの牢の中で弑し奉つた。

鶴岡八幡宮

應神天皇、神功皇后、大仲媛命を祀る。源頼朝が、康平六年由比ヶ濱の鶴岡

に勧請し、建久四年頼朝これを鎌倉の地に移した。その神樂殿は、義經の妾靜が、頼朝の命によつて舞を奏したところ。石燈の傍なる銀杏樹下は、鶴岡の別當公曉が實朝を弑せんとし

久里濱

浦賀の南海濱を久里濱といふ。嘉永六年、北アメリカ合衆國の水師提督ヘリー(Perry)の上陸したところ。今、ヘリーの上陸記念碑が建てられてある。

金澤八景

洲崎の晴嵐、瀬戸の秋月、小泉の夜雨、乙艦、歸帆、稱名寺の晚鐘、平潟の落雁、野島の夕照、内川の暮雪。

江の島

鎌倉の西方、約二里の海岸にある小島。周囲半里。西に富士山を仰ぎ、南に三原山を望み、風景いはん方なし。島中に、辨財天を安置して、殿島、竹生島と併せて、日本三所

の辨財天と稱へられてゐる。島中数多の岩屋があつて、奇妙な岩や、危い石がつんぐ立ちならんでゐる。この島から、貝細工を出し、又、鮑を産す。

埼玉縣 面積 二四九方里 人口 一、二三八、九四八

管轄	都	會	山	川	瀑・温泉	社、寺、名所	天産物	製造物
武藏の内 九郡	浦大熊川	和宮谷越	荒江利三甲武 戸根峰武甲 川川川山岳山	山柴丸逆障小 田原神卷子下 温温温瀑瀑瀑 泉泉瀑瀑瀑	霞ヶ淵舊址	熊谷寺 氷川公園 牛島ノ藤	米 麥 大豆 藍 越芋 石炭 石灰石	生絲 絹織物 綿織物

(武藏の九郡)北足立、入間、比企、秩父、見玉、大里、北埼玉、南埼玉、北葛飾。

氷川神社、大宮公園 北足立郡大宮町にある官幣大社。祭神は素戔嗚尊、大己貴命、稻田姫命の三神。武藏國中第一の古祠。明治元年當社を武藏國の鎮守と定められた。本國の一の宮。境内は有名なる大宮公園で、その廣さ約二万坪、松、杉、櫻等の樹木鬱蒼としてゐる。池沼

茶亭、酒樓などもあつて、四時、都人士の遊園地。

逆巻瀑 秩父郡大瀧村大字中津川にある瀑。小神流川の上流、高さ五十丈、幅およそ五間、中津川に注ぎ荒川に入る。

農産物

本縣には、農産物豊かで、殊に、大麥の産額は、日本第一である。小麥及び大豆の産額も多い。全國の大麥産額の内、本縣、茨城縣及び千葉縣の比額は次の通である。

全國	八、六〇〇、〇〇〇石	(百分率)一〇〇、〇
埼玉縣	七九〇、〇〇〇石	九、〇
茨城縣	七〇〇、〇〇〇石	八、〇
千葉縣	六二〇、〇〇〇石	七、〇

千葉縣 面積 三二五方里 人口 一、三〇八、五三九

管轄	安房 一部	千葉	都會	山川	湖、瀑、溫泉	社、寺、名所	海岸	產物	
	上總 五郡 下總 六郡	千葉 銚子 佐原 木更津 佐倉 館山 成田 北條		清野山 鹿野山 鹿野山 鹿野山 利根川 江戶川	印旛沼 手賀沼 鳥喰沼 三ヶ尾 上ヶ尾 湯ヶ尾 高崎溫泉	香取神社 宗吾堂 成田不靈寺 誕生寺 清生山 鹿野山	富津洲 犬吠崎 野島嶺 九十九里 房總半島 東京灣	米 麥 牛 馬 豚 房州砂 天產物	銚子縮 行德鹽 野田醬油 佐原酒 流山味噌 捲炭 佐倉節 總節

(安房の一部)安房、(上總の五郡)君津、夷隅、市原、長生、山武、
 (下總の六郡)千葉、東葛飾、印旛、香取、匝瑳、海上。

鹿野山、鋸山 鹿野山は、君津郡の中央に峙ち、海拔一、一六二尺。山中に九十九谷の勝がある。避暑の好地と稱せられてゐる。
 鋸山は、一名、妙金山。又、限山といふ。安房の北西隅に立ち、海拔一、〇八一尺。鷲翼山、日輪山、月輪山、瑠璃山等の數峯にわかれ、山骨露出して、鋸の齒に似てゐるので、鋸山の稱がある。房州石の産地として名を知られてゐる。

白雲のたなびき、れて鋸の 謙光
 山のすがたはあらはれにけり

印旛沼、手賀沼 印旛沼は、下總の印旛郡、東葛飾の二郡に沿うてゐる大湖。東西約二里、南北約七里、周囲十二里、南北の兩沼に分れてゐる。手賀沼は印旛沼の西北方にある湖、東西三里、南北三十町餘。これ等の湖沼は、往古海水の遺物で、河流の泥砂と、土地の隆起とに由つて、形成せられたものである。

香取神宮、成田不動 香取神宮は、下總の香取郡にある官幣大社。祭神經津主神。我が國最古の神社の二で、境内廣瀨社殿宏壯である。成田不動は、天慶の亂に、朱雀天皇、俯寛朝に命じ、朝敵降伏の法を修せしめ給へるところ。

茨城縣 面積 三九八方里
人口 一、一九九、二〇五

管轄	都會	山川	湖、瀑、溫泉	社、寺、名所	海岸	產物	製造物
常陸一市一郡	水戸市	筑波山、八溝山、利根川、那賀川、久慈川、鬼怒川、小貝川	霞浦、北浦、久沼、久沼、袋井、大洗、鹿島	鹿島神社、久沼寺、常磐公園、勿來關址、筑波山	大洗崎、鹿島灘	米、大豆、茶、燐石、燐肥、花崗石、寒水石、斑石、鯉魚	結城紬、結城木、綿、漆、石、酒、麹、粉

（下總の三郡）結城、猿島、北相馬、（常陸の十一郡）東茨城、西茨城、那珂、久慈、多賀、鹿島、新治、筑波、稻敷、眞壁。

筑波山 常陸の中央に聳え、海拔三、二〇〇尺に過ぎないけれども、關東平野中にあるので、殊に、人目につき易い。山麓から花崗石を産し、又、山階宮殿下の設立し給へる測候所がこの山上にある。山中には名勝が多くある。

筑波根のこのもかのもに陰はあれど
きみが御陰にますがげはなし
敵人不知

利根川、霞浦、北浦 利根川は、一に、阪東太郎と稱し、關東第一の大河、上野の文珠岳に發源し、諸水を併せ、下總の關宿から江戸川を分ち、鬼怒川、小貝川及び霞浦の水を受けて東流し、銚子港に注ぐ。流程七三里、運輸と灌溉に便がある。

霞浦は、本邦第二の大湖、周囲三六里、面積七方里。東方に北浦がある。周囲一五里、兩水の通ずるところを浪逆浦といふ。ともに、沿岸地味肥え、流利に富んでゐる。

鹿島神宮 常陸の鹿島郡鹿島町にある官幣大社。祭神、武甕槌の命、經津主神、天兒屋根命。神武天皇十八年の創建。

常盤公園 舊名、借樂園、水戸の西南常盤村にある。金澤の兼六、岡山の後樂園と併せ日本三公園と稱せられてゐる。徳川齊昭公の開いたもので、今、梅の名勝と知られ、都人の杖を曳くものが多い。

勿來關址 常陸と磐城との境にある關址。源義家陸奥國からへらんとするとき、櫻花雪の如く亂れ散りて馬の蹄も埋る程であったところが、猛き武士の心にも、あはれ深く感ぜられて、一首を詠せられた。

ふく風を勿來のせきと思へども
みちもせに散る山さくらかな

關城址 常陸國眞壁郡にある城址。興國年間北畠親房が據つてゐたところ。今、一碑を立て、南朝忠義の遺蹟があらはしてある。

川尻八景

常陸多賀郡豊浦町大字川尻にある勝景。御番山月、川尻二見、菅磯漁火、鷺宮避暑、見崎不動、水門歸帆、松崎仙境、鷺養干潮。

徳川光圀、藤田東湖

光圀は水戸の城主。博く群書を閲覽し、修史の必要を悟り、俊才の士を招きて、大日本史を編纂した。又、勤王の志ありて、尊王を唱へ、名分を明にし、楠木正成のために碑を湊川に建てたなど、遂に、維新の氣運をなした。東湖も、亦、勤王愛國の士で、晩年邊海防禦に力を盡した。

農産物

農業盛であつて、大豆、小麥の産は、共に、本邦第一。

全國 三、六四〇、〇〇〇石 (百分率) 一〇〇、〇
 茨城縣 五三〇、〇〇〇石 一四、七
 北海道 三七〇、〇〇〇石 一〇、三

栃木縣

面積 四二六方里
 人口 九一一、四四九

管轄	都	會	山	川	湖	瀑	温泉	社、寺、名所	天産物	製造物
下野 一市八郡	宇都宮市 足尾、栃木 足利、鹿沼 日光、佐野 田沼、葛生	那須山、高 原山、男體 山、帝釋山 白根山、山 庚申山、山 足尾銅山、 鬼怒川、 那賀川、 渡良瀬川	中禪寺湖 赤間沼 赤見沼 華降沼 霧降沼 那須沼 藤原沼 湯本温泉	東照宮 二荒神社 雲巖寺 那須野原 太平山公園 國造ノ碑 庚申山 足利學校址	煙草、米 茶、大麻 楮、木材 牛馬 硫黃 銅	足利絹 眞岡木綿 干瓢 日光塗 杉紙 杉原瓦 煉瓦類 鍋釜類				

(下野の八郡 足利、安蘇、上都賀、下都賀、河内、芳賀、鹽谷、那須)

東照宮 男體山の東麓に位し、別格官幣社に列し、元和三年の創建に係る。はじめ、家康の薨じたとき、僧天海に遺命して、遺骸を久能山にうつめ、一年の後、更に、日光に葬らしめた。寛永十三年秀忠秋元泰朝に命じて、廟を造らしめた。實に將軍の威と、天下の財を以て經營したものであるから、規模宏大、建築壯麗、五彩燦然として、人工の美を極めてゐる。「日光を見ずば結構をいふな」との諺がある。

日光遊覧客の年々縣下に落す金は、實に、百万圓を下らない。賽銭のみでも、尙、二十万圓を越えるとのこと。

中禪寺湖、華嚴瀑

日光山中にある湖。もと足尾山脈の北麓大谷川の流域であったが、男體山の噴出によって、河亦塞りて湖となったもの。周囲八里、海拔四、四〇〇尺。風光の佳なる日光山中の第一。避暑の好適地。中禪寺湖の水落ちて絶壁に懸るもの、すなはち、華嚴瀑である。直下七十五丈、幅五丈。その響轟々雷の如く、實に、天下の壯觀である。霧降瀑、裏見瀑と共に、日光の三瀑布と稱せられてゐる。

足尾銅山

日光の西方にある本邦第一の産銅地。銅の産出額は、一ヶ年約三百万圓に及ぶ。足尾銅山は、慶長年間、一農夫が発見したとのこと。銅山の役員坑夫の数は、約一万八千人以て、その盛なることを想像することが出来る。本年の春暴動が起つて兵士を繰出したとは、曠等の記憶にまだ新しいであらう。

那須野ヶ原

那須岳の南麓にある平野。東西五里、南北八里餘。現時、少しく開墾されたけれども、未だ行届かない。古來、殺生石、奇談のあったところ。

武士の矢なみつくらふ籠手の上に

あられたげしる那須のしの原

實朝

群馬縣

面積 三九四万平方里
人口 九〇一、一三一

管轄	都	會	山	川	湖、瀑、温泉	社、寺、名所	天産物	製造物
上野 市十一郡	前橋市 高崎市 桐生市 伊勢崎	市	白根山 赤城山 榛名山 妙義山 四ツ倉山 利根川	尾瀬沼 赤城沼 湯原沼 立原沼 草津沼 伊香保沼 磯部温泉	妙義神社 榛名神社 長樂寺 多胡山 金胡山 碓氷峠	米 桑 大 燵 葱 石 砥	草麻 炭	生糸 繭 紙 桐生紙 伊勢織物 仙臺紙

（上野の十一郡）群馬、多野、北甘樂、勢多、吾妻、利根、山田、碓氷、邑樂、佐波、新田。

上野の三山

赤城山、榛名山、妙義山を上野の三山といふ。

赤城山は、高崎の北東に聳え、海拔六、〇四〇尺。頂上に、大小の二沼ありて、風景佳。榛名山は高崎の北西に立ち、海拔二、八〇〇尺。山上の火口湖を榛名湖といふ。風光頗る佳。山下に榛名神社（祭神、彦由支命）といふがある。

妙義山は、舊火山が風雨の浸蝕を受けて成ったもの。本縣の西南に峙ち、山中奇峯怪岩聳え立ちて異態を極め、海面を抜くこと三、八四〇尺。中について、白雲、金洞、金鷄の山峯は、最も秀たものである。この山は、實に、本邦三奇景の一。山上に妙義神社(祭神、日本武尊)があつて、社殿壯嚴を極む。

伊香保温泉、草津温泉 伊香保温泉は、榛名山の東麓にある名高き温泉。含鐵泉で色は、稍、赭赤を帯びて臭氣がない。浴客常に多く、夏季は特に雜沓を極む。胃病、佝僂質、皮膚病などに効がある。温度百二十七度。垂仁天皇の御代の發見に係る。

草津温泉は、白根山の東麓に湧出で、硫黄泉、無色透明、温泉百四十八度。皮膚病に特効がある。

富岡製絲場 北甘樂郡富岡町にある有名なる製絲場。工場の規模、壯大であつて、盛に生絲を製出してゐる。實に一ヶ年の産額十五六万圓に達し、日本第一と稱せられる。もと、農商務省の管轄であつたが、今は、三井物産會社の管理に屬してゐる。

碓氷峠 碓氷郡の西部から、信濃國北佐久郡に亘りて、登阪二里餘、東山道第一の難所現今、その南方の、稍、低い所を迂回し、二十六個の墜道を穿ち、アプト式機關車を用ぬ。齒止ある軌道を敷いて交通に便ならしめた。この鐵道は一哩の工事費二十八万四千五百圓。傳へいふ往昔、日本武尊、東夷征伐の歸途、驛のために身を相模沖で、海中に投ぜられたる橘姫を追慕し

奥羽地方

「吾孺者耶」を宣ふたところであると。

位置 本州の東北端に位して、關東地方の北に連り、東は太平洋に、西は日本海に臨み、北は、津輕海峡をはさまて、北海道本島に對してゐる。
岸勢 三面悉く海に瀕し、北方には、津輕、一北の兩半島があつて、陸奥内海をはさみ、東面には牡鹿半島出で、石巻灣を抱き、四面には、男鹿半島つき出で、八郎潟を圍んでゐる。而して、三條の山脈は、殆ど、相並行して域内を貫き、その間に二條の縦谷を造つてゐる。
河流は、これ等の山脈間において東西に分流し、肥沃なる平野を残してゐる。

山脈	海地	位置
北上山脈	姫神山(六、二〇〇尺)、早池峯(六、六〇〇尺)	
阿武隈山脈	巖山、大瀧根山(三、七〇〇尺)	
那須火山脈	恐山、八甲山、岩手山(七、四九〇尺)	
岩木火山脈	吾妻山(六、五〇〇尺)、磐梯山(五、八六七尺)	
	岩木山(四、四〇〇尺)、鳥海山(七、一二〇尺)	
	羽黒山、月山(五、三四〇)	

概括

河、平、氣

湖、野、候

越後山脈 朝日岳(六、二八〇尺)、 飯野山(六、一六七尺)

馬淵川 (二五里)

北上川 (七四里) 太平洋に注ぐ。

阿武隈川 (七七里)

岩木川 (二二里)

能代川 (二五里)

御物川 (三五里)

最上川 (六二里)

日橋川 (二〇里)

日本海に注ぐ。

小河原沼(周回一三里)、十和田湖(一〇里)、十三瀨(六里)……陸、奥

八郎瀨(一五里)……羽後

猪苗代湖(一六里)……岩代

北上平原(北上川の流域)、 阿武隈平原(阿武隈川の流域)

津輕平原(岩木川の流域)、 能代平原(能代川の流域)

秋田平原(御物川の流域)、 最上平原(最上川の流域)

關東地方に比すれば、寒氣や強く、冬季には、風雪が多い。

交、區

通、劃

道 路 奥州街道

殆ど、相並んで北に通じてゐる。

道 東北線

栃木縣から來り北走して青森に至る。

道 海岸線

磐城の東海岸を走り、陸前の岩沼に至りて、東北線に合してゐる。

道 奥羽線

岩代の福島市を起點(東北線)として、山形、秋田を経て、青森(東北線)に至る。

道 岩越線

岩代の郡山町(東北線)を起點として、西に走り、若松市を経て、越後地方に向ふもの。目下、山郷まで

道 航路

開通してゐる。

路 神戶小樽東廻線

神戶小樽西廻線

路 神戶小樽東廻線

日本海線

福線縣(岩代、磐城の大部)

宮城縣(陸前の大部、磐城の一部)

岩手縣(陸前の一部、陸中の大部、陸奥の一部)

青森縣(陸奥の大部)

秋田縣(羽後の大部、陸中の一部)

山形縣(羽前、羽後の一部)

福島縣 面積 八九五方里 人口 一、二七四、〇二四

磐城の内 七郡	岩代 二市十郡	管轄	都會	山、川	湖、瀑、温泉	社、寺、と所	海岸	天産物	製造物
二那那白福岩 本須須島島松 松春川山河市市	日阿靈大安吾磐 武瀧龍太妻梯 橋隈根郡山山山								
磐東三沼檜大猪 梯山條澤原冷水苗 温泉温泉沼湖湖	白安福信大磐靈 河達島山關梯山 關ヶ八公關神社社								
松川浦	綱取岬								
三銀石米煙人桑 春銅炭草參	川俣羽二								
相會繪會生二重川 馬津蠟津二本松俣 燒燒燭塗糸紬									

(岩代の十郡 信夫、伊達、安達、安積、岩瀬、南會津、北會津、耶麻、河沼、大沼)
 (磐城の七郡 東白川、西白川、石川、田村、石城、雙葉、相馬)

磐梯山、吾妻山 磐梯山は、一名會津富士と稱す。猪苗代湖の北に聳えて、海拔五、八六七尺。明治二十一年七月俄然爆發し、泥土砂石を降らし、その害六里四方に及び、家屋田圃を埋没し、人畜の死傷夥しく、實に慘狀を極めた。

吾妻山は、福島市の西方五里の所に立ち、海拔六、五〇〇尺。明治二十六年五月十九日大破裂をなした新火山である。

猪苗代湖、檜原湖

猪苗代湖は、本邦第三の大湖で、その周囲十六里二十一丁、東西四里二十丁、南北三里十八丁。大同元年磐梯山の噴火によって成ったもの。湖中に翁といふ島があって、風景頗る佳。

檜原湖は、磐梯山の北麓にある湖。明治二十一年七月磐梯山の破裂の際に、山北に三大湖を生じた。檜原湖は、すなはち、その一であって、最大のものである。

白河關址 磐城國西白河郡古關村大字旗宿の地。古へ、奥州に入る關門のあったところで極めて遼遠の地と稱せられてゐたが、今は、汽車開通し、東京から六時間京都から一晝夜で達することが出来るやうになった。寛政十二年松平定信古蹟の湮滅を憂ひて、ここに一碑を建てた。戊辰の役に、白河口と稱し、官軍が奥羽の咽喉を扼したこともあった。

みやこをば霞と共に出でしかど

能因

信夫山、文字摺石

が多くある。

福島市の北方丘上にある公園。著名の勝地であって、古來歌詠

なげやなげしのぶの山のよぶこ鳥

順徳院

つひにこまらぬ春ならすとも

はつしぐれしのぶの山のみぢばを

七條院

嵐吹けさはそめすやありけん

又、町の東方阿武隈川を渡りて、一里許、岡山村の觀音寺に、文字摺りがある。石の長さ一丈二尺六寸、幅六尺九寸。昔、石上に草花を載せ、布を打ちて、模様を作ったものであるとのこと。

みちのくの信夫文字摺たれゆゑに

河原左大臣

みだれそめにし我ならなくに

若松、二本松

若松市は、もと、松平氏三十二万石の舊城地で、戊辰の役に、藩主松平容保カタモリ籠城して官軍に抗したところ。二本松は、丹羽氏の舊藩地で、おなじく戊辰の役の激戦地。

奥羽戦争

松平容保、慶喜の大政返上を喜ばないで、その領地にかへり、若松城に據つた。東北諸藩多くこれに屬した。大島圭介も、亦、下總、下野に轉戦したけれども、敗れて、こゝに來り、軍、大に振ふ。そこで、官軍は、東海、東山、北陸の三道から進んだ。白河口の官軍は棚倉、白川、二本松を破って若松城を圍み、越後口の官軍は、長岡を取り、米澤を降して、若松城の背後に出でた。城兵死守して戦ひ、中々屈しないで、老幼婦女に至るまで、奮激して軍に従ひ、少年の一隊は白虎隊ヒヤクコウダイと稱し、必死の勇奮うて防戦した。けれども、この時、東北諸藩次第に降順し、若松城孤立の勢となり、糧盡き、兵疲れて支ふることが出來ず、明治元年九月二

十二日遂に城を致して官軍に降った。白虎隊の殘兵十六人は割腹した。

宮城縣

面積 四八三方里
人口 八九九、二七九

管轄	陸前の一市十郡	都會	仙臺市	山川	湖、澤、溫泉	社、寺、名所	海岸	產物
	磐城の三郡		石巻市、白旗、白旗、白旗					
	磐城の三郡		仙臺市、石巻市、白旗					
	磐城の三郡		仙臺市、石巻市、白旗					
	磐城の三郡		仙臺市、石巻市、白旗					
	磐城の三郡		仙臺市、石巻市、白旗					
	磐城の三郡		仙臺市、石巻市、白旗					
	磐城の三郡		仙臺市、石巻市、白旗					
	磐城の三郡		仙臺市、石巻市、白旗					
	磐城の三郡		仙臺市、石巻市、白旗					

(陸前の十三郡) 柴山、名取、宮城、遠田、栗原、登米、桃生、牡鹿、本吉、黒川、加美、志田、玉造(磐城の三郡) 刈田、伊具、亘理。

金華山、金華山沖

牡鹿半島の尖端にある島中にあるもの。全島花崗岩から成り、島の周圍三里餘、到る處に奇岩聳立し、風景頗る佳。山の高さ八〇〇尺。五峯並び分れて、四十八溪をなし、溪谷には、金沙を流出し、山上には金華山大金寺がある。

金華山附近の海は、寒流と暖流と、共に、流れる處であつて、魚類に富み、鰻鮠等の海獣を産し、世界有数の漁場と稱せられてゐる。

松島、鹽竈神社 松島は陸前の松島灣内にある三百有餘の群島である。老松その上に繁茂し、千状万態筆紙に盡し難し。殊に雄島の洞門、籠島、瑠ヶ崎の魚生菓の如きは、最も奇と稱せられてゐる。その他、宮戸、桂澤、象ヶ鼻、岩青、春磯、經島、福浦、焼島等は絶景である。

まつしまやあゝ松島やまつしまや

芭蕉

鹽竈神社は、鹽竈町の北方丘上にある官幣中社であつて、武甕槌命、經津主命を祭る。近傍一帯風景に富み、鹽竈八景の稱がある。

多賀城碑 仙臺の東北一里許の所にある有名なる古碑。一に、壘の碑といふ。神龜元年鎮守府將軍大野朝臣の設けたものであるとのこと。

陸奥のいはでしのぶはえぞしらね

頼朝

おき悉してよつばのいしぶみ

岩手縣

面積 一、〇三九方里
人口 七四八、二九四

管轄	盛岡市 一市十一郡 陸奥の内 陸奥の郡	都會	盛岡市	山、川	岩手山、早池山、早池山、早池山	瀑布、温泉	鳥越、七倉、白手、白手、白手	社寺、舊蹟	岩手山神社、中尊、中尊、中尊	海岸	三崎、三崎、三崎	產物	米、麻、木、木、木	製造物	生糸、生糸、生糸
	水宮、水宮、水宮		衣北、衣北、衣北		松湯、松湯、松湯		鎮平、鎮平、鎮平		綾首、綾首、綾首		硫磺、硫磺、硫磺		燐、燐、燐		燐、燐、燐

(陸中の十一郡) 巖手、紫波、種良、和賀、江刺、西磐井、東磐井、鷹澤、上閉伊、下閉伊、九月(陸前の一郡)。氣仙、陸奥の一郡(二月)。

管内の面積と人口 管内面積の廣いこと諸府縣中の第一を占めてゐる。又、人口の密度は全國中最小である。

鐵及び鮑の産額 鐵の産出額は、本邦第一。鮑も、亦、全國産額の百分の二十二の率を示し、これまた、本邦第一。

岩手山 陸中の巖手郡にある名山。盛岡から約七里。一に、南部富士と稱す。海拔七、

四九〇尺。火口壁山上に鑿峙し、山上に岩手山神社祭神、大日貴命がある。

衣川の柵址、厨川の柵址、鳥海の柵址、衣川の柵址は、陸中なる一ノ関の北、二里許の所にある。前九年の役に、安倍頼時及びその子貞任の據つてゐたところ。厨川の柵址は盛岡市の近傍にあるもの。康平五年貞任の戦死したところ。鳥海の柵址は、今、二月郡鳥海村にあるもの。安倍頼時の構へた支城であつたが、遂に頼義のために攻め落された。

前九年の役 後冷泉天皇の御代に、陸奥の豪族に安倍頼時といふものがあつて、その子貞任と共に反した。朝廷源頼義及びその子義家を遣はして、これを討たしめられたけれども、中強い奴であつて、容易に降すことが出来なかつた。そこで、出羽の豪族清原武則と共に、力を合せて、諸方の柵を攻めおとした。貞任、宗任等、遂に、悉く誅に伏した。

貞任と義家との連歌

さしをへし糸のみだれの苦さに

衣のたてはほころびにけり

貞任 義家

激戦中、敵と味方とで、なほ、この風流を演ず、なかく面白し。

平泉舊址、中尊寺 陸中の西磐井郡平泉村にある古戦場。もこ、藤原秀衡、父子三世の居城地であつた。文治五年八月頼朝奏して泰衡を平泉城に攻めた。泰衡城を火きて走り、遂に、官軍の有となつた。平泉の中尊寺は、堂宇壯麗であつたが、火災にかゝつて、今は、わづかに、金色堂及び經堂の二ヶ所を残してゐるのみ。

青森縣

面積 六三六方里
人口 六五九、五八七

管轄	都會	山、川	湖、澤、溫泉	社、寺、名所	海岸	天產物	製造物
陸奥の内 二市八郡	弘前市 青森市 八戸市 野邊地 大田名部 大湊	岩木山 赤倉山 八甲山 恐山 岩淵川 相馬川 板橋川	十和田湖 小田沼 十勝沼 鷹沼 銚子沼 板橋沼 留温泉	岩木山神社 薬王院 八戸八景 津輕富士 恐山	尻屋崎 大泊岬 夏泊岬 龍飛岬 斗南島 津輕半島 平館岬 津輕海峡 陸奥海峡	米 林檎 木材 昆布 鮭 鱒 鱒 硫黄	津輕織 津輕工 蓑細工 綿糸 木炭

(陸奥の八郡)東津輕、西津輕、中津輕、南津輕、北津輕、上北、下北、三戸。

大湊 陸奥灣の東北隅にある良港。明治三十八年十二月海軍要港となり、津輕海峡の警備をなしてゐる。

津輕富士、恐山 津輕富士は、岩木山の別稱。形の似たるを以ていふ。海拔五、二六

〇尺。山麓に岩木山神社(國幣小社)といふがある。社殿壯麗。

富士見すば富士こやいはん陸奥の

岩木の山をそれとながめん

恐山は、斗南半島の中央に聳ゆる噴火山であつて、海拔二、六七六尺。山中には恐山湖(火口湖)といふがあり、又、硫黄質の温泉がある。温度百六十度。五ヶ所から湧出する。

十和田湖

陸奥の南境にある火口湖。周囲一〇里、東西三里一八丁南北二里一八丁。その水溢れて銚子瀑となり、流れて奥入瀬川(相阪川)となる。

本邦第一の美林

津軽半島の羅漢松は、十數里四方に亘つてゐる單純林をなし、實に本邦第一の美林と稱せられてゐる。

秋田縣

面積 七三四方里
人口 八三五、四〇六

管轄	都 會	山 川	湖 澤、温泉	社、寺、名所	海 岸	天 産 物	製 造 物
羽後の内 一市八郡 陸中の内 一郡	秋田市 能代市 横手市 大曲市 土崎市 大館市 船橋町	寒風山 森吉山 鳥海山 荒川山 尾去澤山 尾去澤山 尾去澤山 尾去澤山	八田澤湖 田澤湖 鶴鳴釜 七釜 釣釜 鱈澤 鱈澤 鱈澤 鱈澤	御嶽神社 天橋寺 八橋寺 秋田城址 有耶無耶城址 有耶無耶城址 有耶無耶城址 有耶無耶城址	入道崎 男鹿半島	米、楡 木、杉 秋田材 銅、銀 銅、銀 銅、銀 銅、銀 銅、銀	横手木綿 能代織 秋田織 秋田織 秋田織 秋田織 秋田織 秋田織

(羽後の八郡)南秋田、北秋田、山本、河邊、雄勝、由利、仙北、平鹿
(陸中の一郡)鹿角

鳥海山、有耶無耶の關址

一名、出羽富士、海拔七、二二〇尺。山腹に火口湖(鳥海)があつて、山趾の海岸に迫る所に有耶無耶の關址がある。

みのみ來し人の心もかはるやと

問ひても見ばや有耶無耶の關

土御門院

【備考】一説に、右耶無耶の關址は、宮城縣柴山郡笹谷峠。西にあるといふ。いづれが真か。

八郎潟、男鹿半島

八郎潟は、又、琴湖ともいふ。男鹿半島その西を擁し、南方一條の水路を以つて、日本海に通じてゐる。周囲凡そ一五里、東西三里、南北七里。この湖は、能代川の土砂、風浪のために堆積して、海中に砂洲をつくり、もと、海岸にあつた男鹿島を連れて今の男鹿半島を形成した爲に成つたものであつて、沿岸の風光明媚である。湖の東北岸美倉には今上天皇東北御巡遊の際、御駐蹕あらせられたところ。半島中には、寒風山をはじめ、名勝多く、風景絶佳である。

金澤柵址

羽後の東南、仙北郡横手町の近傍にある古戰場。後三年の役に、武衛・家衡等が、この城に據つて、義家に反抗して、討伐された。

秋田路、銀銅の産額

秋田附近に産する秋田路は、莖、葉ともに大きくして、雨來の代用をなすもの。銀及び銅の産額は、本邦第一であつて、全國總産額の約四割に達するもの。

山形縣

面積 五九七方里
人口 八七七、〇〇四

管轄	都會	山、川	瀑、溫泉	社、寺、名所	海岸	天産物	製作物
羽前 二市十郡	山形市 米澤市 酒田 鶴岡	鳥海山 羽黒山 月山 湯殿山 朝日岳	布引 燕山 赤湯 湯見 湖沼 湯の瀧	月山神社 湯殿山神社 光明寺 日和山 日光山 念珠ヶ岡 羽前山	飛島	米、薄、漆、生、魚、銀、石、炭	米、生、漆、陶、器、絹、織、物、紙、工、器

(羽前の十郡)南村上、北村上、東村上、西村上、最上、東田川、西田川、西置賜、東置賜、南置賜。(羽後の一郡)飽海。

羽前の三山 月山(海拔五、三四〇尺)、羽黒山(三、〇八五尺)、湯殿山(三、〇八五尺)を羽前の三山と名づける。三山の頂上には、各、神社があつて、参詣する人の數が、數万人に達するもの。

最上川、日本の三急流

羽後の南境に發源し、北流して、米澤、山形の兩平野を過ぎ、酒田港に至つて日本海に注ぐ。流程六二里。靜岡縣の富士川、熊本縣の球磨川と併せて日本の三急流と稱せられてゐる。

本州中部地方

位置

本州の幅の最も広い部分を占めてゐて、北は日本海、南は太平洋に面し、東は、關東地方と奥羽地方とに接し、西は近畿地方と隣合つてゐる。

勢

崑崙山系と樺太山系との結合地であつて、山岳が甚だ多く、幅も亦広い。富士火山脈は兩山系の間を横斷して、始り、南北に亘り、數多の高峯を噴起してゐる。

海岸

伊豆半島南に突出して、駿河灣を閉み、渥美半島、知多半島など、屈曲が甚だしい。

北海岸

能登半島が突出して、富山灣を抱く外、海上遙に佐渡島があるのみで、一般に單純である。

關東山脈

甲武信嶽(八、一〇〇尺)、金峰山(八、四二〇尺)

越後山脈

飯豊山(六、一六七尺)、清水峠

富士火山脈

天城山(四、五七〇尺)、富士山(一二、四七〇尺)、八ヶ嶽(九、六七〇尺)、戸隠山(四、三五〇尺)

山脈

山脈

妙高山(八、一〇〇尺)

赤石山脈

赤石山(一〇、二〇〇尺)

木曾山脈

惠那山(七、九二〇尺)

飛騨山脈

御嶽(二〇、五〇〇尺)、穗高山(一一、六五〇尺)

乘鞍嶽(一〇、四五〇尺)、鎗ヶ嶽(一〇、二〇〇尺)

立山(九、二〇〇尺)

寶達山脈

寶達山(二、〇三三尺)

鈴鹿山脈

伊吹山(四、五六〇尺)

鈴鹿山

中國山脈

三國山

富士川

(三八里)

大井川

(四六里)

天龍川

(五六里)

木曾川

(四五里)

阿賀川

(二〇里)

信濃川

(一〇〇里)

神通川

(五二里)

太平洋に注ぐ。

日本海に注ぐ。

概括

平

原：越後平原、濃尾平原

庄川 (三八里)
 九頭龍川 (二八里)
 諏訪湖(周囲四里一〇丁) 信濃
 北瀧入江(六里) 越前
 邑知湯(四里) 能登

三方湖(六里二八丁) 若狹
 河北瀧(七里) 加賀
 瀨名湖(二〇里) 遠江

氣

候

南部
 北部

北方には山を背ひ、南方は海に面し、黒潮の影響を受け、氣候一般に溫和、人身に適す。たゞ、飛騨、甲斐、信濃等は、やや、寒烈である。

東南に山を背ひ、西北海に向つてゐるため、氣候寒冽である。殊に、冬期は、シベリア大陸からの寒風のために、降雪頗る多く、越後の如きは七〇里の沿岸寄泊の地なく、積雪のために、汽車不通となることがある。

道 路：東海道、中山道、北陸街道

東海道線 關東地方から来て、南海岸を走り、近畿地方に向ふもの。

交通

鐵道

航路

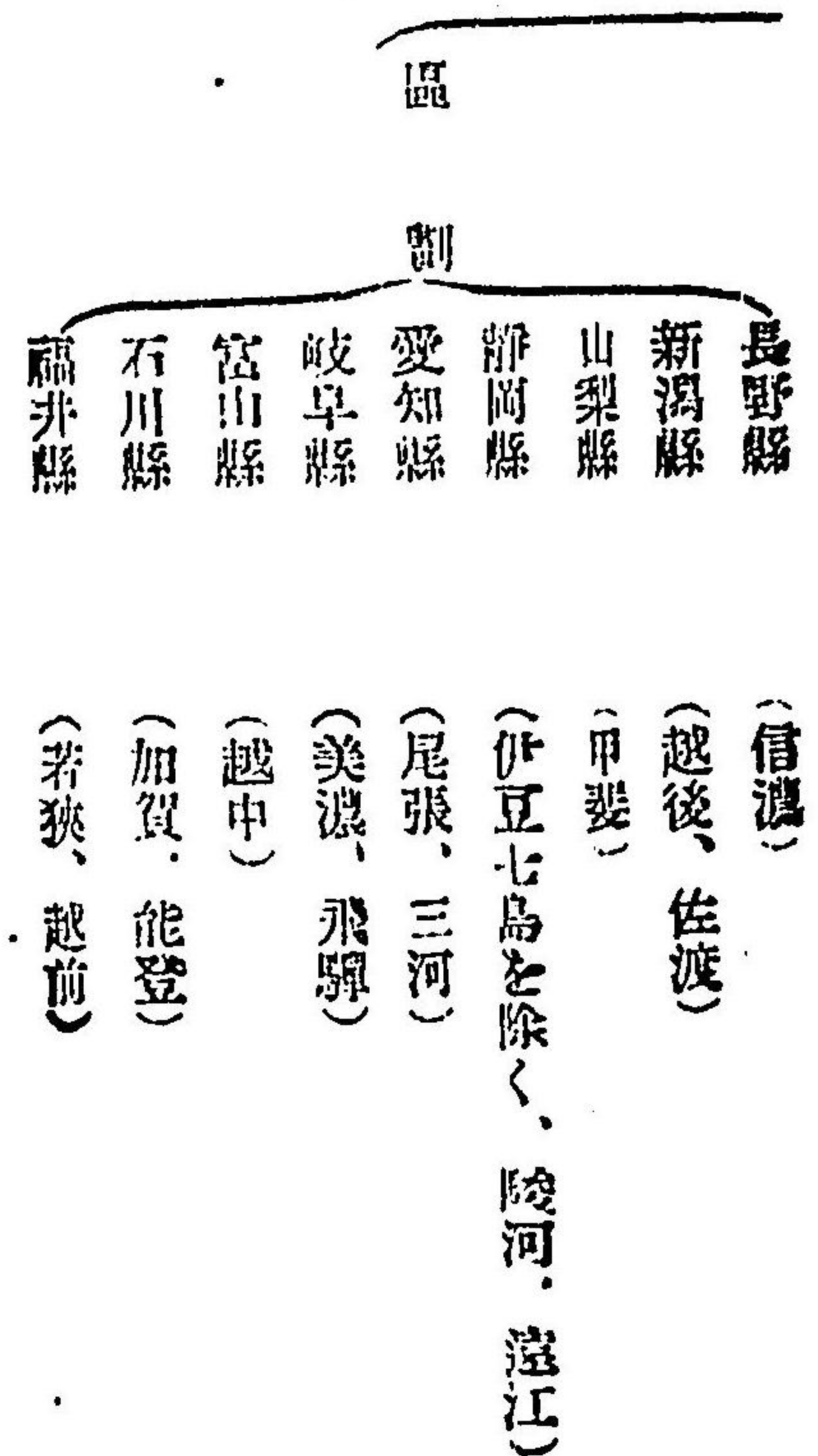
中央西線 名古屋から北東に走り、長野縣に至り、木曾川に沿つて、篠井線に合せんとするもの。
 關西鐵道 名古屋から南西に走り、三重縣に向ふもの。
 北陸線 滋賀縣から福井縣に入り、北走して富山に達するもの。

北越鐵道 直江津を起點として海岸に沿つて走り、信濃川の河口なる沼垂を終點とするもの。
 信越線 上野の高崎市を起點として長野縣を經、直江津に達し、北陸線と合するもの。

篠井線 信越線の幹線篠井驛から分岐して、南に走り、將に中央東線と連絡せんとするもの。即ち信越線と中央線との連絡線となるべきもの。

中央東線 關東地方から山梨縣に來り、甲府を經て、北西に向ひ長野縣に入つて、篠井線と連絡せんとするもの。

神戸小樽東廻線 神戸小樽西廻線
 横濱四日市線 日本海線



長野縣 面積 八七八方里 人口 一、三四七、一五一

管轄	信濃、二市十六郡
都會	長松市、飯上野、小諸、上野、福島
山川	乘鞍岳、御嶽、八ヶ岳、浅間山、戸隠山、信濃川、曲川、天龍川、木曾川
瀑・温泉	諏訪湖、青木湖、大沼池、地蔵池、米子湖、下諏訪温泉
社、寺、名所	諏訪神社、善光寺、善徳寺、姨捨、川中島、淺間山、輕井澤
天産物	桑木、麻、漆、漆器、木曾駒
製造物	生糸、蠶絲、紙、糊、上野細工、飯田元、結、傘

(信濃の十六郡) 南佐久、北佐久、小縣、諏訪、上伊那、下伊那、西筑摩、東筑摩、南安曇、北安曇、更級、埴科、上高井、下高井、上水内、下水内。

【備考】松本は、明治四十年四月從來の町制を廢して、市制を施行した。本縣の境界は、實に、八縣十ヶ

國に連り、他府縣中、これに類するものがない。

北……新潟縣(越後)
東……群馬縣(上野) 埼玉縣(武藏) 山梨縣(甲斐)

南……静岡縣(駿河、遠江) 愛知縣(三河)
西……岐阜縣(飛驒、美濃) 富山縣(越中)

淺間山、諏訪湖 淺間山は、國の東境に聳えてゐる活火山。海拔八、二三〇尺、頂上常に硫烟を吐く。天武天皇白鳳十四年始めて破裂し、爾來屢噴火。天明三年の大噴火は、ここに激甚を極めた。

信濃なる淺間のたけにたつ烟

業平

をちかた人の見やほとがみぬ

諏訪湖は國の中央にある火口湖で、周圍四里二〇丁、鯉、蜆、鯉等エビを産す。冬季、湖水堅氷を結び、人馬その上を通行す。天龍川の水源。

川中島、姨捨山 川中島は、犀川と千曲川と會流する上方の總稱であつて、天文十六年十月、弘治二年三月、及び、永祿四年九月甲斐の武田信玄、越後の上杉謙信と、この地に戦つた。世にいふ河中島の合戦。

姨捨山は川中島の南方にある名山。千曲川を隔て、鏡臺山と相對してゐる。世に、いはゆる田毎の月と稱する觀月の勝地である。

月かけはあかず見るともさらしなの

貫之

山のふもとにながぬすな君

善光寺

長野市にある有名なる寺。天智天皇三年の創建。天台宗。本尊は圓淨檀金エンジュノキの阿彌陀如來で、世に、一光三佛と稱するもの。堂宇宏壯、寺域一万五千三百坪。善光の名は、本多善光といふものが、佛像をこの地に安置したに起るとのいふ。

寢覺の床

西筑摩郡に屬する木曾川の谿谷は、流水の激烈なる浸蝕を受けて、花崗岩カイヤク指折し、千狀万態を呈してゐる。いはゆる寢覺の床。巨岩雪の如く白く、或は高く、或は平く、大なるものは數十丈、小なるものでも、二丈を下らない。その形状によつて、屏風岩、硯岩、烏帽子岩、釜石、組石、浦島釣舟石、腰掛石等の名がある。實に、我が國三奇景の。

日本第一の良材

木曾川の谿間十數里に亘り、天然の大美林がある。今、帝室御料に屬してゐる。檜ヒノキ、樺カハバ、榎エノキ、杉スギ、松マツ、柏カシ、栗クリ、萩ハギ、柞クヌギ、椴スズナギサ、椴スズナギサ、明檜アスヒ、木曾の五木と名づける。頗る良材。

新潟縣 面積 八二七方里 人口 一、七七五、九二〇

菅 轄	越 後 二 市 十 五 郡	都 會 山、 川	濱 布、 溫 泉	社、 寺、 名 所	海 岸	天 產 物	製 造 物
佐 一 渡 郡	相 十 日 川	荒 賀 川	燕 溫 泉	海 府 浦	眞 野 灣	和 布	壽 工
小 千 谷	相 日 川	荒 賀 川	赤 倉 泉	不 親 子	眞 野 灣	和 布	無 名 工
五 尾 泉	相 日 川	荒 賀 川	眞 津 泉	親 不 知	眞 野 灣	和 布	無 名 工
高 田 津	相 日 川	荒 賀 川	津 深 泉	春 山 城	眞 野 灣	和 布	無 名 工
直 江 津	相 日 川	荒 賀 川	動 深 泉	木 御 城	眞 野 灣	和 布	無 名 工
新 發 田	相 日 川	荒 賀 川	谷 深 泉	妙 宣 寺	眞 野 灣	和 布	無 名 工
長 岡 市	相 日 川	荒 賀 川	布 引 湖	眞 野 宮	眞 野 灣	和 布	無 名 工
妙 高 市	相 日 川	荒 賀 川	加 茂 湖	眞 野 宮	眞 野 灣	和 布	無 名 工

(越後の十五郡) 東蒲原、西蒲原、南蒲原、北蒲原、中蒲原、東頸城、西頸城、中頸城、南魚沼、北魚沼、中魚沼、岩船、三島、古志、刈羽。(佐渡の一郡) 佐渡。

妙高山、春日山古城址

尺、西方の焼山と共に、休火山であつて、數個の硫氣噴孔がある。北は茶臼山に連り、西北に高谷池、又、山麓に赤倉温泉がある。赤倉温泉は、硫黄泉で、硫化水素臭を放ち、溫度百三十度。

妙高山の北、直江津の西方一里許に春日山の古城址がある。上杉謙信の居城で、且、その病歿したところである。

親不知、子不知

西頸城郡から越中に越すおよそ九町間の海岸の稱。飛驒山脈の北端、海中に突出し、古來、頗る難所と稱せられてゐた。今は、新道を南方山中に開鑿したので、殆ど、この所を通行するものがないやうになつたが、昔は、斷崖削るが如き下の、海濱白砂の所を通行し、激浪の來るときは、窟の中に入ってこれを避け、潮の引去るのをまって歩を續けた。時には、窟中に避ける暇がなくて、激浪にさらはれ、親は子を扶け、子は親を顧ることが出来な

眞野宮、順徳上皇の御火葬所の址

佐渡の相川町の東南にある縣社。祭神順徳天皇。菅原道眞、日野資朝。承久の亂に、北條高時、順徳上皇を遷し奉つた行宮の址である。又その市南に、上皇の御火葬所がある。國人は、尊崇して御陵と稱してゐる。

啼けば聞く、きけば都のこひしきに
この里すぎまよまほとぎす

順徳上皇

山梨縣

面積 二九七方里
人口 五四〇〇八七

管轄	甲斐市、甲府市、山梨市
郡	甲斐市、山梨市、山梨郡、北巨摩郡、南巨摩郡、東山梨郡、西山梨郡
市	甲斐市、山梨市、山梨市、山梨市、山梨市、山梨市
町	山梨町、山梨町、山梨町、山梨町、山梨町、山梨町
村	山梨村、山梨村、山梨村、山梨村、山梨村、山梨村
山	富士山、御嶽山、八ヶ岳、山梨山、山梨山、山梨山
川	富士川、山梨川、山梨川、山梨川、山梨川、山梨川
湖	山中湖、精進湖、四湖、千湖、山梨湖、山梨湖
温泉	山中温泉、精進温泉、四湖温泉、千湖温泉、山梨温泉、山梨温泉
社寺名所	久遠寺、折宮、折宮、折宮、折宮、折宮
天産物	葡萄、蘋果、梨、桃、柿、栗、胡桃、松茸、山菜、山椒、山椒、山椒
製造物	生糸、甲斐絹、紙、葡萄酒、葡萄酒、葡萄酒、葡萄酒

（甲斐の九郡、東山梨、西山梨、東八代、西八代、北巨摩、中巨摩、南巨摩、北都留、南都留。）

身延山、久遠寺

南巨摩郡の中央東端に位する名山。海拔五、八四一尺。山中に有名な日蓮宗總本山久遠寺といふがある。弘安四年日蓮上人の開基。参拜者が全國から集る。

酒折宮

西山梨郡里垣村大字酒折にある。村社。日本武尊が東夷征伐の歸途、駐り給ひしところとして名高く、日本武尊命が祀ってある。

天目山

北都留郡の西境に位する山。海拔三、五〇〇尺。天正十年三月、武田勝頼織田信長と戦ひ、敗れて自盡し、武田氏の滅びた古戦場として、歴史上著名である。

笹子峠、日本第一の長隧道

北都留郡の西南端に位する甲州街道甲第一の高嶺。海拔三、四六九尺。中央鐵道線は、笹子峠に長隧道を通じて、域内を横貫してゐる。八王子甲府間五十三哩の内、四分の一は、この隧道であつて、長さ一五、〇〇〇尺。汽車にて十二分時を費さなければ、通り抜けることが出来ないこと。實に、本邦第一の長隧道。

川口湖、その他の湖

川口湖、本栖湖、山中湖、精進湖、西湖などは、富士八湖の中である。富士八湖は静岡縣の部を参照せよ。

川口湖

周囲四里二六丁。富士八湖中の最大なるもの。昔は、湖水東流して、桂川に合してゐたから、川口の名がある。貞觀年間、富士震災のとき、砂石のために塞がれ、遂に不流湖となった。

本栖湖

周囲三里五丁。

山中湖

周囲三里一二丁。一名、臥牛湖。

精進湖

周囲二里一六丁。

西湖

周囲三里一八丁。

精進湖と西湖とは、もと二湖であつたが、貞觀の震災に、中斷せられて二湖となった。

葡萄、甲斐絹

葡萄の産額は全國第一。又、生糸、織物の産多く、甲斐絹は本邦第一。

静岡縣 面積 四九二方里 人口 一三九〇、八七六

伊豆の内郡	静岡市	富士山	湖、温泉	社、寺、名所	海岸	天産物	製造物
駿河郡	濱松市	富士山	富士湖	修善寺	石廊崎	茶	紙、河牛
遠江郡	三島	富士山	白藤湖	臨濟寺	御前崎	米	挽物、細工
六	下田	富士山	大重湖	久能山	伊豆半島	鯛、鮭	寄木細工
江	津島	富士山	熱海温泉	北條原	駿河灣	海苔	漆器、炭
六	焼津	富士山	修善寺温泉	三方原	駿河灣	海苔	味淋

(伊豆の二郡)賀茂、田方、駿河の五郡)駿東、富士、庵原、安倍、志太(遠江の六郡)榛原、小笠、周智、磐山、濱名、引佐。

富士山、裾野、御殿場 富士山は圓錐形をなせる休火山で、實に、海内無双の名山。

海拔一二、四七〇尺。四時白雪を戴いてゐる。山頂には、内院といつて、周囲約一里餘、深さ一

丁餘の舊噴火口がある。さうして、その火口壁は秀で、八峯さなつてゐる。即ち、富士の八峯と稱するものはこれ。

(富士八峯 劍峯、雷岳、釋迦割岳、自乗岳、藥師岳、伊豆岳、成就岳、淺間岳。又、山麓には、數多の湖水がある。いはゆる富士の八湖。

(富士八湖 蘆湖、富士沼、山中湖、川口湖、西湖、精進湖、本酒湖、四屋連湖。

富士山麓一帯は、廣漠なる平野であつて、いはゆる富士の裾野である。綠草翠樹繁茂して、一望際涯がない。

裾野の南方に御殿場といふところがある。往昔、徳川家康の遺骨を、久能山から日光山に移すとき、この地に、假御殿を設けた爲に、御殿場の名がある。富士登山者は、多く、こゝから登る。

富士川、大井川 富士川は、本邦三急流の一、信濃から來る釜無川と甲斐から發する笛吹川、及び荒川を集めて、甲斐の中央に會し、赤石山脈の東側を過ぎ、駿河の中央を南流し、田子浦に注いでゐる。

治承年間、平維盛等大兵を帥ぬ、この川を挟んで源氏の軍と對陣してゐたが、一夜、富士沼の水禽が羽音をたて、さわいだのを聞き、敵軍の來襲したものとれもひ、狼狽して逃げ去つたといふので名高い。

大井川は、甲斐の白峯山に發源し、駿河、遠江の國境を流れて、駿河灣に注ぐ。下流には壯大な

る鐵橋が架けてある。この河は、平時、水量が少いけれども、一旦、降雨あるときは、河水忽ち怒漲して、渡ることが出来ない。舊幕時代には、ここさらに、橋を架けないうで、天下の要害地と稱してゐた。旅客は、人足の肩により、又は、蓮臺に乗って渡った。

三保の松原、田子の浦、興津、沼津 三保の松原は、駿河の清水港の南方から

海中に突出すること一里餘の長洲であつて、白砂青松の佳景、他に得がたきところ。

後鳥羽院

清見潟富士の煙や消えぬらん

月かげみがく三保の松原

田子の浦は、富士郡一帯の海岸であつて、北に富士山を望み、西に三保の松原を眺め、南は渺々たる駿河灣を望み、風光いはん方なし。

頼阿法師

田子の浦や富士の高嶺のかけ見えて
なみもひとつに降れる白雪

興津及び沼津は、共に、沿岸の勝地。氣候溫和、風光明媚なるがゆゑに、都人別荘を構へ、又、海水浴場を設けてゐる。

修善寺温泉、熱海の間歇泉

修善寺は、温泉を以て著名である。大同年間、空海

修善寺を建立した爲に、この名がある。温泉は、桂川の林中清溪中から湧出する。泉質は鹽類泉

で治病の効驗が著しい。熱海の間歇泉は、晝夜各三回、時を違へないで熱湯を噴騰する。轟々として、およそ一時間で止む。奇觀極なし。

下田港

伊豆半島の南端にある港。この港は、安政三年露艦及びアメリカの總領事ハリ

三方ヶ原、濱名湖

三方ヶ原は濱松の西北にある平野。古は引馬野といった。武田信玄が徳川家康を敗つた古戰場。濱名湖は東西二里、南北二里二十五丁。昔は湖水であつたけれども、明應七年八月二十五日及び永正七年八月二十七日數度の海嘯のために、湖と海と相通するやうになつた。その切さを、今切と呼ぶ。

茶の産出額

安倍、大井、天龍諸川の沿岸は茶樹の栽培に適し、煎茶の産額は日本第一。

全國の産出額	七、二〇〇、〇〇〇圓	(百分率) 一〇〇.〇
静岡縣の産出額	一、九五〇、〇〇〇圓	二七.〇
京都府の産出額	五一〇、〇〇〇圓	七.〇
三重縣の産出額	四六〇、〇〇〇圓	六.〇

愛知縣 面積 三一九方里 人口 一、七四二、六八五

尾張 一市九郡	三河 一市十郡	名古屋 (熱田市) 豐橋市 岡崎宮 一宮 津島 犬山 半田 龜崎	寶來寺山 猿投山 豐川 矢作川 太平川 庄内川 木曾川	入鹿池 同寺七瀑 牛地冷泉 清崎冷泉 夏燒冷泉 金輪湯溫泉	熱田神社 豐川神社 真清神社 鳳來寺 名古屋城 清洲 長洲 長洲 小牧山	師崎 伊長湖 佐久島 濕美半島 知多半島 三河灣 遠江灘 伊勢ノ海	米 菜蔬 藍綿 吉田芋 陶土 泥炭 雲母 名倉砥 鱈	生絲 木綿 鳴海絞 有松絞 犬山絞 常滑燒 瀬戶燒 一七張 最 眞 眞 眞 味酒 味噌
------------	------------	--	---	--	--	--	--	--

〔備考〕 豐橋は、明治三十九年從來の町制を廢して市制を採用した。熱田は、明治四十年六

(尾張の九郡)愛知、東春日井、西春日井、丹羽、葉栗、中島、海東、海西、知多。

(三河の十郡)碧海、幡豆、額田、東加茂、西加茂、南設樂、北設樂、寶飯、渥美、八名。

月名古屋市に合併した。

鳳來寺山、三河の三川 鳳來寺山は、一名、煙巖山。三河國南設樂郡の東北に位してゐる。海拔五、一一六尺。管内第一の高山。

矢作川、大平川、豐川を三河の三川といふ。三河の國名の起原。

名古屋城 一名、金城。名古屋市の北部を占め、世々、徳川氏の分封所。城は、加藤清正の意匠に成り、慶長年間、徳川義直の築造したもの。天守閣には、金鯱一雙を飾る。高さ八尺五寸。「尾張名古屋は城でもつ」

桶狭間の戦 織田信長の尾張に起つたとき、今川義元は、駿河、遠江、三河の三國を併せ、強大であつたが、永祿三年大軍を率ゐて、尾張に攻めて來た。信長これと戦ひ、寡兵を以て桶狭間の本營を襲ひ、義元を斬り、これより信長の威名が揚つた。

小牧山、長湫、長篠 小牧山は豊臣氏と徳川氏との對陣地として名高く、長湫も當時の古戦場である。長篠は、武田勝頼敗軍の地。

岐阜縣 面積 七〇六方里 人口 一、〇一九、九七〇

管轄	美濃 一市十五郡	飛騨 三郡
郡	岐阜 大 高 多 土 中	津 津 見 山 垣 市
會	養老 大 日 鞍 位 木 曾 長 飛 掛	川 岳 山 岳 山 岳 山
山	大 丹 生 池 養 老 重 湯 青 平 湯 白 水 谷 湯 平 湯 温 泉	社、寺、名所
湖、溪、温泉	伊奈波神社 谷汲山華嚴寺 不破關址 不關址 關ヶ原 稻葉城址 金山	天産物
社、寺、名所	米 茶 木 結 銀 鉛 蠟 銅 石	製造物
天産物	生絲 絹織 美濃紙 養老酒 美濃燒 國提燈 提燈 春位 慶工	物

(美濃の十五郡 稻葉、羽島、海津、養老、不破、安八、掛斐、本巢、山縣、武儀、郡上、加茂、可兒、土岐、惠那。(飛騨の三郡)大野、益田、吉城。)

養老瀑 美濃の養老山中にある名瀑。直下七丈、幅二間。傳へいふ。美濃に一人の孝子があつた。その父が酒を嗜むけれども、家が貧乏なので、思ふやうに、これを進めることが出来なかつた。或日、山中に入り、この瀑の水を汲んで、父に進めたところが、大層善い酒であつた。

時の帝 元正天皇これを聞き給ひ、山中に行幸して、この名をつけさせられたと。

長良川の鵜飼 毎年夏秋の候になるさ、暗夜、篝火を照らし、長良川に漁舟を浮べて、每舟、數十の鵜を放ち、鮎を捕へさせる。實に、壯觀である。

關ヶ原の會戰 石田三成は、秀吉の生前から、殊寵を受けてゐたが、家康、勢力が餘り盛なのを見て、嗣君秀頼を擁して、これを除かうとして、一味の徒を集めた。

三成派(西軍) 毛利輝元、小早川秀秋、浮田秀家、島津義弘、大谷吉隆、小西行長、増田長盛、長束正家……凡そ二十万人。
 家康派(東軍) 池田輝政、淺野幸長、加藤清正、黒田長政、山内一豊、細川忠興、凡そ八万人。

即ち、この二軍が、關ヶ原に會戦した。その結果は、三成派の大敗に歸し、西軍に歸したものは或は殺され、或は地を削られ、秀頼は、毫もその事には加はらなかつたといふものゝ、これに依つて、徳川氏の勢力は朝日の昇るやうに高まり、豊臣氏の勢力は、殆ど地平線下に没した。いはゆる天下分目の大激戦であつた。

不破の關址 大垣町の西方近江の境にある古關址。この近傍一帶の地は、即ち關ヶ原。
濃尾平野の大地震 明治二十四年、濃尾平野に大地震があつた。越前の福井市の南

から、美濃の根屋谷を経て、木曾川の南岸に至るまで、延長二十五里の間、地面に大斷層を生じた。これがために、家屋の倒れたもの無数、人畜の死傷したものは數方に及んだ。

木曾、長良、揖斐三川の分流

木曾川は、濃美高原の諸流を集めて、この溪を形造つてゐるので、即ち、音に名高き日本三急流の一到に數へられてゐる。然るに、木曾、長良、揖斐の三川は殆ど、その吐口を同うしてゐるので、いづれか一方の川に増水あるときは、他の一方の流域に遡りて、不時に増水し、常に、この地方の大患となつてゐた。分流工事は、即ち、これ等の水患を防ぐために施されたる未曾有の大工事であつて、川筋の改修をなし、又、主として、下流の川幅を擴げ、堰を設けて、三川の流水を別々に海に注ぐやうにした。且、堰の閉閉によつて、一方の水が他方に逆流汎濫するやうな心配が全くなくなつた。

富山縣

面積 二五九方里
人口 七七六、五二一

管轄	都會	瀨川、坑	湖、瀑、温泉	社、寺、名所	海岸	產物	製造物
越中、二市八郡	富山市、魚津市、伏木、新湊、城端	立山、蓮華山、大日岳、黒部川、神通川、常願寺川	放生、二生、十名、射水、津島、山田、小川	射水神社、日興寺、勝興寺、俱利伽羅、魚津、天柱、黒部愛宕	富山灣	米、麻、草、烏賊	生糸、絹織物、漆器、藥品、銅器、眼鏡、針工

(越中の八郡)上新川、中新川、下新川、氷見、婦負、射水、東礪波、西礪波、

立山、越中の四川

立山は、國の東南境に聳ゆる北陸著名の高山。海拔九、二〇〇尺。山上に雄山神社がある。夏日登山者多數。天保七年大に砂土を噴出した。又、山中に立山地獄と稱する硫黄の大噴氣孔がある。壯觀極なし。

庄川(一名、射水川)、神通川、常願寺川、黒部川。いはゆる越中の四川。

俱利伽羅峠 一名、礪波山といふ。加賀、越中の境。谿谷深きこと數千仞、極めて險

峻。木曾義仲が平軍を破った古戦場。

魚津の唇氣樓 富山から海岸に沿って東北に行けば、漁利に名高い魚津といふ町がある。人口一万餘。毎年五月頃、時として、海上に市街の幻影を現することがある。世にいはゆる唇氣樓には即ちこれ。

籠の渡、愛本橋 神通川の上流谿間に、葛、藤などで網を張り籠をかけて往來の便に供したことがあった。又、黒部川の谿間を出つる所に愛本橋といふがある。

日本の三奇橋
越中の愛本橋
甲斐の猿橋
周防の錦帯橋

富山の賣藥 富山には、賣藥商多く、その賣子は、古來全國到處に行商し、今は、清韓等の海外にも出づるやうになった。市東の藥種場には職工三千人を下らない。賣藥の賣上高年々百四五千万圓に達する。

石川縣

面積 二七二方里
人口 七六二、三七〇

管轄	都會	山	川	湖、溪、溫泉	社、寺、名所	海岸	天産物	製造物
加賀一市四郡	金澤市 小松市 七尾市 輪島市 大聖寺	寶立山 白岳山 大目川 手取川 犀川	河内北 千代田 櫻井 山中 山代	湯瀨湯 湯瀨湯 湯瀨湯 湯瀨湯 湯瀨湯	白山比叡社 社山神社 尾山神社 總持寺 兼六園 白山公園	珠洲崎 綠剛崎 能登島 能登島 船倉島	漆 米 煙草 能登馬 請登馬	羽賀重 加賀絹 九谷燒 銅器 輪島塗 象眼細工 金澤漆器

(加賀の四郡) 江沼、能美、石川、河北。

(能登の四郡) 羽咋、鹿島、鳳至、珠洲。

白山 一名、越白嶺。加賀、越中、飛騨の三國に跨り、四時白雪を戴く。北陸第一の名山。海拔八、九〇〇尺。山中に五大湖がある。火口湖に屬す。

安宅關址 安宅の關といふは、加賀國安宅町の海中二三里の處にあつたこと。今は

求められない。これは、その海岸、年を経るに随って、漸々陥落して海となった、ゆである。陸地には、往昔奥州の官道を通じ、關所を設けて旅人を檢したのであった。源義經、兄頼朝に追はれ、微行して奥州に下らんとして、この地を過ぎ、關守に咎められたことが、義經記といふ書物に書いてある。

兼六公園

金澤市にある有名なる公園。東西四丁四十間、南北四丁十八間。地は百間堀を隔て、金澤城の東南に隣り、古の山崎山の遺地。李格非の洛陽名園記に、所謂、六を兼ねるものであるといつて、松平樂翁公が兼六と命名された。明治四年藩主前田慶榮、東京に居を移して以來、公園となった。

水戸の常磐公園
日本の三公園
金澤の兼六公園
岡山の後樂園

福井縣

面積 二五七方里
人口 六三三、二七五

越前市	福井市	菅轄	部會	山、川	湖、溪、温泉	社、寺、名所	海岸	天產物	製造物
敦賀市	敦賀市	越前市	福井市	大日岳	北湖	藤島神社	越前岬	米	羽二重
武生	武生	越前市	福井市	有乳山	三方湖	金ヶ崎神社	立石岬	奉子紙	奉子紙
小浜	小浜	越前市	福井市	九頭龍川	湯瀨湖	足羽公園	常神岬	烏子紙	烏子紙
勝山	勝山	越前市	福井市	日野川	三番湯	愛羽關	若狹岬	奉子紙	奉子紙
大野	大野	越前市	福井市	足羽川	天谷温泉	金ヶ崎城址	小浜岬	若狹紙	若狹紙
三狹郡	三狹郡	越前市	福井市					鰯	鰯

(越前の八郡) 足羽、吉田、阪井、大野、南條、今立、丹生、敦賀。
(若狹の三郡) 三方、遠敷、大飯。

藤島神社、足羽公園 藤島神社は福井市の西郊にある別格官幣社。新田義貞を祀る。明治五年、創建境内は、足羽公園である。

金ヶ崎、金ヶ崎宮 金ヶ崎は、敦賀の北東海岸にある。新田義貞の戦死したところ。ここに官幣中社金ヶ崎宮がある。尊良、恒良兩親王を祀る。

(金ヶ崎の戦) 後醍醐天皇尊氏の和を納れさせ給ふに及んで、新田義貞は、皇太子恒良親王及び尊良親王を奉じて金ヶ崎城に據り、弟義助をして、出で、杣山に居らしめた。延元二年三月尊氏足利高経をして金ヶ崎を攻めさせた。攻め固むこと數月、糧食竭きて、城、遂に陥る。皇太子捕へられ、尊良親王及び義貞の長子義顯は自殺した。

永平寺 福井市の東方にある大伽藍。僧道元の開基。寛仁二年の創建。曹洞宗の本山。

愛發の關址 敦賀の南東、約一里、愛發村の附近にある。奈良朝のはじめ、このところに、關所を置いた。

伊勢の鈴鹿關
美濃の不破關
越前の愛發關

羽二重の産額 羽二重は、本邦輸出品の首位を占めてゐて、本縣の産額は本邦第一。

全國の産出額 三一、一六〇、〇〇〇圓
福井縣の産出額 一五、一九〇、〇〇〇圓

近畿地方

位 置 北は日本海に面し、東は中部地方及び伊勢海に接し、南は太平洋に突出し、西の一部は中國地方に接してゐる地域で、本州の中央部にに位してゐる。

地 勢 域内には、二條の山脈東西に走り、又、これを連接する山脈があつて、内地は山岳多く、殊に、南部は高峻を極め、河水は四方に分流してゐる。西方沿海の地方と、諸川の沿岸に多少の平野がある。

海 岸 東面には志摩半島突出し、伊勢海と熊野灘とを分ち、西面には淡路島があつて、大阪灣と瀬戸内海の播磨灘とを分ち、大阪灣は由良海峽によつて紀伊水道と通じてゐる。南部は半島状をなして、南端を潮岬といひ、北部は日本海に面し、宮津灣と經ヶ岬との出入があるのみである。

山 脈 中國山脈 大江山(三、七三〇尺)、三國山
紀伊山脈 (高野山(三、〇〇〇尺)、彌山(六、七三〇尺))
鈴鹿山脈 鈴鹿山 伊吹山(四、五六〇尺)

概括

河、湖、平野、気候

圓山川 (二六里) 日本海に注ぐ。
 由良川 (三〇里)
 千種川 (二六里)
 掛保川 (一五里) 播磨灘に注ぐ。
 市川 (一七里)
 加古川 (二八里)
 淀川 (二〇里) 大阪灣に注ぐ。
 紀ノ川 (四七里) 紀淡海峽に注ぐ。
 熊野川 (三七里) 熊野灘に注ぐ。
 宮川 (三二里) 伊勢海に注ぐ。
 琵琶湖 (周回六〇里) 本邦第一の大湖。近江
 巨椋池 (四里) 山城 狭山池 (一里) 河内
 野 琵琶湖の盆地、淀川平野、大和川の平野、紀ノ川の谷
 一般に溫和であるが、近江、丹波、丹後大和の南部などは、山岳、高原等
 のために、冬期寒威やまきびしく、丹後、丹波は、北海の影響で降雪も少
 くない。

交通、道、鐵路、航路

東海道、中山道、中國街道
 山陰街道 (以上は京都を中心とするもの)。
 東海道線、山陽鐵道、關西鐵道 (ほとんども東西に通ずるもの)。
 北陸線、阪鶴鐵道 (ほとんども南北に通ずるもの)。
 奈良鐵道、南海鐵道
 この他、分岐短線數多。
 神戸小樽東廻線 同西廻線 日本海線 四日市線
 大阪商船會社近海諸線
 (近江)
 滋賀縣 (山城、丹波の一部、丹後)
 京都府 (攝津の一部、和泉、河内)
 奈良縣 (大和)
 三重縣 (伊賀、伊勢、志摩、紀伊の一部)
 和歌山縣 (紀伊の大部)
 兵庫縣 (攝津の一部、丹波の一部、播磨、但馬、淡路)

滋賀縣 面積 二二六方里 人口 七二四、五四八

管轄	近江十二郡市
都會	大津市
山、川	北吹山、比叵岳、伊吹山、比叵岳、野洲川、安曇川、愛知川、日野川、草津川、八幡川、八幡川、草津川、日野川、米原
湖、瀑	琵琶湖、余吾湖、三ノ瀬、瀧山、楊海
社、寺、名所	日吉神社、石山寺、園城寺、延曆寺、近江園城寺、彦根園城寺、伊吹山、伊吹山、伊吹山、伊吹山、伊吹山、伊吹山、伊吹山、伊吹山
島	沖島、竹生島、多景島、奥島
産物	天産物：近江米、信樂茶、信樂草、信樂草、信樂草、信樂草、信樂草、信樂草
	製造物：生糸、生糸、生糸、生糸、生糸、生糸、生糸、生糸

高島、(近江の十二郡) 滋賀、栗太、神崎、阪田、甲賀、犬上、野洲、愛知、東錢井、蒲生、伊香、

琵琶湖、近江八景 一名、志賀の海、又、鳩の海。形、琵琶に似てゐるので琵琶湖

の名がある。東西五里、南北一六里、周回六〇里、面積八〇方里。我が國第一の大湖。四周の諸

川、皆、これに注ぎ、瀬多川となって流出する。湖中に、奥、沖、竹生、多景の四島があつて、風光極めて佳、湖邊の勝地に、いはゆる近江八景がある。

(近江八景)石山寺の秋月、瀬田の長橋、粟津の晴嵐、矢橋の歸帆、三井寺の晚鐘、堅田の落雁、比良の暮雪、唐崎の夜雨、

琵琶湖の疏水 湖邊三井寺の下から、京都市鴨川の東に至る大工事。この間、六、一〇七間。交通運輸の便を開き、且、水力を利用して、電氣を起し、電燈、その他に動力を供給してゐる。この工事は、明治十八年六月起工し、同二十三年四月竣工した。その間、實に四年八ヶ月、百十九万圓を費し、人夫四万人を要したとのこと。

三井寺、延暦寺(天台宗の二大本山) 三井寺は、大津市の西にある寺。天台宗寺門派の本山。弘文天皇の御子、大友興多王の創建。長等山園城寺ともいふ。寺域七五、二〇〇坪。西園巡禮第十四番の札所。建武二年正月、新田義貞、北畠顯家と勢を合せて、足利尊氏の將細川定禪を討つたところ。

延暦寺は、比叵山上にある寺。天台宗の本山。山門と號するもの。延暦七年、僧最澄の開基。

管轄	京都府	山	川	湖、澤、温泉	社、寺、名所	海岸	天産物	製造物
郡	丹波五郡、丹波内郡、山一市八郡	比叡山、鞍馬山、愛宕山、笠置山、大江山、木津川、保津川、桂川、賀茂川、由良川、宇治川	比叡池、巨椋池、明神大瀑、有田瀑、琴瀑、櫻門瀑、天龍寺温泉、稻籠温泉、木津温泉	北野神社、平野神社、賀茂神社、豐國神社、風置山、笠置山、桃山、兩本願寺、金閣寺、銀閣寺、泉源寺、南禅寺、知恩寺、平等寺、清水寺、鞍馬寺、京都御所、山崎	經ヶ岬、沖島、冠島、鯉、鰻、筍、松茸、小豆	西陣織、友仙染、鹿子絞、丹後縮緬、生糸、清水焼、栗田焼、青銅器、漆器、關扇		

京都府

面積 二九二方里
人口 一、〇四七、二七〇

はじめ、一乘止觀院と稱してゐたが、弘仁二年 嵯峨天皇勅して、延暦寺の號を賜はつた。寺域一、二七九・七八〇坪。院政時代に、僧兵の強盛であつたことは、木寺が第一。

賤ヶ岳、姉川

賤ヶ岳は、又、志津岳に作る。伊香郡の南部に位し、余吾湖の南に聳えてゐる。天正十一年四月、羽柴秀吉、柴田勝家の軍を破つたところ。七本鎗の名、世に高し。

福島正則	加藤清正	加藤嘉明
平野長泰	脇阪安治	片桐且元
糟屋武則		

姉川は、東淺井郡賀須川岳に發し、諸流を併せ琵琶湖に入る。元龜元年六月、織田信長、淺井長政とこの川の沿岸に戦ひ、長政の軍を破つた。

(山城の八郡)愛宕、葛野、紀伊、乙訓、宇治、久世、綴喜、相樂。
 (丹波の五郡)南桑田、北桑田、船井、天田、何鹿。
 (丹後の五郡)加佐、興謝、中、竹野、熊野。

嵐山、保津川

嵐山は山城の葛野郡にある名所。愛宕山の東南に當り、桂川を隔て、相對してゐる。滿山悉く柳樹、花時の風景頗る美。この山の櫻は昔、龜山上皇吉野の花を移植ゑさせられたとのこと。山下の清流を大堰川といふ。こゝに一橋を架け、渡月橋といふ。大堰川の上流は即ち保津川。南桑田郡龜岡から舟をよこひ、この川を下るときは、約三里で、嵐山の下に達する。その間、兩岸、皆、絶壁削るが如く、多く躑躅花を生じ、晩春の候には、一時に咲きそろうて、朱に染む。川底には、大小の岩石起伏し、流水激して湍となり、或は潭をなしてゐる。一瀉千里、水勢甚だ急。しかも舟子は平然として棹をとり、船先に立ち、巧に岩角を避けて、流を追うて下る。實に奇觀である。

笠置山

山城の相樂郡、大和の國境にある名山。斷崖高く峙ち、谿深く、古來要害の地。山中に巨岩多く、いづれも、數千年間水蝕作用を受けて奇狀を現出したる花崗岩である。元弘元年、後醍醐天皇、この山に行幸し給ひ、楠正成を召し、討賊の詔を下し給ふ。たまく北條氏の兵來り襲ふに及び、城、遂に陥り、天皇藤房と、共に、この山を出で、吉野をさして逃れさせられた。そのみならず、天皇、憂慮のあまり、

さしてゆく笠置の山を出でしより

あめが下にはやどりかもなし

と詠せさせられた。藤房すなはち、涙をぬぐひ、

いかにせんたのむ隘さて立ちよれば

なほ袖ぬらす松のしたつゆ

と和し奉った。

平等院

宇治町にある名寺。元、大臣源融の別館であつた。陽成天皇行幸せられて、宇治院と稱せられ、長徳年中、藤原道家買収して山莊とした。永承七年道家の子頼道、寺をなして平等院と名づけた。源三位頼政が最後を遂げたところ。有名なる鳳凰堂は政府から特別の保護を加へてゐる。殊に、明治四十年四月政府は、この堂に大修繕を加へたから、今は、見かへるやうになつた。

天の橋立

丹後興謝郡宮津町の北方、沙洲一帯宮津灣に斗出すること、二七町四〇間、幅三二間青松の上に茂生して白砂と相映じ、遙に、これを望めば浮橋のやうである。故に、「天の浮橋」の別名がある。實に、日本三景の一で、風光頗る明媚。

大江山いくの、道の遠ければ

まだ文も見ず天の橋立

小式部内侍

大阪府

面積 一一二〇方里
人口 一、八二五、三〇〇

菅 轄	都 會	山 川	湖、瀑、温泉	社、寺、名所	海 岸	産 物	製 造 物
攝津の内 一市四郡	大阪市	金剛山	狭山池	住吉神社	觀音崎	綿	綿糸
河 内 郡	堺 市	牛瀧山	久米田池	高天神社	黒崎	米	清酒
和 泉 郡	岸和田	葛城山	和泉瀑	四國寺		大麥	磷寸
一市二郡	池 田	大和川	犬鳴山七瀑	櫻井城	大 阪 灣	茶 草	破酸
			満願寺瀑	千早城址		泉州蜜柑	池田炭

(攝津の四郡)東成、西成、三島、豊能。(河内の三郡)南河内、中河内、北河内。

(和泉の二郡)泉北、泉南。

大阪築港

數年前から築造中の大築港は、この程、殆ど、竣成した。突堤の長さは、北は一、四九二間、南は一、八五五間。今後の盛況は期して待つべきである。

大阪城

一に金城と號す。天正十一年、農臣秀吉が諸國の大名に賦課して、築かせた城。

周圍二里餘、今、尙、人をして、その規模の壯大なるに驚かしめる。今、第四師團司令部の所在地。

四天王寺

大阪市南區にある名刹。荒陵山難波寺ともいふ。天台宗。聖德太子の創建。

千早城址

金剛山の西腹にあるもの山勢巍巍として頗る險峻、四面の谿谷は削ったやうである。元弘二年楠正成の築いたところ。河内十七城の根城と稱せられてゐた。正成千餘人を率ゐて、この城に據つてゐたのを、北條高時八十万の軍勢を押し寄せ、いろくに攻めたけれども、遂に、抜くことが出来なかつた。元中七年足利義滿の將、畠山義深のために、陥れられた。

今、尙、壘壁の址を存してゐる。

四條綴

四條綴は、河内國飯盛山の西方に當る麩屋川と、清瀧川との間の地。正平三年楠正行(小楠公)の戦歿したところ。今、飯盛山西麓の高丘に四條綴神社がある。

別格官幣社で、小楠公を祭るもの。明治二十二年の創建。

奈良縣

面積 二五八方里
人口 五五七、六九一

管轄	大和郡
都會	奈良市
山川	大和川、吉野川、多武峯山、金山、彌上岳、山岳
湖澤溫泉	中壙澤池、千尋池、男湯、西唐、三湯、入湯、之波、湯、之、波、湯、泉
社寺名所	春日神社、橿原神社、談山神社、興福寺、東大寺、法隆寺、正倉院、三笠山、畝傍山、吉野山
天産物	木、麻、綿、木炭、米、茶、金、銅、水
製造物	大和木綿、奈良晒、筆、墨、奈良塗、奈良漬、奈良人形

(大和の十郡) 添上、山邊、磯城、宇陀、生駒、高市、南葛城、北葛城、宇智、吉野。
 春日神社、談山神社 春日神社は、春日山(三笠山)の麓にある官幣大社。神護景雲二年の創建。武甕槌神、經津主命、天兒屋根命の三神が祀つてある。清山の老樹枝を交へ、三々五々野鹿が群をなして、人に馴れ、風致愛すべきである。
 談山神社は、多武峯の中腹にある別格官幣社。藤原鎌足を祀るもの。社殿宏壯、境内幽邃である。

畝傍山陵

榎原の宮の西北にある山陵。四月三日の神武天皇祭は、すなはち、この山陵の祭である。

榎原の宮の西北にある山陵。四月三日の神武天皇祭は、すなはち、この山陵の祭である。

うねび山見ればかしこし榎原の
びじりの御世のおほみや所

本居宣長

東大寺、法隆寺

奈良の東大寺は、聖武天皇の朝に、總國分寺として建立せられた寺。金銅製の大佛の坐像を安置してある。大佛の高さ五丈三尺、面の長さ一丈六尺、幅九尺五寸。法隆寺は、舊名斑鳩寺、南都七大寺の一、聖德太子の建立にかゝり、我が國最古の建築物の一である。金堂、講堂、五重塔など、尙、存し、その佛像繪畫などは、大抵、國寶となつてある。

吉野山

吉野は、南朝四世(後醍醐)後村上、長慶、後龜山)の皇居のあった地。吉水神社、如意輪寺、後醍醐天皇の御陵等がある。吉野山の櫻花は、古來世に名高く、一目千本、奥の千本などの稱がある。

都だにさびしかりしを雲はれぬ

後醍醐天皇

吉野の奥の五月雨の空

いかばかり花さきねらん吉野山

寂 連

霞にあまるみれのしら雲

貞 室

これはくさばかり花の吉野山

月ヶ瀬の梅林

吉野山と共に、縣下の二大勝地として知られてゐる。奈良の東、三重縣の境、名張川の溪間にある梅林。花は九村八谷に亘り、花時の風景最もよろし。

三重縣 面積 三五二方里 人口 一〇四三、四一七

管轄	伊賀二郡 伊勢三郡 志摩一郡 紀伊二郡
都會	津市 四日市 宇治市 桑名市 上野市 松島
山川	鈴鹿山 朝熊山 大湫山 原山 宮川 備前川 雲出川 北山
瀑、温泉	布引瀑 八丁瀑 水谷瀑 小笠原瀑 七瀬泉
社、寺、名所	皇大神宮 豐受大神宮 結城神社 金山剛證寺 金剛寺 專見浦
海岸	大湫崎 御座島 志摩島 伊勢島 阿波島 熊野灘
天產物	伊勢米 菜種 木蠟 伊勢蝦 眞珠 鱧蛤
製造物	松阪木綿 津織子 綿糸 洋紙 春慶塗 萬古燒 傘

(伊賀の二郡)阿山、名賀。
 (伊勢の十郡)桑名、員辨、三重、鈴鹿、河藝、安濃、一志、飯南、多氣、度會。
 (志摩の一郡)志摩。
 (紀伊の二郡)北牟婁、南牟婁。

宇治山田市、大神宮 伊勢宮川の東畔に位し、中央に浦田阪といふ阪がある。もと

その東南を宇治とし、西北を山田としてゐたが、明治二十九年市制を施行してからは、宇治山田市と合稱するに至った。皇太神宮(内宮)は宇治の方に、豊受太神宮(外宮)は山田の方にある。總稱して伊勢の大神宮といふ。四時、参拜者の絶えることがない。

何事のおはしますかは知らねども
 かたじけなきに涙こぼるゝ
 西行法師

鈴鹿山、鈴鹿の關址 鈴鹿山は、鈴鹿郡の西北に位し、近江に跨る。山中深谷幽谷多く、俗に、八百八谷と稱してゐる。天武天皇の御世に、この山の南麓に鈴鹿の關を置かせられた。當時、日本三關の一に數へられて、甚だ、有名のものであった。

二見の浦 海濱白砂青松相連り、路のきはまる所に、二個の巨巖が屹立してゐる。夫婦岩といふ。色は蒼黒で、相距ること三間許、大なるものは高さ一丈、小なるものは一丈餘。大巖頭に鳥居を建て、大注連繩が兩巖に張りわたしてある。風光甚だよろし。

和歌山縣 面積 二九二方里 人口 六九六、七七八

管轄	紀伊の内 一市七郡
都會	和歌山市 新宮市 湯淺市 田辺市 加太市
山川	高野山 那智山 大塔山 熊野川 安高川 日高川 紀伊川
瀑・温泉	那智瀑 百間瀑 次道瀑 入神瀑 龍湯瀑 湯ノ峯温泉
社・寺・名所	熊野三社 熊野峯寺 金剛寺 粉川寺 紀三井寺 和歌山八町
海岸	加太岬 比叺岬 潮井岬 友ヶ島 大友島 山長島 田邊岬
産物	木材 蜜柑 無煙炭 那智黒 石鱈 鯨鱈
製産物	綿子 織羽 紋紙 傘 清酒 湯豆油 高野豆腐 黒江塗

(紀伊の七郡) 海草、那智、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁。

那智瀑 那智山の牛腹に、る。直下八十四丈、幅十八間。我が國屈指の名瀑。熊野浦を過ぐる者は、船中から望むことが出来る。この他に大小四十餘の瀑布があつて、俗に、那智の四十八瀑と稱せられてゐる。下流は那智川となる。

和歌の浦 和歌山市の南に位し、延長二里許、日本三景に次ぐべき勝地。名草山その東に聳え、洲崎その前面に横はり、風光明媚である。聖武天皇、この地に行幸して、明光浦と名づけられたこのハナ。

和歌の浦に潮満来ればかたをなみ

あしべをさして田鶴なきわたる

萬葉集

紀三井寺、粉河寺、根來寺、金剛峰寺 紀三井寺は西國順禮三十三所第二番

の札所。名草山にありて、金剛寶寺といひ、眞言宗である。紀三井寺といふのは、俗稱。寶龜元年の創建。

粉河寺は、那賀郡粉河町にある天台宗の名刹。西國順禮三十三所第三番の札所で、寶龜元年の創建。根來寺は那賀郡根來村にある眞言宗新義派の總本山。天治五年の開基。根來寺といふのは俗稱で、大傳法寺といふのが正稱。金剛峰寺は高野山上にある眞言宗古義派大本山で、支院末寺の山谷間にあるもの數十。寺域六十七万五千餘坪。

熊野三社 本宮にある熊野座神社と、新宮にある熊野早玉神社と、那智山にある熊野夫須美神社とを合せて、熊野三社といふ。古來、皇室の尊信淺からざりし所。

兵庫縣 面積 五三五方里 人口 一、八二六、一六七

管轄	攝津の内三郡、丹波の内三郡、播磨の十三郡、但馬の五郡、淡路の二郡
都會	神戸市、姫路市、明石市、西宮市、伊丹市、赤穂市、龍野市、出石市、豊岡市、生野市、洲本
山川	三國山、六甲山、摩耶山、書院山、武庫山、加古川、市川、掛川、千種川、圓川
湖、溪、温泉	布引瀑、七種瀑、太田瀑、天尾瀑、猿尾瀑、有馬温泉、城崎温泉、湯村温泉
社、寺、名所	湊川神社、人丸神社、中山寺、一石谷、明越寺、鶴越寺、舞子、須磨洞、武洞
海岸	男鹿島、家島、西島、明石海峡、由良海峽、大坂灘、播磨灘
天産物	兵庫米、御影石、但馬牛、銀、銅
製造物	清酒、綿紙、洋紙、帆船、龍崎油、赤穂鹽、出石焼、淡路焼、柳行李

(攝津の三郡)武庫、川邊、有馬。
 (丹波の二郡)多紀、氷上。
 (播磨の十三郡)明石、美奈、加東、加西、加古、多可、印南、飾磨、神崎、揖保、赤穂、佐用、赤粟。

(但馬の五郡)城崎、出石、養父、朝來、美方。
 (淡路の二郡)津名、三原。

須磨、舞子、明石 須磨浦は神戸の西南、播磨の境に近い名邑。前は海を隔て、淡路島に對し、後は鐵橋、鶴越等の諸山を負ひ、海濱は一帶翠松連り、白砂と相映じて、風景頗る佳。加ふるに、氣候溫和、空氣清潔なるため、轉地療養の客が多い。熊谷直實が平敦盛を討つたのは、この海濱であつた。

舞子は須磨の西に連る海岸の稱。須磨に劣らない名勝地。

明石は、舞子の西海岸にある名邑であつて、神戸を距ること五里。中國街道の要衝に當り、遊覽・療養の客の四時絶えることがない。明石浦とは、その海濱の稱であつて、一名、明石瀉といひ、古來有名な勝地である。

ほのくさ明石の浦の朝霧に
島がくれゆく舟をしぞ思ふ
柿本人丸

明石附近には、人丸山、石の寶殿、尾上の松、高砂の松、曾根の松などの名勝がある。

湊川神社、舊湊川 神戸市舊湊川の東北にある別格官幣社。楠正成公が祭つてある。元祿五年、徳川光圀、碑をこの所に建てた。碑面に、「嗚呼忠臣楠氏之墓」と題してある。明治五

年神號を賜ひ、社殿を修繕した。別格官幣社に列せられたのは、實に、この神社がはじめである。即ち新に、別格官幣社の格式を設けられたのであった。

河湊川は水害多きにより、近頃、新河道を郊外に開鑿した。

赤穂義士の復讐 元祿十四年三月勅使下向のなり、赤穂城主淺野長矩その接伴役を命ぜられた。長矩は典禮を吉良義央ヨシナカに問うたところ、義央は贈賄オクリモノの少いために、これを指示せないのみか、さんざんに辱めた。長矩は怒に堪へないで、殿中を懼らずに義央を傷けた。これが爲に將軍綱吉長矩に死を賜ひ、その城を取上げた。遣臣大石良雄等四十七士いろく苦心して、翌年十二月十四日の夜、義央の邸を襲うて、首尾よく、主君の讐を報いた。

有馬温泉 攝津の有馬郡、六甲山の北に湧出するもの、阪鶴鐵道三田停車場を去る三里餘三面山を繞らし、僅に北の一方のみ開け、風光極めて佳。泉質鹽類泉に屬し、腫物、皮膚病、打傷、中風、リウマチス、貧血症等に効多く、浴客常に絶えることがない。有馬電氣鐵道竣工の曉には、その繁昌察すべきである。

城崎温泉

但馬の城崎キノサキにある有名なる温泉。泉質は鹽類泉で、無色透明。温度は、華氏

百度から百二十度の間。山水秀美、北海に近いので、空氣清く、避暑の好適地。

玄武洞

但馬の豊岡の北一里半の所にある洞。その狀、百千の石柱を縦横に積み重ねたやうである。洞の長さ四十間、左、右、中の三房に分れ、間口十二間餘。頗る奇觀である。

鱗寸の産額

鱗寸の産額は、實に我が國第一。今、参考のために、左に比較の表を示す。

全 國	七、〇〇〇、〇〇〇圓	(百分率) 一〇〇、〇
兵 庫 縣	三、八四〇、〇〇〇圓	五四、五
大 阪 府	一、一八〇、〇〇〇圓	一七、〇
愛 知 縣	一、〇〇〇、〇〇〇圓	一五、五

中國地方

地位

勢署

本州島の西部を占めてゐて、北は日本海に面し、東は近畿地方に接し、南は一帶瀬戸内海に臨み、西は馬關海峡を隔て、九州に對してゐる。地勢は東西に狭長く、中央には中國山脈西から走り、陰陽兩斜面に分けて、又、これと並行して、北海岸を走れる火山脈がある。

瀬戸内海は、地盤の陥落して成つたものであるから、陸地の殘片が無数の島嶼をつくり、海岸も、亦、屈曲出入頗る多く、半島港灣に富んでゐる。

南海岸

半島—兒島半島、柄半島、柳井津半島。

倉橋島、能美島、江田島、屋代島、平群島、その他無數の島嶼。

灘—水島灘、備後灘、廣島灘、周防灘。

北海岸

半島—島根半島、向津具半島。

島—隱岐列島、見島、青海島、角島。

南海岸に比すれば、海濱に平坦の地多く、半島、港灣、島嶼に乏しい。

概括

山

脈

山脈は域内を縦貫して、山陰、山陽の兩面を分け、又、これと並行して、北海岸を走れる火山脈がある。

中國山脈

白山火山脈

大山(五、八八〇尺)

三國山
三瓶山

吉井川(一名東大川)

(二八里)

旭川(一名四大川)

(三二里)

高梁川

(二九里)

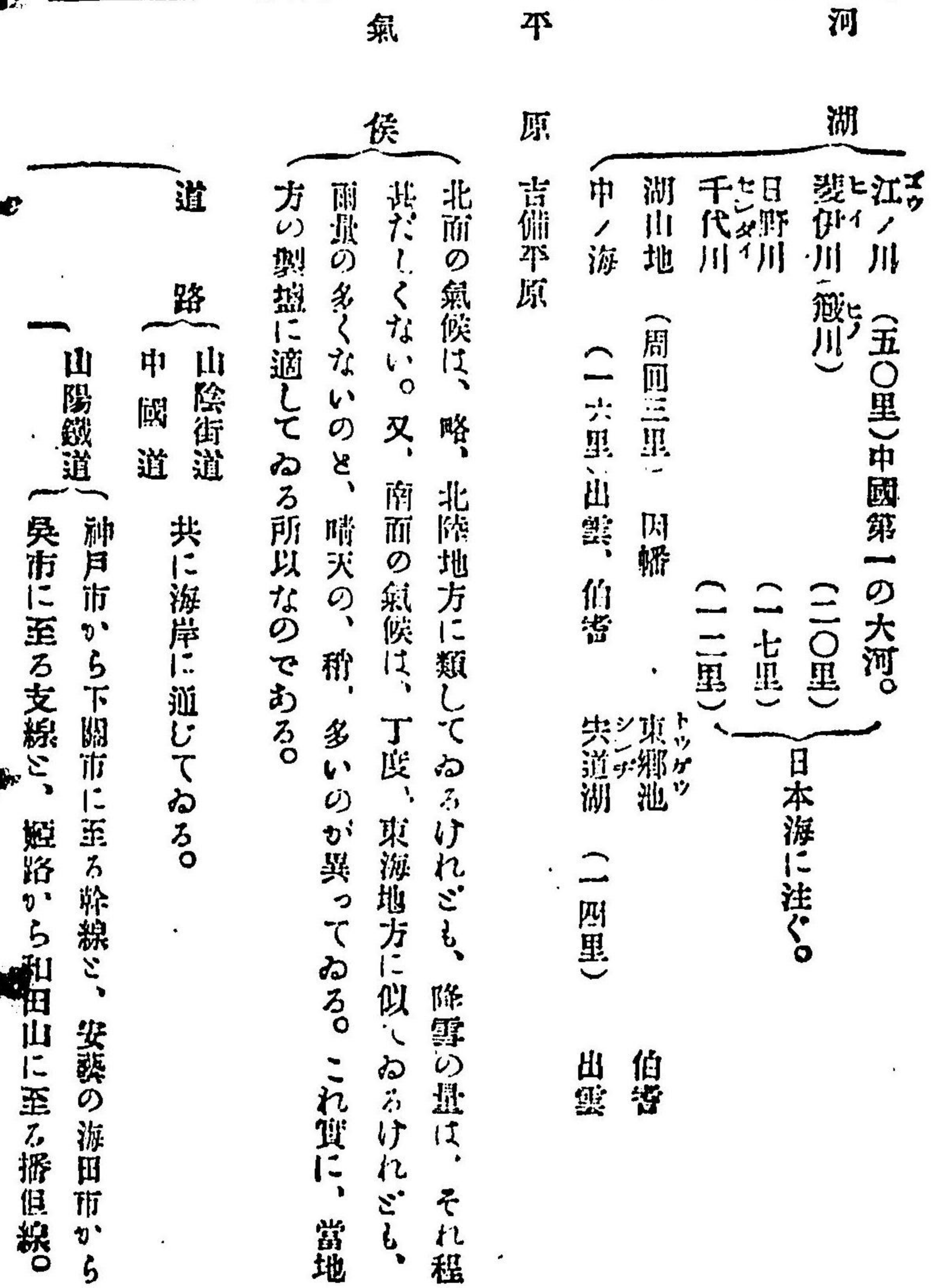
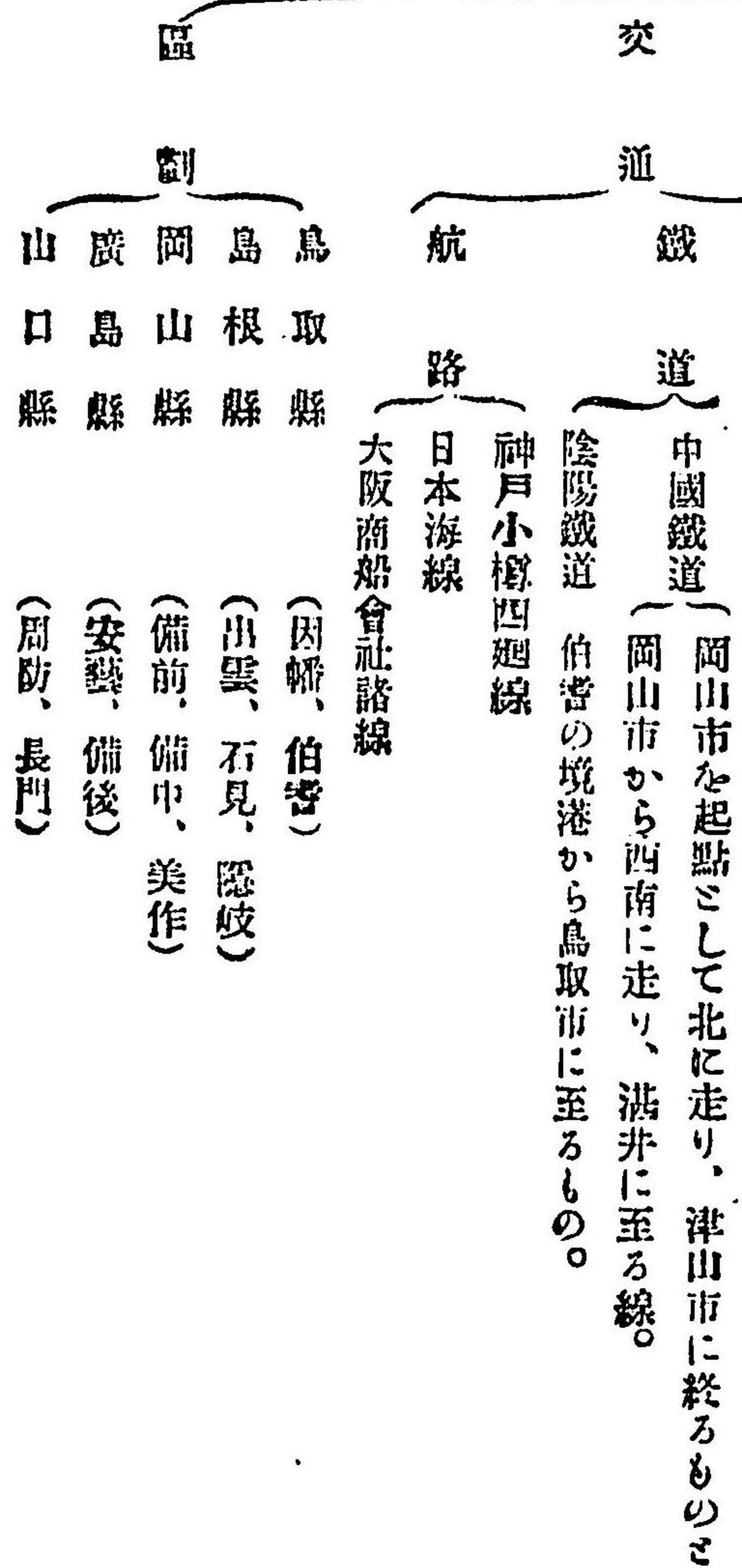
太田川

(二三里)

瀬戸内海に注ぐ。

【備考】

この外に、隱岐から北西八五哩の海中に、日本海々戦で有名となつた竹島といふ島がある。この島は、もと、リヤンコールド島と稱してゐた。これは西曆一八九四年フランス軍艦探險の際、命名したものである。けれども、この島は、島根地方では、古から知られてゐたものであつた。この島は、明治三十七年二月二十一日新に島根縣管轄とし、隱岐國の附屬島となつた。魚族のこの附近に集るもの甚だ多く、鯛、鱈、石首魚、鮑等の漁獲は著しい。



日本海に注ぐ。

トツガツ 東郷池
シメダ 矢道湖 (一四里) 出雲 伯耆

鳥取縣

面積 二二八方里
人口 四三三、九二一

管轄	因幡一市三郡	都會	鳥取市
郡	伯耆郡	郡	境御來屋
郡	三郡	郡	日野川
郡	三郡	郡	天川
郡	三郡	郡	千代川
郡	三郡	郡	船上山
郡	三郡	郡	大野山
郡	三郡	郡	菅野山
郡	三郡	郡	扇山
郡	三郡	郡	湖山
郡	三郡	郡	東郷池
郡	三郡	郡	雨鹿池
郡	三郡	郡	諸鹿池
郡	三郡	郡	岩井池
郡	三郡	郡	吉岡池
郡	三郡	郡	三朝池
郡	三郡	郡	温泉
郡	三郡	郡	船上山
郡	三郡	郡	稻葉山
郡	三郡	郡	大葉山
郡	三郡	郡	退田寺
郡	三郡	郡	名和寺
郡	三郡	郡	宇倍神社
郡	三郡	郡	海岸
郡	三郡	郡	青谷鼻
郡	三郡	郡	鳥ヶ島
郡	三郡	郡	夜見ヶ濱
郡	三郡	郡	白帆立
郡	三郡	郡	珊瑚
郡	三郡	郡	海草
郡	三郡	郡	蟹
郡	三郡	郡	牛
郡	三郡	郡	銅
郡	三郡	郡	砂
郡	三郡	郡	綿
郡	三郡	郡	鐵
郡	三郡	郡	生
郡	三郡	郡	緋
郡	三郡	郡	紙
郡	三郡	郡	葛
郡	三郡	郡	稻
郡	三郡	郡	拔粉
郡	三郡	郡	製
郡	三郡	郡	造
郡	三郡	郡	物

(因幡の三郡)岩美、八頭、氣高。

(伯耆の三郡)東伯、西伯、日野。

大山、船上山

大山は、中國第一の高山であつて、海拔五、八八〇尺。山中に舊噴火

口を有し、山路険峻なれば、登ること甚だ困難なれど、絶頂の眺望頗る佳。その裾野は牧場に適し、多く軍馬を養成してゐる。

船上山は、大山の北東にある。元弘三年名和長年が、後醍醐天皇を奉じて、義兵を擧げたるころとして名高い。

忘れめやふるべも波のあらいそを

後醍醐天皇

御ふれの上にとめしこゝろは

稲葉山、宇倍神社

稲葉山は、鳥取市の東二里餘にある。一名宇倍山。山の北方に

宇倍神社といふがある。國幣神社、武内宿禰を祀る。大化四年創建。本國の一宮。

立ちわかれ因幡の山の峰に生ふる

在原行平

まつとしきかば今かへり來む

湖山池、東郷池

湖山池は、因幡の海岸にある湖水。周囲三里二十丁。湖中に青島と

いふがある。風景絶佳。東郷池は、伯耆の海岸にある湖。東郷鯉の名高し。

夜見ヶ濱(弓ヶ濱)

伯耆の西北に突出する半島。海中に斗出すること五里。幅廣き所一里。白砂青松遠く相連り、風光絶佳。詩人は天立橋に對して大天橋と稱してゐる。

島根縣 面積 四三七方里 人口 七二八、八〇七

管轄	出雲一市六郡
都會	松江 浜田 今市 津和野 杵築
山川	三國山 船通山 三瓶山 大森山 斐伊川 神門川 江津川 高津川
湖、瀑、温泉	六知道湖 那知湖 岩龍寺 井谷雄 有福温泉 玉造温泉 温泉
社、寺、名所	出雲大社 丸雲神社 清見寺 後鳥羽上皇 御火葬所 黒木御所 三瓶川 船通山
海岸	多古鼻 手結崎 日御崎 中島 四島 知夫里島 島根半島
天産物	大麻 綿 人参 十八島 海苔 牛鱈 鐵銀 銅 瑪瑙
製造物	石州半紙 瑪瑙細工 瓦 布志名焼 鰯 表

(出雲の六郡)能義、仁多、大原、飯石、飯川、八束。(石見の六郡)邇摩、安濃、邑智、那賀、美濃、鹿足。(隱岐の四郡)海士、周吉、穩地、知夫。

宍道湖 いにしへは、中海と相通じて意字海と稱した。今は泥砂堆積し、只一條の河

を以て通じてゐるのみ。いはゆる馬湯の瀬戸。周囲十三里。湖中の鱈は有名である。

簸ノ川上 斐伊川の水源、船通山は世にいはゆる簸ノ川上であつて、素盞鳴尊が、櫛稻

田姫のために、八頭のを斬り、その尾から獲雲 劍を得て、天照大神に奉られたところとし、世に聞えてゐる。

八雲立ついつも八重がきつまこめに 八重垣つくるその八重垣を 素盞鳴尊

出雲大社(杵築神社) 大國主命を祀れる社。大社境内廣さ凡そ二万四千餘坪。三重の石廊を畫し周囲には、老杉森然として茂つてゐる。毎年五月十四日に大祭がある。神威伊勢の大廟に次いでゐる。

黒木御所址 隱岐の知夫里島にある。元弘二年逆臣北條高時 後醍醐天皇をこの地に遷し奉つた。後、天皇ひまかにこの地を逃れて伯耆に遷幸し、名和氏によらせられた。

後鳥羽上皇御火葬所 隱岐の中ノ島にある。承久の亂に、北條義時 後鳥羽上皇をこの島に遷し奉つた。かくて、こゝにましますこと十有九年、遂に、このさびしき孤島に、崩せさせられた。本年六月四日 皇太子殿下山陰行幸の途次、兩上皇の御址を巡覽あらせられた。

われこそは新島守よれきの海の 荒きなみ風こゝろして吹け 後鳥羽上皇

鳥取縣 面積二二八方里 人口四三三九二一

管轄	因幡一市三郡	都會	鳥取市	山、川	湖、溪、溫泉	社、寺、名所	海岸	產物	製造物
伯耆三郡	境倉米島	御來屋	日天千船大菅扇	野神代上山山山	三吉岩諸雨東湖	船稻大退名宇	夜鳥青	白帆海蟹牛銅砂	稻葛紙緋生
			川川川山山山	川川川山山山	朝岡井溫溫泉	上山山寺寺	見ヶ濱	珊立貝草鯛綿鐵	拔粉

(因幡の三郡)岩美、八頭、氣高。

(伯耆の三郡)東伯、西伯、日野。

大山、船上山

大山は、中國第一の高山であつて、海拔五、八八〇尺。山中に舊噴火口を有し、山路險峻なれば、登ること甚だ困難なれど、絶頂の眺望頗る佳。その裾野は牧場に適し、多く軍馬を養成してゐる。

船上山は、大山の北東にある。元弘三年名和長年が、後醍醐天皇を奉じて、義兵を擧げたところとして名高い。

忘れめやふるべも波のあらいそを

後醍醐天皇

御ふれの上にとめしこゝろは

稲葉山、宇倍神社

稲葉山は、鳥取市の東二里餘にある。一名宇倍山。山の北方に宇倍神社といふがある。國幣神社、武内宿禰を祀る。大化四年創建。本國の一宮。

立ちわかれ因幡の山の峰に生ふる

在原行平

まつとしきかば今かへり來む

湖山池、東郷池

湖山池は、因幡の海岸にある湖水。周囲三里二十丁。湖中に青島といふがある。風景絶佳。東郷池は、伯耆の海岸にある湖。東郷鯉の名高し。

夜見ヶ濱(弓ヶ濱)

伯耆の西北に突出する半島。海中に斗出すること五里。幅廣き所一里。白砂青松遠く相連り、風光絶佳。詩人は天立橋に對して大天橋と稱してゐる。

島根縣

面積 四三七方里
人口 七二八、八〇七

管轄	出雲一市六郡 松江市
都會	松江市
山川	三國山、船通山、三瓶山、大森山、斐伊川、神門川、高津川
湖澤溫泉	宍道湖、龍寺湯、那谷雄湯、岩谷雄湯、井福湯、有造湯、玉津湯、溫泉
社寺名所	出雲大社、入丸神社、清見寺、後鳥羽上皇御所、御火葬所、黒木御所、船通山
海岸	多古鼻、手結崎、日御崎、中島島、西島島、知夫里島、中島根、島半海
天産物	大麻、綿、人參、十島、海苔、牛島、鐵、銅、瑪瑙
製造物	石州半紙、琉璃細工、瓦、布志名焼、銅、鋳、表

(出雲の六郡)能義、仁多、大原、飯石、飯川、八束。(石見の六郡)遊原、安濃、邑智、那賀、美濃、座尾。(隱岐の四郡)海士、周吉、嵯地、知夫。

宍道湖 いにしへは、中海と相通じて意宇海と稱した。今は泥砂堆積し、只、一條の河を以て通じてゐるのみ。いはゆる馬湯の瀬戸。周囲十三里。湖中の鱧は有名である。

簸ノ川上 斐伊川の水源、船通山は世にいはゆる簸ノ川上であつて、素盞鳴尊が、櫛稻

田姫のために、八頭の蛇を斬り、その尾から糞雲 劍を得て、天照大神に奉られたところとして、世に聞えてゐる。

八雲立ついつも八重がきつまこめに
八重垣つくるその八重垣を

出雲大社(杵築神社) 大國主命を祀れる社。大社境内廣さ凡そ二万四千餘坪。三重の石廊を畫し周圍には、老杉森然として茂つてゐる。毎年五月十四日に大祭がある。神威伊勢の大廟に次いでゐる。

黒木御所址 隱岐の知夫里島にある。元弘二年逆臣北條高時 後醍醐天皇をこの地に遷し奉った。後、 天皇ひそかにこの地を逃れて伯耆に還幸し、名和氏によらせられた。

後鳥羽上皇御火葬所 隱岐の中ノ島にある。承久の亂に、北條義時 後鳥羽上皇をこの島に遷し奉った。かくて、ここにましますこと十有九年、遂に、このさびしき孤島に、崩せさせられた。本年六月四日 皇太子殿下山陰行幸の途次、兩上皇の御址を巡覽あらせられた。

われこそは新島守よれきの海の
荒きなみ風こゝろして吹け

後鳥羽上皇

岡山縣 面積 四四五方里 人口 一、一八七、一〇三

管轄都會	岡山、川	湖、澤、溫泉	社、寺、名所	海岸	天產物	製造物
美作郡	三那岐山	大田池	安仁神社	鹿久居島	米、綿	花、表
備前郡	天高神山	岩井澤	中山神社	北木島	牛、馬	綿、草
備中郡	旭高川	湯郷	西備津神社	神島	三石、蠶石	銅、鐵
備前六郡	高梁郡	奥津	後樂園	兒島	海、月	鯛、鰻
備前八郡	高梁郡	石津	庄園	水島	鯛、鰻	鹽、醬

(美作の五郡) 眞庭、勝田、久米、英田、昔田。
 (備前の六郡) 御津、赤磐、上道、兒島、邑久、和氣。
 (備中の八郡) 都窪、川上、阿哲、淺口、上房、後月、小田、吉備。

兒島半島 兒島半島は、もこ、島であつて、兒島灣は海峽の一部であつたが、土砂の堆積により、遂に、今日の如くなつたのである。半島頸部の藤戸は、昔、渡場のあつたところであ

る。又、源平の戦に、平行盛、兵五百餘を以て、城を兒島に構へてゐたのを、佐々木盛綱海波を凌ぎ、騎して、この島に渡り、遂に、城を陥れた。

院の庄、作樂神社 美作國皆田郡津山の西方一里にあるところ。元弘二年 後醍醐天皇隱岐に遷幸せらるゝとき、備前の人兒島高德が、車駕に尾して、夜、御館に至り、櫻の樹を刈ぎて「天莫レ空ニシクスルコト勿 踐一ヲ。時ニ非レヌ無ニキニシモ范蠡一」と題して去つたのは、即ちこの地であつた。

作樂神社は院の庄にある縣社。 後醍醐天皇及び兒島高德を祀る。明治三年の創建。
 後樂園 貞享年間、藩主池田綱政の創設したもの。旭川の東岸に位し、周圍一里餘、四時花の絶えることなく、風光明媚である。日本三公園の一。

吉備津神社 備中國吉備郡真金村にある國幣中社。大吉備津彦命を祭る。仁徳天皇の御宇の創建に係る。一説に、推古天皇の御宇とも。規模の宏大なるを、結構の壯麗なるを以て著はれてゐる。

高松城址 吉備郡高松村にある城址で、豊公の水攻を以て有名である。天正十年五月秀

吉毛利氏の將、清水宗治をこの城に圍み、城の西方を流れてゐる足守川の水を城中に溢ソソぎ、これを陥れた。

麥稗ムギワラサナダ真田の産額

麥稗真田及び華蓮の産出額は、共に、日本第一である。今、麥稗真田の比較を示せば、次の通り。

全 國	二、七四〇、〇〇〇圓	(百分率) 一〇〇.〇
岡山縣	一、七二〇、〇〇〇圓	六二.五
愛知縣	四七〇、〇〇〇圓	一七.〇
廣 島 縣	八〇、〇〇〇圓	三.〇

廣 島 縣 面積 五四方里 人口 一四九六四二八

管 轄	備 一市九郡 安 二市七郡	廣 島 市 尾 道 市 福 山 市 府 中 市 庄 原 市 絲 崎 市 吉 野 市 三 吉 郡	郡 會	山 川	湖、瀑、溫泉	社、寺、名所	海 岸	天 產 物	製 造 物
		廣 島 市 尾 道 市 福 山 市 府 中 市 庄 原 市 絲 崎 市 吉 野 市 三 吉 郡		御 古 登 山 美 古 岳 山 天 神 岳 山 刈 尾 山 鬼 城 山 太 田 川 三 次 川 芦 田 川	日 野 池 春 野 池 上 智 池 那 級 池 三 級 池 常 青 池 二 河 池 湯 山 池	饒 津 神 社 島 津 神 社 名 島 神 社 沼 前 神 社 千 光 寺 神 崎 寺 宮 島 橋	鞆 島 江 島 能 島 倉 島 浦 島 因 島 總 島 廣 島 灣	大 麻 煙 草 綿 織 砂 鐵 牛 鐵 牡 蠣	備 後 表 産 莫 綿 織 木 綿 織 山 繭 織 紙 繭 織 清 酒 釀 保 命 酒 鐵 器 鹽 詰

(備後の九郡)御調、世羅、深安、沼隈、蘆品、神石、甲奴、雙二、比婆。
 (安藝の七郡)佐伯、安佐、山縣、高田、賀茂、豊田。

廣島、宇品、吳、廣島市は太田川の三角洲に跨り、第五師團司令部は、その舊城にある。明治二十七八年の役には、大本營を置かせられた。控訴院、廣島高等師範學校、職工學校、商業學校などがある。

宇治は、築港完成して、廣島市の港となり、山陽鐵道の支線を通じてゐる。内海の船舶輻輳し、征清の出兵も、亦、大抵、この地からした。即ち、軍事上本邦有数の要港。

南東の吳港は、穩戸の瀬戸を東門とし、南西は江田島を控へたる軍港で、内海の警備に任ずる第二海軍鎮守府の所在地である。又、大なる造船所及び製鋼所があつて、二万噸に近い巨艦の建造及び海軍用重砲の鑄造が自由である。

嚴島(宮島)嚴島神社 嚴島は、安藝の佐伯郡に屬し、周囲七里餘、廣島の南西五里海上に位し、宮島停車場を去ること、僅に一里。弘治元年、毛利元就が流言を放つて、陶晴賢を滅した所。島中の嚴島神社は、數多の狹廊長く連り、結構壯麗、潮満つれば、嚴島水に浮び、風景絶佳。實に日本三景の一。宮は平清盛が造營したものであつて、市杵島姫を祀り、現今國幣中社に列せられてゐる。

繪圖よりも見て驚けりいつく島

穩戸の瀬戸 穩戸の瀬戸は、倉橋島と本國との間にある瀬戸。長さ六丁、幅の狭いといふ。一町に過ぎない。昔、平清盛が開鑿せしめたところといふ。

山口縣 面積 三九〇方里 人口 一、〇一〇、九一六

管轄	都會	山川	湖、溪、温泉	社、寺、名所	海岸	天産物	製造物
周防六郡	下關市、防府、山口、萩、徳山、柳井、小野田	徳川、石川、母野、鹿野、現山、吉野、厚狭、吉田	常盤池、長澤池、金鷲池、晴嵐池、湯本温泉、湯田温泉	豊榮神社、赤間宮、龍福寺、引接寺、錦帯橋、壇ノ浦	川尻、平島、大島、上島、笠島、奇島、下島、周防灘	米、煙草、夏蜜柑、大石、石灰、安石、硯、鯛、鱈	岩國縮、柳井蚊帳、紙、紙、紙、紙、紙、紙、紙、紙

(周防の六郡) 玖珂、熊毛、都濃、佐波、吉敷、(長門の五郡) 厚狭、豊浦、美祿、大津、阿武。

周防の錦帯橋 岩國川に架せる橋で、一名、算盤橋といふ。長さ百二十五間、四個の橋脚を築き、これに半月形の五小橋が架けてある。わが國架橋工事中、奇巧と堅牢とを以て稱せられてゐる。橋畔の碑は、明治九年申村祐、藤田葆等の建設したものである。橋は、延寶元年の秋、藩

主吉川支信命じて、この橋を作らしめ、爾後數十回の修繕を加へたけれども、毫も舊形を變じない。

下關市、赤間宮 アルマゲセキ 下關市は、赤間關又馬關と稱し、本州の西南部に位する開港場で、瀬戸内海西門の要地である。多く石炭を輸出し、米集散の大市場。又、要塞をこの地に置く。文久三年長州侯が合衆國及びフランス等の軍艦と戦つたのはこの地で、又、日清の役、兩國大使が媾和の條約を結んだのもこの地である。

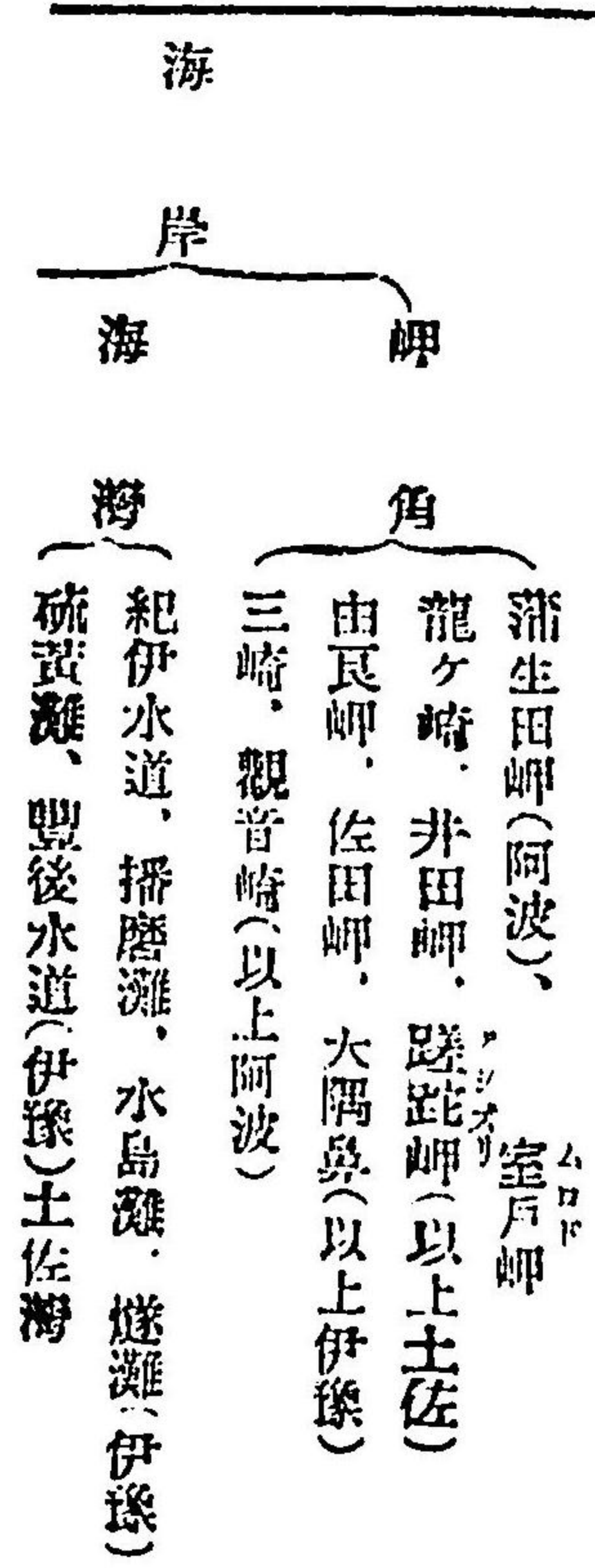
壇の浦 下關市の東方海面を壇浦といふ。平氏覆没の古戰場。文治元年平氏讃岐に破れ安徳天皇を奉じて海に航し、こゝに轉じた。已にして、源氏の大军通り來り、大に海中に戦つたけれども、平軍大に破れ、二位の尼天皇を抱きて海に投じ、平氏全く亡びた。

今ぞ知る御裳すそ川の流には
波のそこにも都ありとは
二位尼

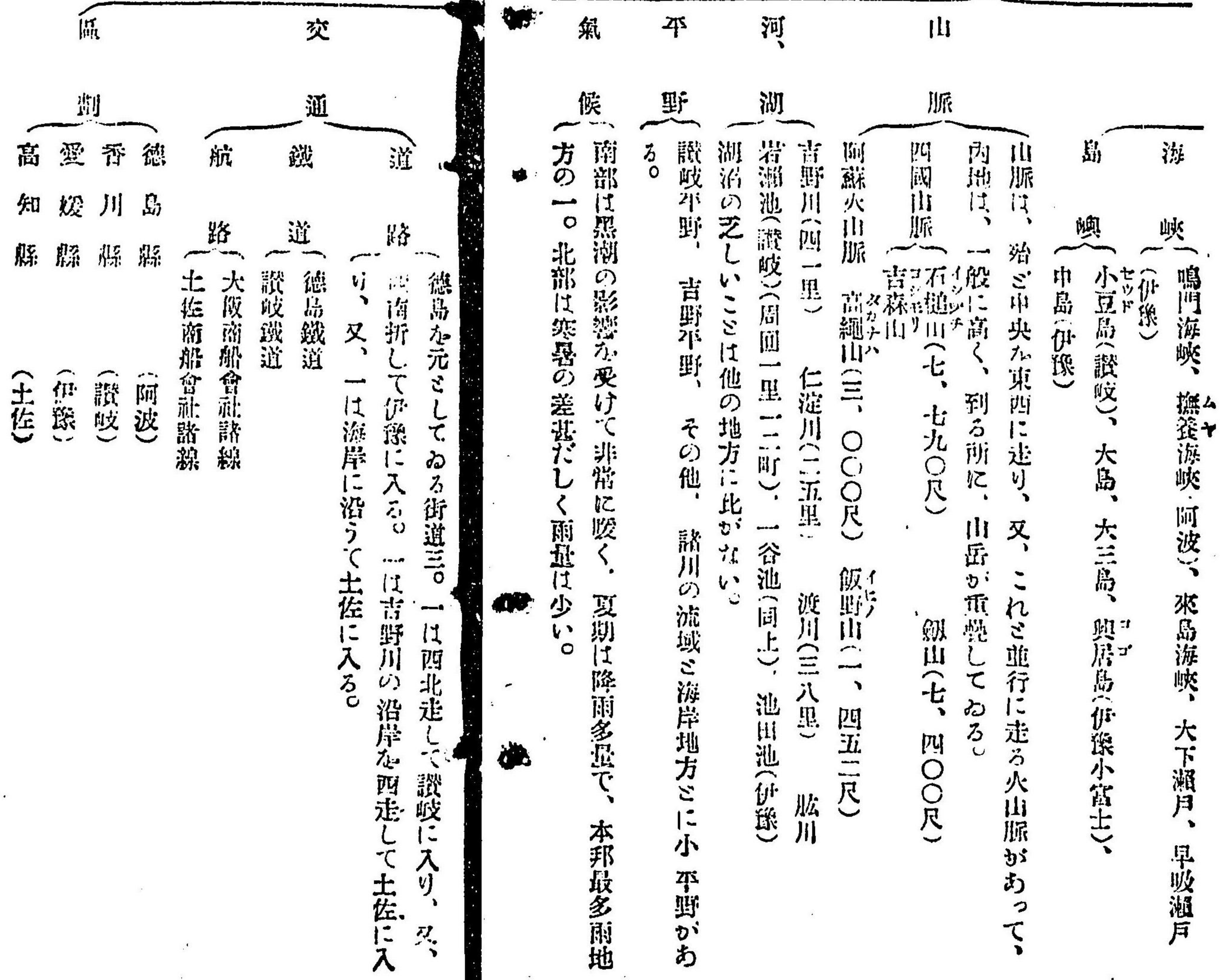
四國地方

位置 中國の南、近畿地方と九州との間にある大島。即ち北は瀬戸内海を擁し、南は太平洋に面し、東は紀伊水道を隔て、紀伊と相對し、西は豊後海峡を隔て、九州に對してゐる。

勢 四國山脈本島の中央を走って脊梁セキリヤウをなし、地勢を南北兩部に分けてゐる。河流は、大抵、中央の分水嶺に發し、南北に分流してゐるけれども、たゞ吉野川は脊梁の兩側から發して東流し、廣大なる流域を残し、那賀川も、亦、上佐の境に發して東流してゐる。



概括



徳島縣 面積 二六九方里 人口 七〇六、八三一

阿波一市十郡	徳島市	山	湖	社寺名所	海岸	天産物	製造物
池田	徳島市	三山	櫻池	劍神社	浦生崎	藍	齋田鹽
富田	徳島市	大岳	鳴間	忌部神社	大島	茶	阿波織
小松	徳島市	吉野川	米光	丈六寺	伊島	木	阿波織
脇島	徳島市	賀川	藤澤	大龍寺	鳴門海峡	米	半田枕
勝島	徳島市	那賀川	治澤	祖谷	海草	草	藍玉
那賀	徳島市		瀨澤	龍門			

(阿波の十郡) 名東、勝浦、那賀、海部、名西、板野、阿波、麻植、美馬、三好。

祖谷の蔓橋

祖谷の蔓橋 飯山から發する祖谷川の上流にある釣橋であつて、蔓を纏うて造つたものである。最大なるものを善徳橋と名づけ、長さ三十三間、幅四尺、水上から十八丈の高所に架けてある。祖谷地方は、山多く谷深くして、風俗人情自ら別世界の觀がある。昔、平家の遺族がここに隠遁してゐたさうである。

阿波の鳴門

阿波の鳴門 板野郡の東端と淡路と相對して所謂鳴門海峡をなしてゐる。距離十五丁南北の長さ二里餘。潮流急迅一大渦流をなし、潮水吼えて雷の如く、航行險惡、舟子の最も恐れる處である。

藍の産額

藍の産額は、本邦第一である。産額の比較を示せば、次の通り。

全 國	一五、六〇〇、〇〇〇圓	(百分率)
徳 島 縣	四、二〇〇、〇〇〇圓	二七、〇
愛 知 縣	一、三〇〇、〇〇〇圓	八、五
福 岡 縣	一、二〇〇、〇〇〇圓	七、五

香川縣

面積 一一〇方里
人口 七〇五、四四〇

管轄	都會	山、川	湖、瀑	社、寺、名所	海岸	大產物	製造物
二市七郡	高松市、丸龜市、善通寺、琴平、多度、觀音寺、引田	飯野山、五劍山、象頭山、雲邊寺、白雲山、香東川、財田川	北條池、大谷池、滿濃池、不動池、嘉見池、高淵	金刀比羅宮、志度寺、志島寺、志度島、栗園、寒霞島、屋島	三音岬、觀音島、小豆島、鹽池島、鹽池島、播磨灘、燧灘	米、綿、藍、甘蔗、草蓆	砂糖、醬油、鹽、麥、丸龜團扇、象谷塗、保存田綿

(香岐の七郡)大川、木田、香川、小豆、綾歌、仲多度、三豊。

屋島 屋島は、木田郡に屬し、五劍山の四麓の瀬戸内海に迫った海邊にある。山の形が屋宇に似てゐるので、屋島の名があるとのこと。有高さ源平の古戦場で、又、安徳天皇の行宮の跡がある。

愛媛縣

面積 三六二方里
人口 一、〇三二、二三四

管轄	都會	山、川	湖、瀑、温泉	社、寺、名所	海岸	大產物	製造物
伊豫十二市	今治市、松山市、宇和島、三津濱、道後、大洲、別子、長濱、波上、八幡濱	石鎚山、高繩山、鬼ヶ城山、市川山、別子銅山、重信川、肱川	嘉周池、池田池、兼久池、高降池、霧降池、雪輪池、道後温泉	和靈神社、大山嶺神社、川ノ江城址、國分山城址、松葉城址、吹揚公園、高繩山	高繩半島、大隅鼻、佐田岬、山崎岬、來島岬、興居島、日振島、燧灘、砥灘、豐後水道	糖、綿、藍、銅、安寶母、鯛、鱒	伊豫山綿、松山蠶絲、木綿、伊豫紙、大洲紙、伊豫紙、鹽紙、砥部焼

寒霞溪 小豆島の中にある絶勝のこころ。阪手港を距ること約五十町。奇巖怪石の風景は豊前の耶馬溪に劣らない。絶頂からの眺望は頗る宜しく、逆も筆舌の及ぶところでない。こゝに一の立石があつて、「初時雨猿も小笠を欲しげなり」と記してある。

金刀比羅宮 琴平野にある國幣中社。大己貴命を祭り、崇徳天皇を合祀す。世に船神として、船主水手の信仰するものが多い。社殿の壯麗を極めてゐることは、日光に亞ぐること。

(伊豫の十二郡)宇摩、新居、周桑、越智、温泉、伊豫、上浮穴、喜多、東宇和、西宇和、南宇和、北宇和。

石鎚山、別子銅山

石鎚山は、土佐の境に峙ち、四國第一の靈山と稱せらる。海拔七、七九〇尺。五月の交、猶、白雪を戴いてゐる。別子銅山は四、〇〇〇尺の高山から鐵道及び鐵索によりて、銅鑛を海岸の新居濱に送り、この地にて製煉してゐる。その産額は足尾に次ぐ。

道後温泉

松山市の北半里にあたり、古來有名である。泉質は單純泉で、無臭無味半透明である。治効著しく。浴容雑沓す。

興居島

三津濱の面前に横つてゐる、阿蘇火山脈に屬する火山島。全島一山から成り、俗に、伊豫の小富士と稱せられてゐる。近海は鯛漁を以つて名高い。

高知縣

面積 四八四方里
人口 六四三、五二四

管轄	都會	山、川	瀑、温泉	社、寺、名所	海岸	天産物	製造物
土佐一市七郡	高知市、高須、安藝、中野、伊予、浦戸、赤岡、津呂、甲浦	御在所山、矢筈山、渡萬子川、仁淀川、物部川	不動瀑、小金瀑、古不動瀑、大内鑛泉、別役温泉、圓行寺温泉	土佐神社、隨應寺、野根山、吸江十景、龍串ノ奇景	室戸岬、足摺岬、足摺岬、沖島、土佐灣、浦戸灣	木、竹、茶、米、珊瑚、眞珠、鯨、鯨	土佐半紙、樟腦、土佐節、珊瑚細工

(土佐の七郡)土佐、幡多、高岡、吾川、長岡、香美、安藝。

土佐の三大河

渡川(一名、四万十川、流程二〇里)、仁淀川(流程二六里)、物部川(流程二五里)を土佐の三大河と稱す。いづれも土佐灣に注いでゐる。

高知市、近傍の舊蹟

高知市は風景絶佳なる吸江に臨み、もと、山内氏二十四万二

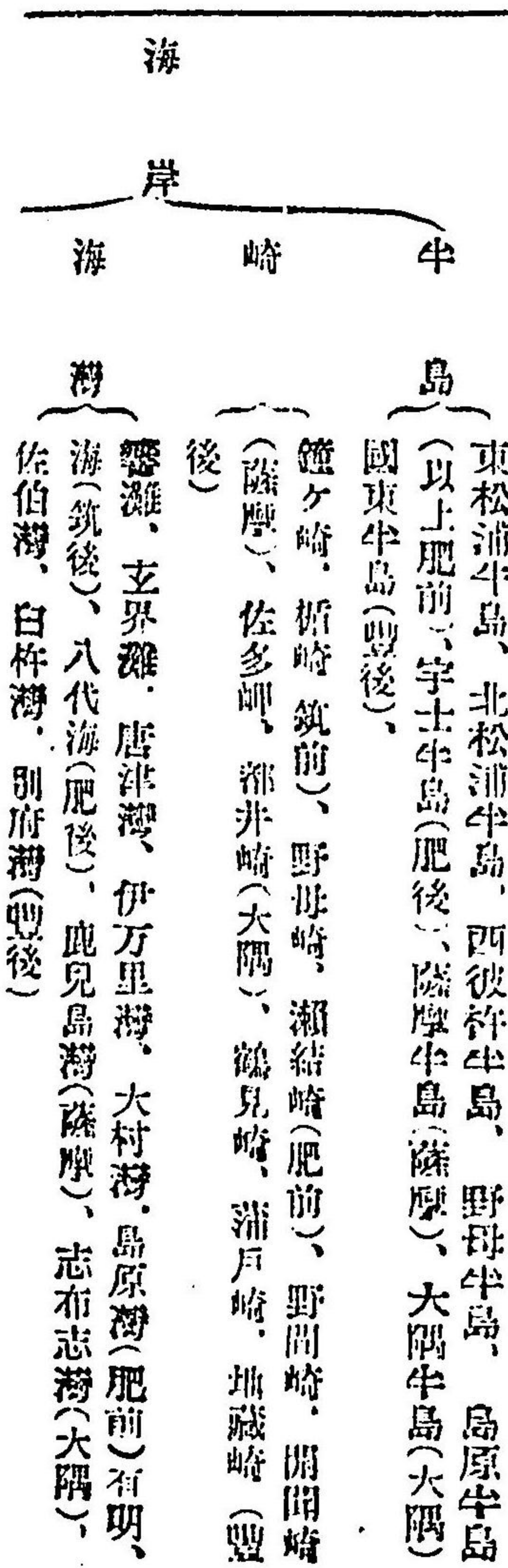
千石の舊城地であつて、明治維新の際には、數多の志士を出したところ。
 高知市東北にある國比佐は、彼の土佐日記の作者として名高い紀貫之の居たところ。浦戸港の近傍なる龍頭岬上には長曾我部氏の城址があつて、岡豊は、その起業地。手結港の西にある姫倉月見山は、土御門天皇行在所の舊蹟である。

紙の産額 本縣は製紙業盛であつて、その産額は、實に日本第一に位し、土佐半紙の名は世に聞えてゐる。

全 國	一三、〇〇〇、〇〇〇圓	(百分率)
高 知 縣	二、五〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇
愛 媛 縣	一、二〇〇、〇〇〇圓	一九、〇
岐 阜 縣	一、二二〇、〇〇〇圓	九、〇
		三、五

九州地方

本州の西南部に控えてゐる九州島と、壹岐、對馬、琉球の四大島と、その他、無數の島々を包括してゐる地方であつて、東北は、豐豫海峡と下關海峡とを隔て、中國地方と四國地方とに對し、南東は太平洋、西は支那東海、北は日本海に臨んでゐる。又、琉球は九州島の西南にかけて、點々相列んで、遠く臺灣に連つてゐる。
 一條の山脈が九州東西に連り、又、別に一脈があつて、殆ど丁字形をなしてゐる。河流は四方に分流して、土地肥沃である。



概括

山 川 平 原 氣 候

島嶼 〔豊岐、對馬、平戸、五島列島(肥前)、天草諸島(肥後)、長島、甕列島、櫻島(薩摩)、種子島、屋久島、大島、徳島、大隅)〕

筑紫山脈 雷山、寶嶺山、福智山

九州南部山脈 市房山(六、〇〇〇尺)、祖母山(六、五五〇尺)

霧島火山脈 霧島山(五、五七〇尺)、御嶽三、七五〇尺、開聞ヶ嶽

阿蘇火山脈 阿蘇山(五、五八〇尺)、九重嶽六、一五〇尺、由布嶽(五、五五〇尺)、英彦山(四、一〇〇尺)二子山

遠賀川 三五里、北流するもの。

筑後川 三五里、白川、緑川、西流するもの。

球磨川 二五里、川内川、四六里

大淀川 二五里、五箇瀬川、東流するもの。

大野川 三四里

鴨生田池 (三里) 筑前

掛宿湖 (四里半) 薩摩

筑紫平野、肥後平野

南方に位するのこ、暖流の影響で、概して温熱である。只、北西部のみは、冬は北西の寒風強く、積雪三四寸に至るこがある。雨量は一般に多い方で、特に、薩摩、日向、大隅などは、本邦最多雨地方の一である。

交通 航 鐵 道

九洲街道東北から起って西南に行き、西岸に至って南行し、南部地方に達してゐる。この他、東部海岸に接して重要なる街道がある。

九州鐵道は門司を起點として、福岡、久留米、熊本を経て八代に達してゐる。

鹿児島線は、鹿児島から北上し、人吉を経て、八代に達せんとするもの。

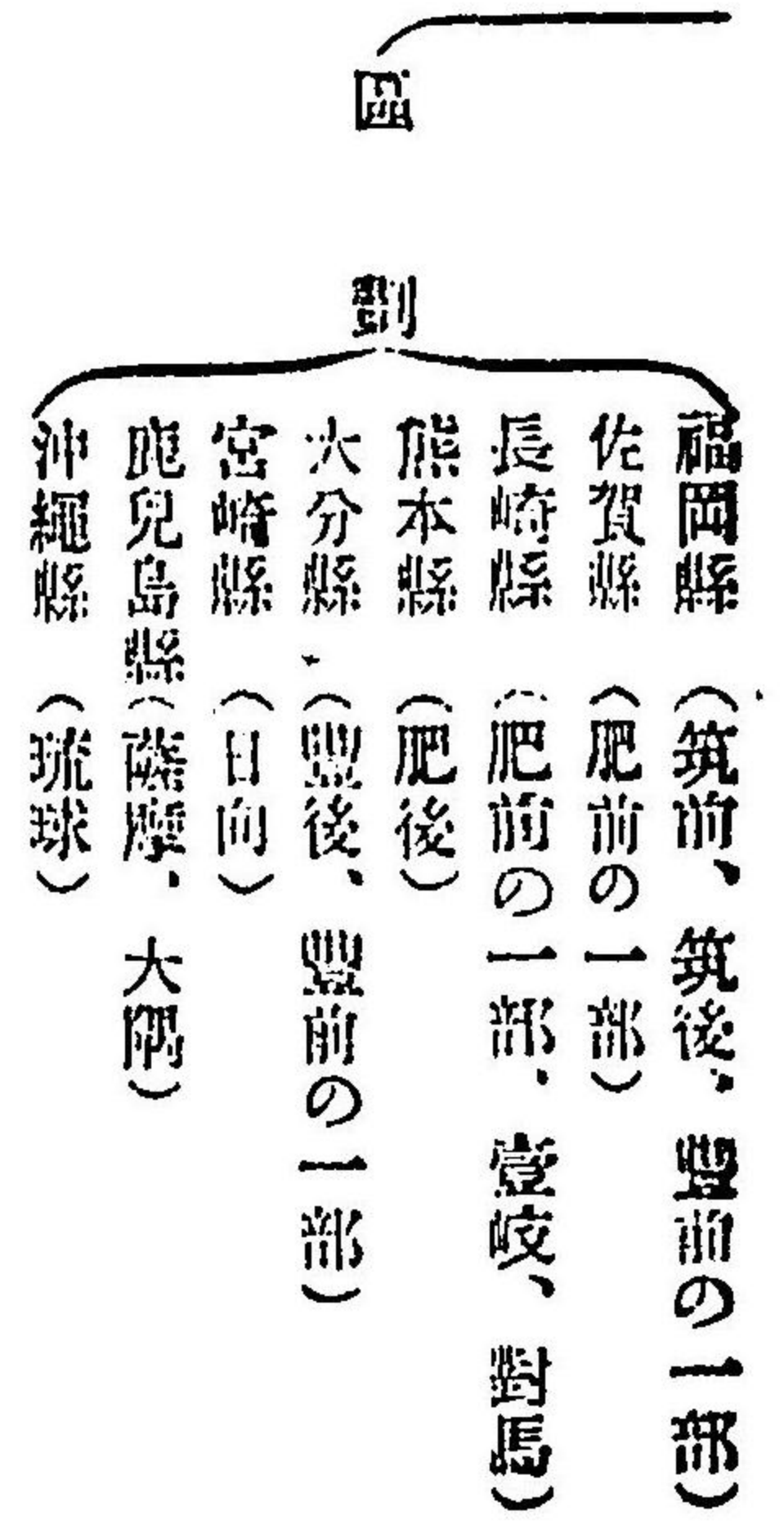
【備考】 八代、人吉間は、球磨川第一、第二架橋工事の外は、竣成を告げ、人吉、吉松間は、矢嶽隧道の難工事があつたけれども、これは本年中には竣成の筈。

この他、九州鐵道の分岐線に、豊州線、筑豊線、長崎線等がある。四方に走ってゐる。

【備考】 九州鐵道の全部は、本年即ち明治四十一年七月一日を期して、政府に買収の筈になつてゐる。

尙、未成線路は、來年四五頃までには、全部の竣成を告ぐべく、東京、鹿児島間九、四十二哩九釐の開通を見るべきである。

大政商船會社諸線、神戸基隆線、横濱打狗線、この他、長崎、門司を中心として海外へ通ずる諸線



福岡縣 面積 三三四方里
 人口 一、五五九、二二八

管轄	都會	山川	湖、澤、溫泉	社、寺、名所	海岸	天產物	製造物
筑前市、筑後市、久留米市、小倉市、門司市、福岡市	英彦山、寶滿山、高良山、福智山、遠賀川、筑後川	鳴生田池、白糸池、千丈池、菅生池、彈琴池、船小屋池、武藏溫泉	大宰府、香椎宮、箱崎宮、國分寺、青龍窟、海城、水城、芥屋、寶滿山	大島、支界島、鐘ヶ崎、支海灘、有明海	米、茶、櫛、藍、蘭、石炭	小倉織、博多織、久留米緋、菜種油、生蠶、莫、綿、清酒、高取	

筑前の九郡(糟屋、宗像、遠賀、鞍手、嘉穂、朝倉、筑紫、糸島、早良、(筑後の六郡)浮羽、三井、三浦、八女、山門、三池。(豊前の四郡)企救、田川、京都、筑上。

大牟田築港 この港は、三池炭嶺と、最も密接の關係を有してゐるので、同炭山の獨力により、築港に従事し、遠からず完成を見る筈。築港完成の上は、同港の將來に大影響を興へるであらう。

海の中道 博多灣の北、粕屋郡の西方に斗出する、こゝ三里餘、青松白砂と相映じ、丹後の天の橋立に似てゐて、風光明媚である。干潮の時には、志賀島に涉ることが出来るので、又、志賀鼻ともいふ。

箱崎宮、香椎宮 箱崎宮は、應神天皇を祀れる官幣中社であつて、本國の一の宮である。天平寶字三年の創建に係る。香椎宮は、神功皇后を祀れる官幣大社であつて、貞觀十一年の再建。

箱崎や千代の松原いした、み
 くつれん世まで君はましませ
 菅原道真
 ちはやふる香椎の宮のあやすぎは
 神のみそぎに立つるなりけり
 歌人不知

芥屋の大門 ケヤオホト 玄界灘の激浪に浸蝕されて出来たる洞穴であって、岩壁は、恰も數万本の柱を削り、これを束ねたるが如く、洞口は北に向ひ、波靜かなる日には、小舟を浮べて、洞中に入るこゝが出来来る。いよく進めば、水は濁れて沙汀となり、歩いて行くこゝが出来来るけれども、洞中暗黒、未だ一人として、その奥をきはめたものがない。實に、北筑第一の奇觀である。

佐賀縣

面積 一五七方里
人口 六五三、八五三

肥前の内 一市八郡	佐賀市 唐津 武雄 百田 伊万里 鳥栖	背振山 鏡岳 天岳 雷山 筑後川 松浦川	見歸湯 清水湯 白絲湯 武雄温泉 嬉野温泉	田島神社 淀姫神社 榎田神社 高師寺 名古屋城址	東松浦半島 加唐島 有明海 松浦灣 唐津灣 伊万里灣	米 麥 大豆 牡蠣 石炭	産物 天産物 製造物
--------------	------------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------	---	--------------------------	------------------

名古屋城址

（肥前の八郡佐賀、神埼、三養基、小城、東松浦、西松浦、杵島、藤津。
東松浦半島の岬頭、即ち唐津の北西なる雄勝嶽は、名古屋城址である。

文祿 慶長の頃 豊太閤が征韓の師を起した時に、その本營を置いてゐたので名高い。こゝに登れば、遙かに、壹岐、對馬の諸島を望むこゝが出来来る。名古屋は、又、名護屋とも書く。

鏡山（領巾振山）

東松浦郡の北部、松浦灣の南岸に位せる山。高さ數十尺に過ぎないけれども、佐用姫の古蹟によりて、遍く、人に知られてゐる。

まつらがた松浦佐用姫つまごめに

万葉集

領巾振りしより負へる山の名

又、この山は、もと、七面山といったが、神功皇后征韓のとき、寶鏡を天に捧げ、戦勝を祈らせその鏡を、この山に安置 させられたともいふ。鏡山の名は、これから起つたのであらう。今、この山の麓に、鏡神社（郷社）といふがある。

武雄温泉

一名柄崎温泉、杵島郡武雄村大字武雄 字柄崎に湧出す。炭酸泉。治病の効驗著しく、溫度百十八度。發見年月不詳。管内著名ので温泉あって、浴客雜沓を極む。

長崎縣

面積 一五三方里
人口 九四四二八六

管轄	肥前の内 二市六郡	對馬 郡	壹岐 郡	長崎市 佐世保市	温泉岳	蘆山瀑	諏訪神社	野母崎	米	唐木細工
都會	早岐 津原	竹鹿 須奈	大浦 本村	福島 江原	吾妻山	四劍瀑	小茂田濱神社	島原半島	甘藷	
山、川	多良岳	波佐見川	相神浦川	虚空藏山	三面瀑	潜龍瀑	崇福寺	彼杵半島	煙草	
瀑、温泉	島原温泉	温泉岳温泉	小濱温泉	螃蟹落瀑	長崎公園	原ノ城址	五島	豚島	燒	
社、寺、名所	鷹島	金田城址	原ノ城址	長崎公園	五島	生月島	對馬海峽	對馬海峽	五島鰯	
海岸	大村灣	朝鮮海峽	對馬海峽	生月島	平戶島	五島	對馬海峽	對馬海峽	蝦夷	
大産物	蠟	蠟	蠟	蠟	蠟	蠟	蠟	蠟	蠟	
製造物	工	工	工	工	工	工	工	工	工	

(肥前の六郡) 西彼杵、東彼杵、北高來、南高來、北松浦、南松浦 (壹岐の一郡) 壹岐
 (對馬の二郡) 上縣、下縣

平戸島、鷹島、五島 平戸島は、北松浦半島の西方海岸に横る大島であつて、周囲四十三里二十町。この地には、松浦氏累世の居城址がある。又、弘安の役に、元の兵が上陸を企てたけれども、我が兵力勝つて、遂に、上陸せしめなかつたところ。

鷹島は、平戸島の東にある小島であつて、伊萬里灣に横はつてゐる。元兵の據つてゐたところであつて、風濤のために、戦艦破壊し、十萬の軍勢が悉く魚腹に葬られたのも、この附近であつた。

五島は、中通、福江、宇久、奈留、久賀の總稱であつて、肥前の西方海上に散在してゐる。この群島の近海は、漁利多く、特に、鯨獵は盛である。

島原半島 肥前の南端から、東方に突出で、有明海の口に横はつてゐる。内に、島原、口ノ津、温泉岳等がある。又、原ノ城址は、頗る天險の地で、有馬氏の築いたところ。

珊瑚礁 北松浦郡宇久の西方、約二十里の海中に、近時、幅凡そ十五里に達する珊瑚礁を發見した。

東洋第一の大船渠 三菱造船所に於いて、去る明治三十五年二月起工した長崎の第一船渠は、同三十八年三月開渠式を擧げた。この船渠は、底部の長さ七百二十二呎、渠口上部、幅員九十六呎、同下部八十八呎、渠口の深さ地盤以下三十九呎、同最滿潮面以下三十六呎、船渠内下部幅員八十八呎、同上部百二十一呎である。即ちよく二万七千噸の大船を入渠修繕する、ことが出来る。これが現在に於ける東洋第一の大船渠である。

熊本縣 面積 四八四万平方里 人口 一、一八四、一九二

管轄	肥後十一郡市
都會	熊本市 八代市 三浦市 山鹿市
山川	阿蘇山 白髮池 白池 球磨川 緑川
湖澤温泉	江津湖 津返水 白鹿池 數鹿池 山奈久温泉
社寺名所	阿蘇神社 菊池神社 熊本妙寺 熊本城 山原庄 五家園
海岸	宇土半島 天草島 有明海 八代海 天草灘
産物	天産物 肥後米 粟 麥 馬 菜 煙 無煙土 陶
製造物	緋木綿 繰綿 八代焼 朝鮮餡 素麵

(肥後の十二郡) 飽託、宇土、玉名、鹿本、球磨、菊池、阿蘇、下益城、上益城、八代、葦北、天草。

阿蘇山 阿蘇の東部にある火山の總稱で、熊本市を去ること八里餘の所にある。杵島岳、島帽子岳、中岳、高岳、根子岳など、いづゆる、阿蘇五岳の中に聳え、連山が、その周囲を取巻いて、丁度、土手を繞いたやうになってゐる。この連山は、舊噴火口の周壁即ち、火口丘で、舊噴火は、その面積が、ざつと、七十五平方里ある。實に、斯の如き大噴火口は、世界中、稀に見

みこころである。中岳の火口からは、今も、盛に、硫氣、水蒸氣を吐き、時に、鳴動して砂石を飛ばすこともある。火口丘の中には、僅に、一町十四ヶ村、約四萬の民を住居せしめてゐる。

球磨川、五家の莊 球磨川は、源を日向の國境に發し、肥後の南部を流れ、八代港に至って海に注ぐ。流程約二五里。水勢甚だ急で、兩岸に奇景が多い。日本三急流の一。

球磨川の源流地五家ノ莊は、平家遺族の隠れてゐた所だ、いひ傳へられてゐる。

熊本城 熊本城は、加藤清正の築城で、明治十年西郷隆盛の兵を擧げたとき、まづ、この城を圍んだ。陸軍少將谷干城、大に抗戦して、遂に數月を持ち續けて、援軍の到着に間に遇った。賊軍非常に猖獗を逞うしたが、遂に抜くことを得なかつたといふので、この城の堅固であつたことが知れた。今、第六師團の司令部の所在地である。

田原坂 植木町と、共に、西南の役に於ける激戦地として著はれてゐる。阪上の紀念碑と、左方、樹間の招魂標とは、當時の光景を想起させる。

大分縣 面積 四一七方里
人口 八五四二八一

管轄	都會	山、川	瀑、溫泉	社、寺、名所	海岸	天產物	製造物
豐前の内郡	中津、津分、白杵、佐伯、別府、宇佐	英彦山、由布岳、九重山、祖母岳、國母川、大野川	洗馬、震動、東谷、西椎、別府、湯平	宇佐神宮、奈多八幡宮、羅漢寺、富貴寺、耶馬溪、豐後富士	國東半島、鶴見崎、姫島	木椎、椎茸、八草、蔞草、蔞豆	豐後表、荒蕨、紙傘、生樟、藤絲
豐後郡	佐賀、關				別府灣	大蜜柑、豆	樟、藤絲

大野、直入、玖珠、日田。
 (豐前の二郡)下毛、宇佐。(豐後の十郡)四國東、東國東、速見、大分、北海部、南海部、

由布嶽、溫泉の湧出。阿蘇火山脈中にある消火山。形の似たるを以て、豊後富士、若くは、筑紫富士の名がある。海拔五、五五〇尺、山頂、常に、雪をいたゞいてゐる。管内には火山が多いので、温泉湧出の多いことは、日本第一で、著名のものが二十六ヶ所もある。耶馬溪 山國川の上流沿岸の間をいふ。その間、山秀で、水清く、奇石怪岩屹立して、流水が岩石を浸蝕して、愈、景色を添へてゐる上に、四時景色が變つて来る。のみならず、朝

と晩まで、この觀が異つて、溪北十六景、溪南十六景、全景八、併せて四十景あるとのこと。櫻山陽が海内一だといつたのは、誣言でない。今、木曾の溪、妙峯山と併せて、日本の三奇景と稱せられてゐる。
 宇佐八幡宮 豊前の宇佐町にある官幣大社。應神天皇を祭る。和銅五年の創建に係り、堂宇莊嚴である。神護景雲三年、和氣清磨が僧道鏡の意を挫き、皇位を安じ奉つた神誕を受けたのは、即ち、この社である。

宮崎縣 面積 五〇四方里
人口 五〇一、四五四

管轄	都會	山、川	瀑、溫泉	社、寺、名所	海岸	天產物	製造物
日向郡	都城	祖母山、母房山、岳山	布引、白鳥、吉田、六觀、湯谷、前原	鶴宮社、三福寺、椎葉山、高島城	都井崎	木椎、椎茸、煙草、萬年草、鱒、銅	緋木、紺物、半紙、砂糖、樟炭

(日向の八郡)宮崎、南那珂、北諸縣、西諸縣、東諸縣、兒湯、東臼杵、西臼杵。
霧島山 國の南西境にある火山であつて、東嶽、西嶽の二峯に分れてゐる。東嶽は、古の高千穂の峯で、數多の蘇噴火口、火口湖、硫黄噴孔等がある。火口の西側、御鉢からは、常に硫氣と水蒸氣を吐いて、その勢は猛烈を極めてゐる。西嶽は、韓國嶽ともいって、同じく、蘇火口、火口湖、硫氣噴孔などがある。たゞし、今は、息火してゐる。

鹿兒島縣 面積 五九一平方里
 人口 一八一、八九七

管轄	鹿兒島市	霧島山	池田湖	霧島神社	佐多岬	米、粟	薩摩餅
	谷山	御岳	龍門瀑	鹿兒島神社	野間岬	櫻島大根	薩摩下布
	掛治木	高隈山	犬飼瀑	淨光明寺	櫻島	甘藷	薩摩上布
	國分	開岳	木曾瀑	相國寺	種久島	煙草	大島細
	阿久根	牛尾金山	金華温泉	地獄池	屋久島	馬蹄	琉球表
	加世田	芹ヶ野金山	硫黄谷温泉	鶴戸窟	川邊十島	獅節	薩摩焼
	苗津川	山ヶ野金山	伊作温泉	城山	七島	阿久根焼	薩摩焼
	坊津川	鹿籠金山	古里温泉	花瀬川奇景	大隅島	錫工	大島細
	山崎	肝付川	吹上ノ濱		志布志	鐵工	鹿兒島
	垂水	超			鹿兒島		
薩	一市七郡						

(大隅の五郡)始良、噺嶽、肝屬、大島、熊毛。(薩摩の七郡)鹿兒島、日置、掛宿、川邊、薩摩、伊佐、出水。

霧島神宮、鹿兒島神宮 霧島神宮は、大隅國始良郡東巖山村(霧島山の麓)にある官幣大社。祭神は彦火瓊杵尊。創建年月不詳。

鹿兒島神宮は、同郡西國分村にある官幣大社。祭神は彦火々出見尊。俗に國分八幡宮といふ。神武天皇の御宇の創建に係る。本國の一ノ宮。

櫻島、御岳(櫻島岳) 鹿兒島灣の中央にある島。東西二里二十四丁、南北二里、周圍十里一丁三十七間。中央に御岳といふ休火山がある。海拔三、六三六尺。山嶺南北兩岳に分れ南岳の頂上に白水池、北岳の頂上に御鉢池、又、中央に兩中池といふがある。いづれも火口湖である。又、櫻島には、新島、蟹島、惠美須島、沖小島、鳥島等の屬島がある。

川邊十島、大島諸島 大隅の南方海上にある黒島、硫黄島、竹島の三島と、その南にある寶の七島、即ち、口ノ島、中之島、諏訪ノ瀬島、臥蛇島、平島、悪石島、寶島を總稱して、川邊十島と名づける。又、大島、喜界島(鬼界ヶ島とも)、徳之島、沖之永良部島、與論島等

を總稱して、大島諸島といふ。

(大島) 西郷隆盛の流された島、三だひ、この島に流されたので、自ら大島三右工門と稱してゐた。

(喜界島) 治承元年、藤原成経、平康頼、僧俊寛等が流謫せられた地。

薩摩湯沖の小島に我ありと

平康頼

人には告げよ八重の沙風シホカセ

金、錫、甘諸の産額 金、錫、甘諸は、その産額、いづれも日本第一に位してゐる今、その割合を擧げて見れば、

金

金

鹿兒島縣

八三六貫

三〇三貫

錫 二〇、〇〇〇斤

一九、〇〇〇斤

甘諸 七五二、〇〇〇、〇〇〇貫

一三一、〇〇〇、〇〇〇貫

沖繩縣

面積 一四三方里
人口 四七五、九三二

管轄	都會	山、川	瀑、温泉	社、寺、名所	海岸	天產物	製造物
琉球二區五球	那覇區 首里區 運天 船浮	名護嶽	蘇泉瀑 龍水瀑 クビリバンク瀑 山田鑛泉 比屋根鑛泉	天照皇大神宮 臨海寺 護國寺 金峰祠 首里舊王城	邊戸岬 平窪岬 中城湖	甘蔗 山藍 豚羊 山光貝	琉球紬 琉球布 芭蕉布 上糖 砂糖 塗物 泡盛

(琉球の五郡) 島尻、中頭、國頭、宮古、八重山。

琉球諸島

沖繩島(國頭、中頭、島尻)

沖繩諸島

先島諸島

宮古諸島

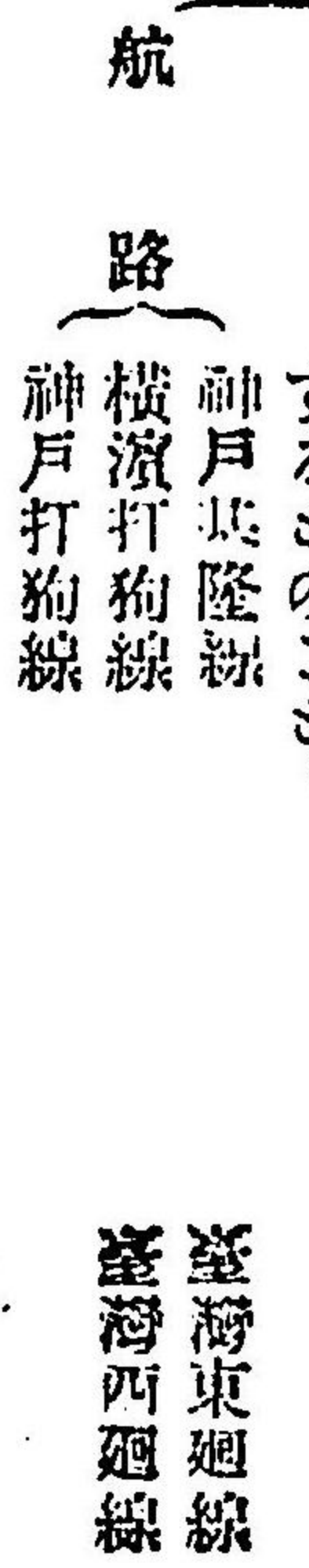
惠平屋島、伊江島、粟國島、久米島、座麻味島、慶良間諸島、波嘉敷島、宮古諸島、宮古島、伊良部島、多良間島、八重山諸島、石垣島、四表島、波照間島、與那國島

新高山 新高山は、我が國第一の高峯であつて、一名モリソン山といふ。海拔二二、二〇〇尺。四時白雪を載く。新高は、明治三十年 今上天皇が命名し賜ふた名である。

【備考】新高山の高度につきては、從來或は二二、八五〇尺、或は一四、〇〇〇尺などいふ説があつたが、臺北測候所技手寺本某は、三、九九〇メートル、即ち一三、二〇〇尺であることを確めた。氏は、山岳用水銀晴雨計を携へて山上で觀測し、又、臺中、臺南、臺東の三測候所で、觀測した結果をも参照したとのこと。

臺灣の氣候 本島の一部は、熱帯に入つてゐるので、氣温高く、海岸に於いては、殆ど霜雪を見ない。夏季長く、雨量に富み、颶風の襲來と共に、屢々大雨が降る。氣候は、内地に比して、稍、不長ではあるが、南部は良好である。

交通 道路は、一般に不完全であつて、旅客は、轎に乗り、川には竹筏を用ゐる。但し、河流は、大雨のために、屢々出水して氾濫し、水利の便あるは、唯淡水河のみである。
臺灣縱貫鐵道は全長二五二哩であつて、北は臺北から、基隆、淡水、大稻埕に達し、又、新竹の南なる伯公坑に通じてゐる。この間一〇五哩。南は打狗から、臺南、嘉義、彰化、臺中を経て、葫蘆墩に至る。この間、一三六哩。
葫蘆墩、伯公坑間の九哩餘は、現に工事中であるけれども、この間には、洞道七ヶ所及び大安溪、大甲溪等の架橋工事があるから、年内に開通を見



樟腦の産額 樟腦は、本島の特産であつて、實に、世界産額の六分の五を占めてゐる。試に、兩三年間の産額を擧げて見れば、

明治三十五年度	二、八六四、八〇四斤
同 三十六年度	三、五九五、八一四斤
同 三十七年度	三、五四〇、九五三斤

壽都	檜山	函館	札幌	(支廳)	(國名)	(區郡名)
後志の内	後志の内	渡島の内	釧路の内	石狩の内	渡島の内	後志の内
久遠	檜山	山越	千歳	札幌	函館	小樽
島牧	奥尻	上磯	茅部	石狩	厚田	濱益
歌葉	太櫓	松前				
磯谷	瀬川					

管轄區郡名

(雅内)	宗谷	十勝	釧路	根室	石狩	渡島	後志	札幌
沙流川	常呂川	湧別川	十勝川	根室海峽	千世温泉	惠山温泉	神居古丹	宗谷海峽
内浦	根室	斜里	石狩	内浦	根室	斜里	石狩	内浦
木	鐵道	砂	麥	枕	枕	枕	枕	枕
木	鐵道	砂	麥	枕	枕	枕	枕	枕

網走	釧路	室蘭	浦河	室蘭	旭川	上川	空知	札幌	小岩井	壽都	檜山	函館	支廳名
走室	根室	花咲	厚岸	大津	浦河	紋別	室蘭	岩見	岩見	江差	森山	小樽	函館
天石	斜里	雄勝	雌阿	十勝	オプ	駒川	ウマ	マカ	神威	芽室	夕張	石狩	天谷
鹽狩	牛山	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒
太登	湯島	磯谷	湯島	玉龍	雨龍	石狩	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒	阿寒
津輕	海峽	丹波	津島	鹽津	禮文	利尻	奥尻	襟裳	納沙	知床	宗谷	野寒	積丹
函館	網走	花咲	紗那	泊村	厚岸	浦河	稚内	天鹽	旭川	上川	空知	札幌	小樽
製海	製海	製海	製海	製海	製海	製海	製海	製海	製海	製海	製海	製海	製海
麻	麻	麻	麻	麻	麻	麻	麻	麻	麻	麻	麻	麻	麻

北海道廳 面積 五、九八七方里 人口 一、〇七七、二八〇

岩内 後志の内
 鷹振の内
 小樽 後志の内
 空知 石狩の内
 上川 石狩の内
 上川、空知の内富良野村。

増毛 天鹽の内
 宗谷 北見の内
 網走 北見の内
 室蘭 膽振の内
 浦河 日高
 釧路 釧路
 河西 十勝
 根室 根室

イハナイフルヤ
 岩内、古宇。
 虻田の内俱知安村。
 小樽、高島、忍路、余市、古平、美園、積丹。
 空知(富良野村を除く)、夕張、雨龍、樺戸。
 上川、中川。
 マツケ、ルルモソベ、トヤマヘテシホ。
 留萌、苦前、天鹽。
 宗谷、枝幸、利尻、禮文。
 網走、斜里、常呂、紋別。
 室蘭、石珠、虻田、俱知安村を除く、幌別、勇拂、白老。
 浦河、沙流、新冠、釧路、三石、様似、幌泉。
 釧路、白糠、足寄、阿寒、川上、厚岸。
 河西、河東、上川、中川、十勝、廣尾。
 根室、花咲、野付、標津、目梨、得撫、新知、占守、紗那、振別、擇捉、滝取。

著名なる山岳及び火山

石狩岳(海拔七、〇〇〇尺)石狩の東境に立って、實に北海道第一の高峯である。石狩川の水源。マツカリ岳(海拔六、五〇〇尺)一名、後方半蹄山。鷹振の西境に峙り、山址遠く四ヶ國に跨つてゐる。山姿秀美で、蝦夷富士の名がある。往昔、阿部比羅夫の政所を置いたところは、この邊であつたこと。十勝岳(海拔五、九八〇尺)十勝と石狩との境に立って、本道中有名な峻峯として知られ十勝川の水源。神威岳(海拔五、四〇〇尺)十勝と日高との國境にある高山。天鹽岳(海拔五、一〇〇尺)天鹽、北見、石狩の境に峙つ高山。駒ヶ岳(海拔三、六〇〇尺)内浦灣頭に峙つてゐる熾火山。寛永十七年非常に噴火して、人畜の死傷が甚だしかった。オプタテシケ(海拔六、〇〇〇尺)男岳、女岳に別れる。石狩岳と相並んで、石狩の東境に立ってゐる熾火山。處々に、噴火口がある。雌阿寒岳 海拔四、七〇〇尺 釧路の北方に聳えてゐる活火山。

本道の四大河及び湖沼

石狩川(流程一六七里)俗に西父川といつて、本道第一の大河で、又、我が國第一の長流である。石狩岳と十勝岳との間から發し、風曲して西に流れ、ここから高さ二百丈餘の兩大瀑布となつて下り、上川原野に出で、更に西流して、雨龍川、空知川を合せ、遂に石狩港に注ぐ。天鹽川 流程七八里、俗に西母川といつて、本道第二の長流として知られてゐる。天鹽岳に發源し

西北に流れて日本海に入る。
 釧路川(流程三七里)俗に東母川といつて、釧路の北境屈斜路湖に發源し、南に流れて國內の諸水を集め、釧路港に注ぐ。
 十勝川(流程五〇里)俗に東父川といふ。十勝岳に發源し、國內の諸流を合せて、十勝の平野を東南に走り、下流岐れて太平洋に注ぐ。
 湖沼は、周回一里以上のもので、その數、殆ど五十に近いが、その最も大なるものは、北見の瑛湖(周回二〇里)、次は根室の海岸にある楓蓮湖(周回一五里)、勝抜の洞爺湖(周回一〇里)等特に著名な湖水である。

交通

道路は、山地を除く外、漸く發達した。

鐵道は、私設鐵道に、左の二鐵道がある。

北海道河川—函館小樽間、百五十八哩七十七鎖。

炭礦鐵道—小樽室蘭間百三十三哩を幹線とし、別に、岩見澤歌志内間、追分夕張間及び岩見澤幌内幾春別間の三支線と、その他に沙川歌志内間、幌内太幌太間の二側線を有してゐる延長二百六哩六十鎖。

【註】北海道鐵道は明治四十年七月から、炭礦鐵道は明治三十九年十月から、いずれも鐵道廳の官業となった。

官設鐵道には、

上川線—空知太旭川間の三十六哩四鎖。

十勝線—旭川帶廣間百一十一哩二十四鎖。

釧路線—釧路帶廣間の八十一哩四十二鎖。

天鹽線—旭川稚内間の百六十三哩五十九鎖。

【註】旭川名寄間四十七哩十九鎖は開通し、名寄稚内間の百十六哩四十鎖は未成。

根室線—釧路根室間八十九哩四十二鎖。

網走線—塘路網走間七十八哩十四鎖。

【註】根室線及び網走線は未成線。

航路は、函館小樽を中心として、沿岸諸港及び横濱神戸等との連絡線がある。

神戸小樽東廻線、神戸小樽西廻線、日本海線、沿岸線

主要なる産物

本道は農業益盛にして、農産物が豊である。中にも、

小豆、馬鈴薯、菜種、黍の産額は、いずれも、日本第一。

又、礦産及び水産多くして、

金、硫黄の産額は、日本第一に位し、石炭は第二に位してゐる。

鮭、鱒、鱈、鱈、昆布等の産額は、いずれも、日本第一。

沿革

本道は、舊蝦夷の地で、豊臣氏の時、蠣崎慶長松前氏を稱し、福山に於てこれを管治した。明治二年全島を十ヶ國とし、千島諸島を合せて、北海道と總稱し、開拓使廳を札幌に置いて管治せしめた。後、開拓使廳を廢し、更に、北海道廳を置く。現今、その下に十六支廳がある。

北海道と臺灣との比較

北海道 (一)内地に對する關門、函館。(二)露領との關係。(三)山脈中央に交叉して十字形を成す。(四)大河に富む。(五)津輕、宗谷の二海峽。(六)馬、牛、豚。(七)燐寸軸木、鐵道枕木。(八)石炭、金。(九)米を内地に仰ぐ。(一〇)柔順なるアイヌ人。

臺灣 (一)内地に對する關門、基隆。(二)南清との關係。(三)一條の山脈中央を貫く。(四)急流に富む。(五)臺灣、パシの二海峽。(六)水牛、山羊、豚。(七)樟腦。(八)石炭、金。(九)米を内地に送る。(一〇)凶暴なる生蕃人。

樺太廳

面積 一、八〇〇方里
人口 九、八七七

支	廳	郡	邑	山、川、湖	半島、岬	海峽、灣、島	産物
コルサコフ	九春古丹	市樺太山脈	西樺太山脈	テルベニヤ半島	宗谷海峽	鮭、鱈	
ウラツミロ	内物	ホロナイ川	シレトコ半島	ノトロ半島	問宮海峽	鱈	
マウカ	ナス	ナイプチ川	片岡岬	東伏見灣	千歳灣	小昆布	
	ナヨロ	ス、ナイ川	重藏岬	七郎灣	テラベニヤ	蝦落馬	
							鈴薯、松

ウラツミロ	ウラツミロ	タライカ湖	對馬岬	海狗島	樺
フカ	フカ	トウナイチ	近藤岬	海馬島	砂
		ヤ湖	(ノトロ)	(モ子)	金

ボロナイ河

樺太島第二の大河であつて、流程六〇里。河口から約、三〇里までは、舟航に適し、我が國唯一の交際河である。又、この川の流域は、東西樺太山脈の間を占め一大平野をなしてゐる。

九春古丹

(コルサコフ)、ウラツミロフカ 九春古丹は、舊我が領土であつたときの名稱であつたのを、岡本列官(監輔)精進と改稱し、ここに縣を置いた所であつて、山を負ひ、海に臨み、形勝の地である。けれども、將來本島の都會としては、偏在の憾を免れない。そこでゆく／＼は、ウラツミロフカを以て、本島の首都とする筈であること。即ち、今回新設の樺太廳の如きも、ウラツミロフカに移轉すべく、同地に廳舎新築中である。

ウラツミロフカの地は、規模宏壯、もと、ロシアの兵營のあつたところ。移住民日に月に増加の有様で、本年四月から今日 明治四十年六月十日までに、移住したものがかりでも、尙一千名を越えるところである。その筋に於いても、土地、家屋、建築木材等を貸下げて、大に移住を奨勵してゐるから、數年を出でないうちに、非常なる盛況を呈することであらう。九春古丹とウラ

シミロフカとの間には、輕便鐵道があつて、約十里程、森林の間を貫通してゐる。

樺太の地名

我が軍の占領に歸して以來、地名の變更せられたものが多く、サガレンを樺太と改められた外、一時地圖上に抹殺せられてゐた舊地名は、再び、この地に現はるゝに至り、又、左の如く改められた。

(新 稱)

(舊 稱)

(新 稱)

(舊 稱)

間宮海峽

韃靼海峽

間宮海峽北部

黑龍海峽

東伏見灣

Aniwa Bay

千歲灣

Tososei Bay

七郎灣

Palience Bay

對馬岬

Endurana Point

近藤岬

C. Krilon

重藏岬

C. Siretoke

片岡岬

C. Patience

海馬島

Todomoshisi

二丈岩

Opasnost Rock

海獅岩

Sivuchi Rock

海豹島

Kobben Island

九春古丹

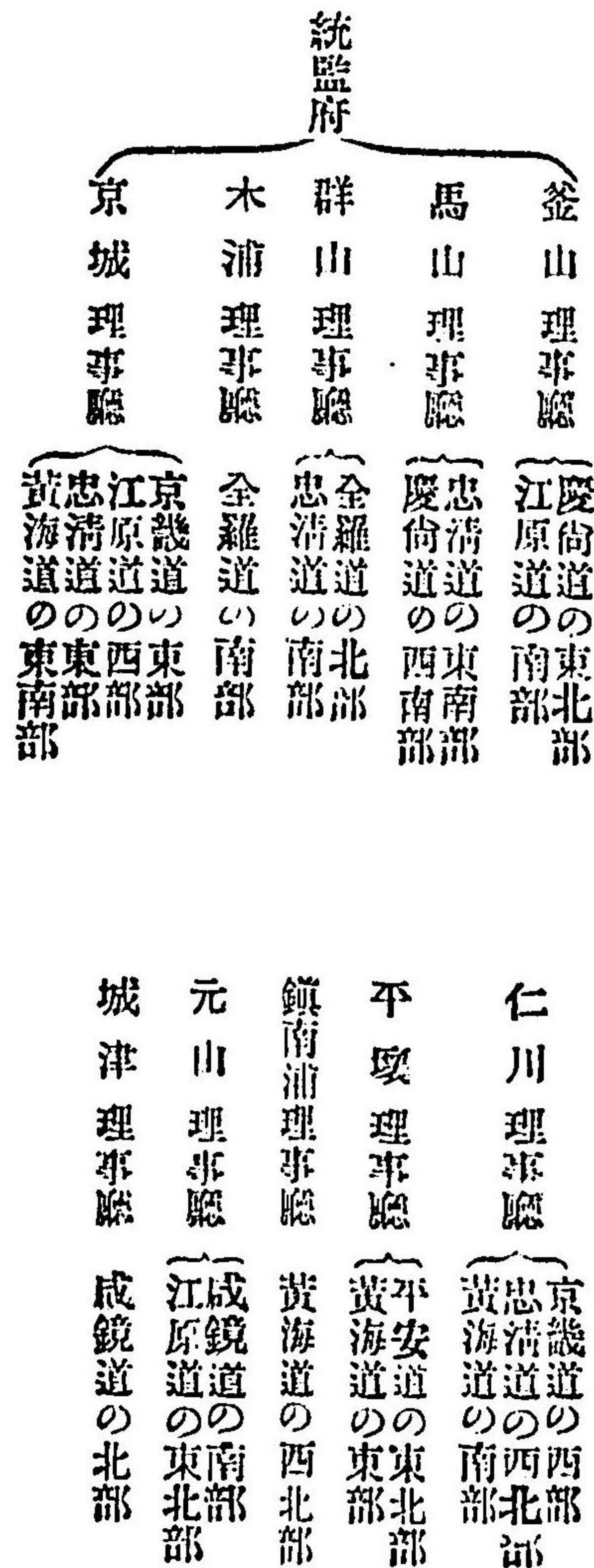
Korsakov

かくの如くに、改稱されなければ、尙、不確實なるのみならず、この外、甚だ煩しい類例が少くないので、これ等の主要部落に於ける地名は、適當なる本邦文字を擇んで、改稱せんと、目下審議中であるとのこと。

沿革

慶安四年以降、松前藩主、屢々樺太島を探險し、寛政二年始めて楠濱に陣營を設

けたが、寛永五年露國の水師提督長崎に來りて、樺太及び千島の境界を定めんことを協議し決しなかつた。安政六年露使再び品川に來り、宗谷海峽を兩國の國境となさうと強要した。文久元年幕府使を露都に派遣して、北緯五〇度を以て境界線とするに決したけれども爾來彼の強請益々甚だしく、終に、明治八年、時の駐露公使榎本武揚をして交渉せしめ、樺太千島交換の條約を結んだ。かくて、日露戰役に於いて、我が軍は餘力を以て樺太を攻撃し、明治三十八年七月七日から同三十一日まで全島を占領し、尋いで、和議成るに及び、再び北緯五〇度以南を我が領とするに決定した。即ちコルサコフに民政署を置き日露兩國から委員を任命して、境界線を劃定し、明治四十年六月十五日、あらたに樺太廳を設け、コルサコフ、ウラジミロフカ、マウカの三支廳を置いた。



認し、九月ホーツマスに於いて、露國も、亦、我が優越權を承認した。同三十八年十一月、更に、日韓協約を結び、韓國の外交權を全く我に收め、統監府を置き、外交、その外、諸般の政務を統括する事を約し、明治四十年七月二十四日、新に協約を締結して、司法、行政その他の政權を、確實に我が國に收めて、名實共に純然たる保護國となった。

統監府及びその管轄區域 明治三十九年一月十九日統監府令を以て規定した理事廳の名稱及び管轄區域は次の通である。

韓 面積 一三、〇四〇方里
人口 一〇、〇〇〇、〇〇〇

平安道	咸鏡道	咸鏡道	慶尙道	慶尙道	全羅道	全羅道	忠清道	忠清道	黃海道	江原道	京畿道	區割
寧邊	平海	咸興	元山	大邱	馬山	木浦	全州	忠清	江原	仁川	京城	部
義州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	會
洛東	漢江	清川	大同	大邱	龍岡	龍岡	龍岡	龍岡	龍岡	龍岡	龍岡	山
江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	江	川
馬山	釜山	木浦	群山	龍岡	鎮南	慶州	城津	元山	仁川	仁川	仁川	海
南	浦	浦	港	浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦	浦	島
南	巨濟	加德	絶影	馬影	大影	身影	白影	江影	八影	豐影	安影	濟影
島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
東	迎	永	雄	西	長	冬	岬	ホ	マ	コ	合	岬
朝鮮	日	興	基	朝	山	外	外	ル	ル	ロ	津	嶺
嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	嶺	チ	ン	ゴ	岬	嶺
海	明	鐵	銅	金	木	牛	虎	麻	人	煙	大	産
太	鼠	魚	鐵	鐵	材	皮	豹	綿	參	草	豆	物

日韓の關係 明治三十七年二月兩國間に、同盟條約を締結せし以來、八月に至り、更に日韓協約に調印し、次いで、同三十八年八月日英同盟條約で、英國は、我が保護國たることを公

韓國の官制

韓國の中央政府は、明治四十年六月十四日の官制改革により、責任制度を定めることに決定し、わが統監指導の下に政務をつかさどつてゐる。

即ち、現内閣には、その長官、内閣總理大臣以下、内部、法部、學部、農商工部、度支部、軍部の六部大臣と、外に宮内大臣がある。

又、改革に際し、從來の參贊を書記官長とし、參譯官を書記官とし、主事を書記生とする等、すべての名稱を本邦のそれと同様にした。

又、新協約に基いて、官吏の重要な地位は、悉く日本人が占めることになった。

尙、新協約實施の日が近いので、著しい變動を見ないけれども、ゆくゆくは、多少の面目に改めらるであらう。今や、統監府員は、改善のために、日夜多忙を極めゐる。

韓國の交通機關

甚だ不完全。數日の降雨に遇へば、忽ち泥濘ディチイのために、歩行に堪へないところがある。但し、目下しきりに改築し、京城内外に於いて、盛に着手せられ、殊に四周城壁をも取毀した。

京釜鐵道 京城釜山間、二七六哩。この間、五十の停車場を置き、二十六箇所(一六、六五七呎九吋)の隧道が設けられてゐる。

京仁線 京城仁川間、二七哩。この間に十一の停車場がある。

京義鐵道 京城と義州との間二九四哩。

元鎮鐵道 元山と鎮南浦との間。

〔參考〕、韓國の鐵道は日本の經營に屬し、明治三十九年六月二十九日勅令を以て、統監府鐵道管理局官制を裁可せられ、同局に於いて、韓國に於ける鐵道の建設、改良、保存、運輸及び附帶の業務を掌ることとなつた。

元鎮鐵道は、明治四十年六月統監府に於いて、いよいよ元山鎮南浦間に敷設することに、決定したまでであるから、工事に着手するまでには、餘程手間取るであらう。

交通鐵道



航 路

遼東半島租借地

又、新橋下關間九八二哩は二十八時間、下關釜山間一四〇哩は十時間、釜山京城間二七六哩は十五時間、即ち、新橋から五十二時間を費して京城に達することが出来る。

尙、釜山から京城に向ふ列車は「下り」と稱し、京城から釜山に向ふ列車を「上り」と稱する。驛名も釜山、慶山、湯川等、すべて日本語の呼方に従ひ、發着時間も日本中央標準時を用ゐて、地方時を用ゐないこととする等、すべての點に於いて、内地に於けるものと異らない。

電氣鐵道……京城と龍山との間。九哩。

大阪商船、日本郵船兩會社の經營。

日本政府の管理に屬し、京城及び各開港場には、郵便電信局が設けられてゐる。又、釜山對馬間には、海底電線が沈設してある。

關東總督府	管轄廳名	都	邑	山	岳	海	岸	産	物
柳樹屯	大旅金	連順州	冠座	雞冠山	雙頂山	老鐵山	老鐵山	大豆	麻
								玉蜀黍	草
								馬	羊
								雞	

南滿鐵道

我が政府の滿洲經營中の一事業として、着手せられ、今や、専ら計畫準備中である。その目録見は、南滿鐵道株式會社を設立し、大連長春間、南滿嶺旅順間、大房身柳樹屯間、大石橋營口間、烟臺烟臺炭坑間、蘇家屯撫順間、奉天安東縣間の鐵道運輸業を營ま、め會社の資本を二億圓とし、その内一億圓は、政府から出資し、残額一億圓は、日清兩國から募集することに於てゐる。但し政府の出資には、露國から收受した鐵道を併せ、現在の鐵道及び撫順烟臺の炭坑を以てこれに充て、會社は營業開始の日から、滿三ヶ年以内に、前記既設の諸鐵道を四呎六吋半の軌條に改築する定である。

滿洲守備軍

租借地並に鐵道線路をその沿線の地を安固にするために、滿洲守備として第十四師團及び第六師團を駐屯せしめてゐる。但し、來る明治四十年十月下旬第十四師團は十師團と交代し、その守備兵として駐屯することに確定してゐる。

附 録



條約國名

アジヤ洲：韓、シヤム、インド。
 ヨーロッパ洲：イギリス、フランス、ドイツ、オーストリア、ハンガリア、ロシア、イタリア、イスパニア、ポルトガル、スウイス、ベルギー、スウェーデン、ノルウェー、デンマルク、オランダ、ギリシア。

アメリカ洲：アメリカ合衆國、メキシコ、ペルー、ブラジル、アルヘンチナ、チレ。
 アフリカ洲：コンゴ自由國。

開 港 場

神戸、横濱、長崎、大阪、下關、門司、淡水、函館、口ノ津、安平、室蘭、小樽、佐須奈、基隆、唐津、四日市、打狗、武豊、新潟、三角、博多、伏木、殿原、釧路、敦賀、清水、鹿兒、濱田、境、宮津、糸崎、七尾、那覇、若松。
 以上は、普通貿易港であつて、神戸、横濱、長崎、大阪、淡水、函館、安平に税關の設がある。
 鹿港、塗葛窠、東石、媽宮、舊港、下湖口、東港、後壠、蘇澳。
 以上九港は、當分支那形船舶に限れる特別貿易港である。

海 軍 管 區

鎮守府	區	軍 港
横須賀 第一	羽後陸奥國界から、本州東流片及び同海岸に沿ひ、紀伊國南半島東半島郡界に至るまでの海岸海面、小笠原島及び北海道の海岸海面、並に樺太島、海岸海面。	相模國三浦郡横須賀
吳 第二	紀伊國南半島東半島郡界から、長門國六津郡界に至り、又、筑前國遠賀宗像郡界から、九州東海岸に沿ひ、日向大隅國界に至るの海岸海面及び四國の海岸海面並に内海。	安藝國安藝郡吳

舞鶴	第四	第三	佐世保
國界に至るの海岸海面及び澎湖列島の海岸海面、 長門、大津、津、浦、外、から、才土の海岸に沿ひ、 羽後、伊、		筑前國遠賀宗像郡界から、九州西海岸及び同南海岸に沿ひ、日向大隅、西界に至るの海岸海面及び壹岐對馬沖繩諸島の海岸海面、並に、澎湖列島の海岸海面。	
郡舞鶴		肥前國東彼杵郡佐世保	

軍艦名

鹿島、香取、朝日、三笠、敷島、石見、肥前、相模、周防、富士、丹後(以上戦艦)。
 淺間、常磐、出雲、磐手、八雲、吾妻、春日、日進(以上一等巡洋艦)。
 津輕、宗谷、笠置、千歳、敷島、松島、橋立、浪速、高千穂(以上二等巡洋艦)。
 新高、對馬、秋津洲、音羽、和泉、明石、須磨、千代田(以上三等巡洋艦)。
 壹岐(一等海防艦)。鎮遠、見島、沖島、扶桑(以上二等海防艦)。金剛、比叡、高雄、天龍、葛城、大和、武蔵、松江(以上三等海防艦)。筑紫(一等砲艦)。
 磐城、宇治、摩耶、島海、赤城、伏見、隅田(以上二等砲艦)。
 姉川、滿州、八重山、千早、龍田(以上通報艦)。
 韓崎、豐橋(以上水雷母艦)。
 敷波、卷雲、春雨、村雨、朝霧、有明、吹雪、霞、潮、初霜、神風、彌生、子日、如月、朝風、夕暮、若葉、朝潮、白雲、霞、皐月、雷、電、曙、連、朧、叢雲、夜霧、不知火、陽炎、薄雲、文月、山彦、白露、白雪、松風、春風、時雨、朝露、疾風、追風、夕風、夕立、三日月、野分、霧、白妙、初春、初雪(以上驅逐艦)。
 總計 百十四隻、排水量三十八万三千三百〇噸。

右の内、明治三十七八年戦役中の戦利艦と捕獲艦との現名及び舊名を擧ぐれば、左の如し。

石見(アリヨール)、肥前(レトウザン)、相模(レムウエイト)、周防(ホビエダ)、丹後(ホルタワ)、津輕(バルラダ)、宗谷(ワリヤーク)、壹岐(インベラートル)、ニコライ一世)、見島(アドミラル、セニヤウイン)、沖島(ゲテラル、アドミラル、アブラキシン)、松江(スンガリ)、姉川(アングラ)、敷波(ガイダマック)、卷雲(アサドニック)、皐月(ヒエードウイ)、文月(シールメイ)、山彦(レンテリメイ)、以上戦利艦十七隻。
 滿州(マンチュリア)、韓崎(エカテリノスラウ)以上捕獲艦二隻。

製造中の驅逐艦名 夕暮、卯月、水無月、長月、菊月。

水雷艇

水雷艇は、明治三十八年十二月現在の總數七十八隻、排水量七千十七噸である。この中、横須賀鎮守府に小鷹、吳鎮守府に福龍、佐世保鎮守府に隼、真鶴、鶴、千鳥、雁、蒼鷹、鶴、燕、鵜、鷗、鷗、雲雀、雉、鷲、白鷺と名づけたものがあって、その他は、第一號、第二號、第三號等の名稱になつてゐる。

この他、潜航艇は、第一號から第七號まで七隻ある。

第十 姫路	第九 金澤	第八 弘前	第七 道北海	第六 熊本	第五 廣島
第八 姫路 第三 福知山	第六 金澤 第三 一富山	第四 弘前 第十六 秋田	第十三 旭川 第十四 旭川	第十一 熊本 第三 鹿兒島	第九 廣島 第三 山口
第三 福知山 第九 姫路 第十 鳥取	第五 金澤 第七 富山 第七 金澤 第六 鯖江	第十七 秋田 第三 弘前 第五 青森	第三 札幌 第三 旭川 第三 旭川 第六 旭川	第六 鹿兒島 第四 熊本 第十三 熊本 第三 熊本	第十一 廣島 第十一 廣島 第十一 廣島 第十一 廣島
第十 姫路	第九 金澤	第八 弘前	第七 旭川	第六 熊本	第五 廣島
第十 姫路	第九 金澤	第八 弘前	第七 旭川	第六 熊本	第五 廣島
第十 姫路	第九 金澤	第八 弘前	第七 旭川	第六 熊本	第五 廣島
第十 姫路	第九 金澤	第八 弘前	第七 旭川	第六 熊本	第五 廣島
第十 姫路	第九 金澤	第八 弘前	第七 旭川	第六 熊本	第五 廣島

陸軍常備團隊配備表

第四 大阪	第三 名古屋	第二 仙臺	第一 東京	近衛	師團
第七 大阪 第三 和歌山	第五 名古屋 第三 津	第三 仙臺 第三 山形	第一 東京 第二 東京	第一 東京 第二 東京	旅團
第八 大阪 第八 和歌山 第七 大阪	第六 名古屋 第六 岐阜 第六 名古屋	第四 仙臺 第五 山形 第五 山形	第一 東京 第一 東京 第一 東京 第三 東京 第三 東京	第一 東京 第二 東京 第三 東京 第四 東京	步兵聯隊
第四 大阪	第三 名古屋	第二 仙臺	▲第一旅團 ▲第二旅團	▲第一旅團 ▲第二旅團	騎兵聯隊
第四 大阪	第三 名古屋	第二 仙臺 第二 山形	▲第一旅團 ▲第二旅團	▲第一旅團 ▲第二旅團	野砲兵聯隊
第四 大阪	第三 名古屋	第二 仙臺	第一 東京	●近衛東京 ●鐵道聯隊	工兵大隊
第四 大阪	第三 名古屋	第二 仙臺	第一 東京	近衛 東京	輜重兵大隊

第十一 善通寺	第十二 小倉	第十三 高田	第十四 宇都宮	第十五 豊橋	第十六 京都
第三 善通寺 第十 徳島	第十二 小倉 第三 福岡	第二 高田 第十五 新發田	第二 宇都宮 第二 水戸	第十七 豊橋 第二 静岡	第十八 敦賀 第十九 伏見
第三 丸 第三 徳島 第四 高知 第四 善通寺	第三 小倉 第三 福岡 第七 大分	第三 新發田 第十 高田 第十一 松本	第五 高崎 第六 宇都宮 第九 水戸 第十二 宇都宮	第六 静岡 第十四 豊橋 第十六 濱松	第九 敦賀 第九 大津 第十六 伏見 第十六 奈良
第一 善通寺	第十二 小倉	第十七 高田	第十八 宇都宮	第十九 豊橋	第二十 京都
第一 善通寺	第十二 小倉	第十九 高田	第二十 宇都宮	第二 豊橋	第三 京都
第一 善通寺	第十二 小倉	第十三 小千谷	第十四 水戸	第十五 豊橋	第十六 京都
第十 善通寺	第十二 小倉	第十三 高田	第十四 宇都宮	第十五 豊橋	第十六 京都

女子日本地理参考書 をばり

第十七 岡山	第十八 久留米
第三 岡山 第三 松江	第二 久留米 第三 大村
第四 岡山 第五 松江 第五 濱田	第四 久留米 第五 佐賀 第六 大村 第六 久留米
第三 岡山	第三 久留米
第二 岡山砲隊	第二 久留米砲隊
第十七 岡山	第十八 久留米
第十七 岡山	第十八 久留米

【備考】右は、明治四十年十二月一日以後實施さるべきものであるが、未だ公に發表されておないから、確實のものとは断言されない。

253
15
560

明治四十年九月五日印刷
明治四十年九月十日發行

著作
所有

著作者 小林 杖吉

發行者 大塚 宇三郎

發行者 田中 太右衛門

印刷者 吉田 由治郎

大阪市南區安堂寺橋通四丁目三三四番屋敷

大阪市南區安堂寺橋通四丁目二四二番屋敷

大阪市四區立賣堀裏町一八八番屋敷



高等女學校參考叢書

全部十五冊
定價各十五錢
郵稅各貳錢

日本地理

西洋歷史

生理衛生

外國地理上

動物學

日本文典

外國地理下

植物學

算術上

日本歷史

化學鑛物

算術下

東洋歷史

物理學

作文